

川柳塔

昭和十四年一月九日 第三種郵便物認可
平成二十八年九月一日発行(毎月一日発行)
創刊大正十三年 通卷一〇七二号



日川協加盟

No.1072

九月号

第22回 川柳塔まつり

と き 平成28年10月1日(土)

開場：午前11時 出句締切：正午 開会：午後1時

ところ ホテル・アウィーナ大阪 4階 金剛の間

大阪市天王寺区石ヶ辻町19-12 (近鉄上本町・地下鉄谷町九丁目下車) 電話 06-6772-1441

《 同人総会・議事 》午前10時より

平成27年度事業経過報告・同決算報告・会計監査報告

平成28年度事業計画・同予算案・役員人事・その他

《 各賞表彰式・記念句会 》

表彰式 路郎賞・川柳塔賞・愛染帖賞・檸檬賞・一路賞・各地柳壇賞

おはなし 「老いを詠む」 川柳塔社 木本朱夏氏

兼題 「芸」 奈良居谷真理子選

「マニア」 島根竹治ちかし選

「うっかり」 和歌山三宅保州選

「届く」 大阪山本希久子選

「ぶらり」 鳥取新家完司選

事前投句 「みどり」(9月1日必着) 川柳塔社 主幹 小島蘭幸選

◎各題2句・勝手ながら欠席投句は拝辞させていただきます

出句締切 正午(午後5時頃終了予定) ※各題の「天位」に賞呈

◎会費 2,000円(当日頂きます) ご昼食は各自でお済ませください

◎呈 記念品

《 懇 親 宴 》

と き 平成28年10月1日(土) 午後5時～7時

ところ ホテルアウィーナ大阪 3階 葛城の間

☆会費 7,000円(会席料理) 先着申込み 130名様

☆宿泊 ホテル・アウィーナ大阪 8,000円(朝食付き)

* 事前投句および懇親宴のお申込はチラシに刷りこみのハガキ(ご希望の方は事務所)にて
9月1日(木)までに本社事務所宛、お送りください。

* 懇親宴のご送金(句会費除く)は同封の振込用紙でお願い致します。

主催 川柳塔社

大阪市天王寺区大道1丁目14-17-201
〒543-0052 ☎・FAX 06-6779-3490
振替 00980-4-298479

鶴彬こころの軌跡

小島 蘭 幸

久し振りにバイクに乗ろうと、エンジンをかけましたら、バイクの中に美しい形のままの、みんなの骸がありました。その骸をてのひらに載せて見つめていましたら、ふっと29歳の若さで獄中死した鶴彬の顔が浮かんできました。そして久し振りに、神山征二郎監督の鶴彬100周年記念作品「鶴彬こころの軌跡」DVDをじっくりと見る事が出来ました。映画は、暗い日本の荒波のシーンから始まります。鶴彬は一九〇九年（明治42年）に石川県河北郡高松町で生まれています。本名は喜多一二。映画の中で鶴彬を演じているのは、池上リョウマです。池上はこの映画の中で鶴彬の作品31句を朗読しています。

鶴彬の作品

可憐なる母は私を生みました
暴風と海との恋を見ましたか
生き難き世紀の闇に散る火華

枯れ芝よ団結をして春を待つ
軍神の像の真下の失業者

出征の門標があつてがらんどうの小店

惨敗の血にいろどつた組合旗

万歳とあけて行つた手を大陸へおいて来た

手と足をもいだ丸太にしてかえし

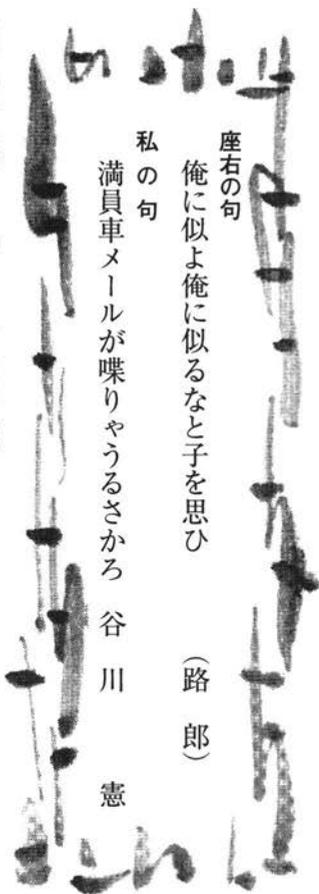
胎内の動き知るころ骨がつき

井上剣花坊を高橋長英、井上信子は檉山文枝が演じています。

一人去り二人去り仏と二人 井上 信子

私はDVDを見終つた後、しばらくその場から立ち上がれませんでした。戦争へと向かう激流に立ちふさがる若き川柳作家の魂の叫びがそこにあつたのです。DVDは、今でも販売されています。是非見て頂きたいと願います。鶴彬の句碑は、金沢市、かほく市、盛岡市にあります。大阪城公園にもあります。

鶴彬顕彰碑第8回碑前祭は、9月14日、午前11時より開催されます。又、あかつき川柳会創立15周年記念川柳大会は、9月19日、エルおおさかで開催されます。



座右の句

俺に似よ俺に似るなと子を思ひ

(路郎)

私の句

満員車メーブルが喋りやうるさかろ 谷川 憲

川柳塔 九月号目次

題字・中島生々庵／表紙きり絵・前田 尋「神戸北野町」

■巻頭言 鶴彬こころの軌跡……………	小島 蘭 幸 ……(1)
第一回「山の日」記念全国大会……………	早川 遯 行 ……(2)
川柳塔(同人吟)……………	小島蘭幸選 ……(4)
川柳塔の川柳讃歌 ⑩……………	木津川 計 ……(43)
自選集……………	中居 善 信 ……(44)
■エッセイ 鮎のささやき……………	中居 善 信 ……(47)
温故知新……………	中居 善 信 ……(47)
水煙抄……………	西出 楓 楽 選 ……(48)
新川柳鑑賞 ⑤⑤……………	麻 生 路 郎 ……(68)
英語 de Senryu ⑤⑦……………	吉村 侑 久 代 ……(69)
誹風柳多留一二篇研究 39……………	吉村 侑 久 代 ……(70)
愛染帖……………	新家 完 司 選 ……(72)
橘高薫風句抄……………	新家 完 司 選 ……(76)

八月十一日

第一回「山の日」記念全国大会

長野県松本市 上高地

早川 遯 行

十六番目の国民の祝日として「山の日」は誕生しました。

「山に親しむ機会を得て山の恩恵に感謝する」の趣旨のもと、平成二十六年五月二十三日に、国民の祝日に関する法律改正案が国会で成立し、平成二十八年一月一日に施行され、八月十一日が国民の祝日「山の日」となりました。

世界でも初めてとなる「山」に関する「国民の祝日」は、日本のみならず、海外からも大きな関心を集めることになりました。

記念すべき第一回の記念大会は、長野県松本市と、上高地にて開催されます。

長野県は、県土の八割を森林が占める森林県であり、全国に二十三ある三千メートル峰のうち十五座を有する日本一の山岳県でもあります。

中でも松本市は、槍ヶ岳、穂高連峰、

樽様抄	「前触れ」	北野哲男・安土理恵共選	……	(77)
一路集	「受ける」	川本真理子選	……	(80)
	「トライ」	福田好文選	……	(81)
初歩教室	「色」	山口光久	……	(82)
川柳塔鑑賞		高瀬霜石	……	(84)
水煙抄鑑賞		丹下凱夫	……	(86)
せんりゆう飛行船	⑥9	新家完司	……	(87)
インスピレーション	ナビ	印象吟	……	(88)
八月本社句会		大西泰世	……	(89)
句会燦燦		岩崎眞里子	……	(94)
各地柳壇	(佳句地十選)	寺川弘一・倉益一瑤	……	(95)
九月各地句会案内			……	(108)
柳界展望			……	(110)
■編集後記	(ひとこと／内田志津子)	朱夏・まつお	……	(112)

座右の句

未完成だから楽しいことばかり

(大輪)

私の句

酒は駄目医者者の宣告まだ内緒

藤塚克三



乗鞍岳など名だたる名峰の九座を占める日本を代表する山岳都市でもあります。松本市の面積はおよそ九百八十万平方キロメートル、人口二十四万三千人が山と向き合って暮らし、上高地など年間百三十万人を超える観光客が訪れる山の一大拠点でもあります。

そんな折、私にも何かお手伝い出来ることはないかと、松本市の「山の日」記念全国大会実行委員会事務局に問い合わせしたところ、一昨年喜寿を記念して再発刊した文庫本「山の句集 独標」を提供することになりました。

これは初版に掲載した山の句に、その後の作品を加えた百七十七句、雑詠三百九十三句。ほかに山に関する（主に上高地を題材にした）エッセイや歌詩などを集めて編纂したものです。

出版社との販売契約を破棄し、各書店から回収したものを含めて七月上旬記念大会事務局へお届けいたしました。

早速、ウエストン祭を始め、各山小屋に配本、紹介して戴けるということですが、どんな形であれ記念すべき大会に参加出来たこと、山を愛する多くの人達にも読んで戴けること、嬉しく思います。



小島蘭幸選

松山市 宮尾 みのり

太く短くこんなに愛されてた君よ

逆縁へ哀だけ深くなる日々よ

どちらにも短所があつて仲が良い

かつこい傘では梅雨はしのげない

物忘れ二三日探さないことに

待合室で読んだ雑学すぐ忘れ

出雲市 竹治 ちかし

ルールブック開けば妻の顔が出る

老いのする仕種気付かずしてしまふ

物故者という名の級友も居る絆

孫の為付けた手すりが役に立つ

お亡母さん幼児は古稀になりました

咳ばらい一つ似てきて亡父の齢

倉吉市 牧野 芳光

六畳の海も容易に泳げない

幻聴が運んでこない寝め言葉

お遍路さん少しは軽くなりました

千年の楠風を呼んでいる

角栄を今も待つてる観光地

日本語が通じる国でさえ迷う

藤井寺市 太田 扶美代

入道雲そろそろ父の忌が近い

ふる里というスパイスを手離さぬ

大好きな町で自転車漕いでいる

一つの西瓜一緒に食べるのはご縁

抱いていたのは泡沫だったかも知れぬ

目覚めても目覚めてもまだ雲の上

橿原市 居谷 真理子

亡き人の声が聞こえる黒電話

ピノキオの鼻は正直すぎただけ

背後から声「生き急げ」「生き急げ」

大空はいたって真面目炎暑の日

白い指ブルーチーズに赤ワイン

過去流すために都会に川がある

弘前市 高瀬霜石

通勤電車朝からみんな疲れてる
タンス預金しても不安は埋まらない
高温多湿食糧難にやならないぞ
知ってますよ自分が亀なことくらい
ビールはクイクイ 血液はドロドロ
曇のち晴でとにかく生きてきた

松江市 石橋芳山

高い塀築いて虚構へと逃げる
素潜りの古本屋から浮上せず
割り切れぬ男は腐るのが早い
天か地かどこにこの身を横たえる
親族に突然混じる唐辛子
寂しさがいつ気にかけて赤とんぼ

和歌山市 木本朱夏

止まぬ雨はないアダージョを聴きながら
泣きたくてあなたの肩を借りました
おとうとの行年おもう蜚籠
眉尻はきりりと上げて花野まで
わたくしの夏がはじまる向日葵よ
声を亡くした小鳥のように踞る

大阪市 藤田武人

ごめんねが言えずに泣いてばかりです
疑いが確信になる砂の城
ただいまと言えば脳までリラックス

満員の電車に蝶が乗ってきた
人間の進化を拒む尾てい骨
田畑の香優しく入る汽車の窓

大阪市 栃尾奏子

抱かれない後悔だつてあるのです
逢いたくてこの世の端に立つてみる
落日の向こうは彼岸へと続く
私はずっとあなたが好きでした
私も秋を繼えばアクトレス
もう少しあなたのヒロインでいよう

鳥取市 岸本宏章

ゆとりある人は並ばぬくじ売場
商魂に負けて青汁飲んでみる
あなたしかできぬと言われ引き受ける
アベノミクスで儲けた人はおとなしい
倍の手間かける覚悟がいる手抜き
貧富の差じわり広がる世が怖い

鳥取市 岸本孝子

田舎者だから地下街には行かぬ
飲み会があるから続く趣味の会
目分量大雑把でも味はいい
三食を待つ幸せにふと気付く
家計簿にジワリと効いた無駄遣い
病みつきになってしまったモンブラン

岸和田市 岩佐ダン吉

腹すえて私を裁くことにする
手帳には恐い私が棲んでいる
人間になかなか染まらない私
責任は私とだけは言うている
大勢に私の旗が千切れそう
力むたび僕が見えなくなっている

沖繩県 森山文切

約束の場所は土管のある空き地
鉛筆の芯だけ溶けている真昼
十字架を背負っていると見せ掛ける
舌先で道を探って来たのかい
念力を得ても詩人になれません
生意気なセリフ節目になりました

米子市 竹村紀の治

おかえりの声したようなそんな気が
此の間掃除したのにもうお盆
配偶者有りに○して苦笑い
融通が利かぬスマホの石頭
足腰の衰えカバーする酒量
採尿採血 日常の証明

尼崎市 藤井宏造

初蝉を遠くで聞いた梅雨晴れ間
面舵へどんどん進む日本丸
夏の夢サマージャンボで見るとする

恋なんて三分あれば覚めちまう
ネジ一本ゆるんでしゃべり止まらない
トーストの焼き色今朝も文句なし

桜井市 安土理恵

水色の水玉着てるのに暑い
日曜くらいどうぞひとりにしておいて
荒むころいつかおさまる小糠雨
丁寧なたたむ耐えた日の記憶
身の内のおんな焦っている痛み
このまんま流れていこう笹舟と

河内長野市 山岡富美子

もう急ぐこともないのに花筏
シドニーの冬をまとってメール着く
ハルカスの書店の中にある迷路
道連れの蝶は軽やか石畳
急な雨シャッター街を駆け抜ける
テリトリー整形外科がまた増える

和歌山市 土屋起世子

お化粧が上手で孫が翔んでいる
有り難いこの町にまだ八百屋ある
もう背伸びしない靴箱整理する
お日様に貰った影は離れない
バイタリティー私に湧いて独り住む
完熟の味を覚えて老い楽し

さいたま市 星野育子

あの手この手投票率は上がるか

人生の岐路だったかも十八歳

職業欄普通の主婦と記入する

「レモン哀歌」を口遊む暑氣払い

言い訳をする人と目は合わせない

東京都 川本 真理子

くもの巢も含めて梅雨の景となる

梅雨空を突き抜けていく笑い声

柏手に笑い声乗せ少女達

夏がきて少女のままの顔でいる

いいねいいね自分へとつぶやき送る

横浜市 菊地 政勝

飽食に心の餓えが埋まらない

競争も自慢もしないコップ酒

老いふたり残り時間は神まかせ

見栄を捨て素直に負けを受けとめる

心から詫びて過去とは縁を切る

富山市 島 ひかる

道後から帰り充実感に満つ

二句入選秀を貰ったほどの幸(天野風柳賞)

若返り特効薬の好奇心

戴いて食す寸志のサクランボ

偽りの善か念珠を持ち歩く

可児市 板山 まみ子

脳味噌も体と同じたるみぶり

もめ事も普段の顔で何げなく

わずかでも顔は出しとく義理があり

ハモ見つけ献立変える生ビール

あの顔が笑えば今日はわたし勝ち

愛知県 早川 遯行

低山と侮るなかれ深い森

実に不思議な男という生きもの

年金日ぐらい鰻を食べなくちゃ

寝た切りになってもペンは持つだろう

若者が日本の未来決める日だ

大山市 金子 美千代

自然治療待つていられぬスケジュール(ハワイ旅行)

憧れのハワイ嫁との二人旅

空港審査テロを扱うような目で

真珠湾忌まわしい過去直視する

私のドジを肴に盛りあがる

大山市 関本 かつ子

偉いなあ桜井君のお父さん

三階のC席だつていい音色

赤線を引いて自分に言い聞かす

我が家にもゴホンゴホンと詐欺電話

宇宙人かな金髪につけ睫毛

京都市 清水英旺

誕生日来るたび何かすり切れる
あの頃はハッピーだった誕生日
水を撒く飢えた庭木に心にも
暑さばて防止 膳にたつぷり夏野菜
非通知の電話出ないと決めている

京都市 高島啓子

素手ですとまず見せておく裏表
朝刊の享年を見る癖がつく
猛暑なりはしゃぐテレビは消しておく
ニュースだけまだふざけてはないテレビ
息子来て生きいきとする仏間

京都市 榎本宏子

義母手作りベッドカバーで不眠症
新鮮な気分で入りたいホーム
胸の内も聞いてほしいの介護ロボ
口下手が笑みと手振りでおもてなし
好きなんやこつちを見ては鳴くカラス

京都市 三宅満子

猛暑日を凌ぐ工夫も策が尽き
コンチキチン暑い京都の風物詩
桧扇を活けてもてなすハモ尽くし
衣替えまた捨てられず秋を待つ
しんどいな毎日休みの定年後

長岡京市 山田葉子

認知症なのに敬語が美しい
世間知らず鍛えてくれたハブニンゲ
おっとり見えて頭の回転は早い
模様替えしたいが捨てるのが苦手
イチローのスタンス微動だにしない

八幡市 今井万紗子

父の日と一緒にされる誕生日
迷わぬようわたしと歩く杖を買う
何時ものこと貴女を抱く手空けてある
空豆がふつくら炊けた明日は晴れ
ポストまで鳩とおしゃべりして帰る

大阪府 桑田ゆきの

欲一つ減らせば顔が丸くなる
通夜の窓螢火一つ纏い付く
ほととぎす生きよと告げる暁の空
塔頭に猛暑の西陽まだ残る
一升瓶据えて男の美学とす

大阪府 野田栄呼

老若を問わずに今日が新しい
昭和魂動けるうちは無理重ね
壁掛けの花一輪でなごむ部屋
遺産分け見えない絆顔を出す
すんなりと鐘が鳴る丘口ずさむ

大阪府 米澤 俣子

ふたりの運足して今日まで生きてきた

穏やかな暮らしふたりのアンダンテ

呑みこんだ本音は消化不良です

文明の利器を読めない老眼鏡

お疲れさま日焼けの帽子待つビール

大阪府 池上 清治

初盆でやさしい叔母を思いだし

故郷の名品届く盆休み

投稿日書く暇もなく次が来る

問い合わせ今混んでると待たされる

待ち遠し孫の車で旅する日

大阪府 井丸 昌紀

先手必勝だと信じてた

孫の手が微妙に短くて困る

七三に分けると〇〇がばれる

猛スピードの自転車ルール御存じか

紫陽花が嫌われる訳知ってます

大阪府 内田 志津子

友の死を風が報せてくれた朝

一雨の来そう樹海の稲光り

成長に嬉し淋しいジジとババ

泥水も美酒も飲み干すいいお顔

些細なこと許す気にする草むしり

大阪府 宇都 満知子

水風船せつせと孫に作りやる

快適になった暮らしが首しめる

売れ残りのたな落ちスイカ甘いこと

のんびりとスイッチオフのしまい風呂

喜んでピンチヒッターするばあば

大阪府 江島谷 勝弘

フトコロを温めてくれる人おらぬ

あれだけでも飲んで本音を言わぬヤツ

古稀だから右も左も行ってみよ

旨いのだキユウリをツナで和えるだけ

株主はなぜ原発がいいんだろ

大阪府 榎本 日の出

国会は居眠りしても許される

もう八十まだまだまだ生きる生きられる

口ポットと暮らす覚悟は出きてない

度忘れか認知症かでもめ出した

金庫買入るものない総理殿

大阪府 榎本 舞夢

グループ旅後行けるのは幾度か

御柱祭りや鹿と対面す

帰りには習った料理をいただいて

エリザベス一家明るい誕生日

言葉尻削り削ってこの一句

大阪市 大川 桃花

タイガースの不調メールで嘆き合う

美容院シニア割引きなものか

大人がほっと出来るレトロな遊園地

銃社会疑心暗鬼が止まらない

万年も生き方変えぬ兜蟹

大阪市 奥村 五月

自販機で小銭集めてワンカップ

ミサイルで飢餓の子供は救えない

嫌なとこ父に似てると他人は言う

録画見てアウトがセーフなる時代

十八の孫も期待の選挙戦

大阪市 笠嶋 惠美

結果良性やっとお風呂の許可が出る

ふんばつのお造りその日食べ忘れ

おかげ様都政の事が良くわかり

まあいいか声に出したら気が晴れた

学年会師は九十七意気一緒

大阪市 川端 一步

幸せのあかし一年早過ぎる

ふところの深い友だちまた先に

満月にことばはいらぬ酒がよい

密やかに接ぎ木の花は遠慮気味

牛乳を飲んでも背いが縮んで来

大阪市 熊代 菜月

はげましの言葉並べて胸痛む

茶柱の占い吉で友と逢う

老舗つぐ男の進む道一つ

長生きがめでたくも有り無くもあり

座りだこ出来ても一句浮かばない

大阪市 古今堂 蕉子

絵に描いた餅になったか安全も

落雁の旨さが分かる貴重な子

マナーモードオンに入れたらオンのまま

落着かぬ日々ウィンブルドン終る

喜怒哀楽グレーとピンクに願います

大阪市 近藤 正

首都の顔お色直しに暇が要り

思惑が火花散らした夏の陣

同じ夢みんで見れば花は咲く

沖繩は国会議員制覇する

EU離脱直撃されたのは日本

大阪市 坂 裕之

三代揃って今日も晩御飯

いい事がいっぱいあった梅雨晴れ間

好き嫌いわがまま言って元気です

はつきりと返事はせずにもまた明日

次の手を打って出ないと攻めてくる

大阪市 佐藤 忠 昭

控え目な化粧に惚れて結果良し
控え目な発言なれど射る
無口でも友達沢山持っている
スッピンで正論語る姫恐い
富士山も美人も似合う薄化粧

大阪市 田 浦 實

朝のモカ脳にノックをしてくれる
鼾にも会える日もある街散歩
浄土へは手ぶらで来いと阿弥陀さま
若冲の虫食い葉っぱ生きている
叱る母声はでかいが優しい目

大阪市 谷 口 義

反面教師の資格を持ってます
ざくろ弾けて樹木希林になった
眠剤を飲んで直角にねむる
公園の入口までの散歩道
それなりに忙しいそれなりに暇

大阪市 津 村 志華子

万緑に生きる気魄が湧いてくる
宇宙にも建つかも知れぬケアハウス
マッチ箱そんな暮しで満ちている
サンデーはてんでバラバラ好き勝手
エリートもきつねうどんを食べてはる

大阪市 津 守 なぎさ
ポトタワージューンブライドを華やかに
熊本をめがけ無慈悲な雨しとど

選挙戦18歳をあぶりだす
夕暮れの散歩常連増える涼
次つぎと実るゴーヤに励まされ

大阪市 寺 井 弘 子

ひとり膳一汁一菜旬の味
封印をした思い出が重すぎる
晩学の机体感分かち合い
カラフルな待ち針眠るお針箱
ひとときを無心に遊ぶ座禅組む

大阪市 寺 本 実

ペンネーム決めて終った私小説
繰り返しあなたを写すボタン押す
底なしの沼と聞いたらのぞきこむ
戒名はあの世で使うペンネーム
震災の屋根に豪雨がうちつける

大阪市 中 井 萌

マイナンバー賞罰は無し資産なし
明日ありと思えぬ地震国に住み
ロボットを手伝ってます二度の職
日記には特には無しと書ける幸
クラス会出向く夫の背が眩し

大阪市 原田 すみ子

面白いが時間忘れるほどじゃない
小心を眉尻あたりほやかにして
退屈な日々も幸せの一面
ビールに合うおかず毎日作り出す
長生きは望まず薬は忘れず

大阪市 平嶋 美智子

心身に暗示をかけて百めざす
百めざす二十年間どう生きる
歳の順逝きたいものと兄が言う
ヘルパーさん私の気持見抜きはる
ヘルパーさん来る日埃を拭いて待つ

大阪市 藤原 千恵子

ちよつと来て部屋のを空気を交えてく子
揚げ物は私小麦粉君パン粉
あーあそうかそんな見方もあったんだ
言いたい事言えばページがめくられる
音も無く好きな事する昼さがり

大阪市 升成 好

乾杯をつや消しにする紙コップ
み仏の手のひらにある千の空
褒められた誤解そのまま解かずおく
誰よりも短い女房との会話
新芽立つ地球が唄を歌い出す

大阪市 松尾 柳右子

良いテレビ見ている中に電話くる
めいそう中宅配便が届けられ
クーラーに感謝している脳活性
爪切りに四苦八苦する老齢化
路地裏に雀三羽があそんでる

大阪市 吉内 タカ子

梅雨曇りウォーキングして一票を
転んでも神のお告げだ残り火を
失敗も我が身のくすり感謝する
雨蛙自然に強い暑気見舞
カラオケは足を鍛えて年忘れ

大阪市 若本 安代

朝顔の一番咲きは海の青
五感なお研ぎ澄まされる風鐸音
田には田の森には森の風の声
十八が少し背を押し風動く
呪文から目覚めてほしいテロリスト

堺市 奥 時雄

親類が水臭くなる代替り
湧き水は神の恵みに相違ない
全員が喜ぶ人事できません
八十路坂スイッチバック繰り返す
延命のスイッチ切れと言つてある

堺市 柿花和夫

あの頃の苦勞を懐かしむゆとり
柄にもなく禁酒禁煙続くつ
断捨離を生き甲斐にして古希と喜寿
危機回避おとなの恋のUターン
米を研ぐ妻の姿に隙がない

堺市 加島由一

いま恋をしている死ぬと泣かれそう
朝顔に君の名をつけ呼んでみる
何歳になっても恋は切れないよ
この恋の終わりは旅に出る予定
手探りでスイッチ探す熱帯夜

堺市 源田八千代

初盆へ供花の持ちを確かめる
末っ子で次次送る兄と姉
暑気当り断熱材の部屋に居て
嬉しいなあ嫁娘孫らとミュージカル
名は体を水泳選手夏海ちゃん

堺市 坂上淳司

終活に戸建ての家と泣き別れ
荷出し後の空き家雑巾掛けをする
手入れた松の木撫でて家を出る
門標を外した後は振り向かず
マンションのベッドもちよいといひもんだ

堺市 澤井敏治

金婚式お墓の準備考える
ダイヤ改正気づかぬままの傘寿喜寿
愛足して仕上げた味は星三つ
主夫業お手上げ長年ありがとう
玉子酒ほくの風邪にはいつも効く

堺市 遠山唯教

葉刈り仕事終えてさっぱり湯にはいる
律義に生きもう一花を咲かせたい
ままならぬ天が定める人の縁
粹人が元気な上に老け込まず
眷族のそばで全うする天寿

堺市 内藤憲彦

布団干し今日の幸せふくらます
熱弁をふるっているがノーばかり
政治とカネまたもや最後袋とじ
みずから温かいもの贈られる
退屈でも忙しくても酒二合

堺市 村上玄也

お喋りは好きでもスピーチは苦手
熱愛と報じられたらすぐ破局
一日が退屈なのにすぐ過ぎる
休診日出かけるところがうて暇
備え出来てないのに真夏日が来たる

堺市 矢倉五月

水茄子の地でしあわせな朝ごはん
アルコールデビュー正直に二十歳

お惣菜売場おひとり様と呼ぶ

諸事情があつて雨でもお洗濯

こんな時頼れる男はん欲しい

池田市 栗田久子

節々の痛みあしたは雨だろう

あらかじめ聞いていたからしようむない

いざの時の構え少しは考える

年齢にこだわる前に背を伸ばす

夏送る暦が抱いている重さ

和泉市 横山捷也

寂しくて虎穴覗いて見たくなる

ひと言が多いが味のある人だ

縄のれん噂通りに延びた票

お守りのつもりで妻を連れ歩く

着替えた妻シャキツとした背中

茨木市 島田誠一

改憲のモードへ鳩が騒がしい

パソコンの指で操るテロの闇

騙したのはそつちと笑う箸二膳

オレオレの手口哀しい親心

祭囃子DNAが疼き出す

茨木市 藤井正雄

世事うとく現代用語事典買う

くに訛り二人楽しく屋台酒

丸腰で話をつけにくる勇氣

激励と苦言恩師の祝い酒

内緒ごと椅子ごと寄つてくる仲間

大阪狭山市 矢野 梓

梅雨最中カビ対策の香を焚く

雷鳴のけじめないまま梅雨明ける

水中花悲しい時も咲いており

趣味の友電話夫にばかり鳴り

親よりも子の年金が気掛かりに

貝塚市 石田ひろ子

振り返るゆとりを貰う同居して

自転車スマホ睨んで避けている

手紙より電話喜ぶ里の母

おばあちゃんお元氣そうね夏帽子

夏空をリボンで結ぶ百日紅

河内長野市 植村 菫代

デパートのついでに頼む美味い物

食事情こうも変つた七十年

有り難いともこれでよいのかとも日本

今日あつて明日のことも考える

自分で出来ないから考えることばかり

河内長野市 大島 ともこ

シルバーの微笑み温いべアルック
不可解な笑みで追いつめられる僕
イエスノーはつきりしてよむず痒い
他人だから優しくできることもある
亭主関白掲げる夫は愛妻家

河内長野市 梶原 弘光

制裁が効いているよないないよな
播き時の幅有り過ぎる説明書
ギラギラした顔胸像にそぐわない
酒飲みのスタート母の卵酒
たまごかけごはんに限る空きっ腹

河内長野市 木見谷 孝代

前触れなく芯が腐っていたりんご
痛いなら痛いと言って手を上げて
迷惑をかけぬつもりの子ちゃん坊
国訛心放たれよくしゃべる
延命処置しない相談今のうち

河内長野市 黒岩 靖博

被介護者が認知の親を介護して
熟年を太く楽しく生きてやる
隠れ宿ほっこり二人むかい膳
夫婦の絆愛燦燦の人生路
三姉妹分捕るほどのない遺産

河内長野市 谷 久美子

新緑に負けじと老いも発芽する
物差して計り切れない無の境地
知恵回る孫のつむじは左巻き
我武者羅に生きてゆつくり黄昏れる
三世代六人で行く参院選

河内長野市 辻村 ヒロ

スケジュール天気予報ですぐ変わる
世間体迷う心に輪をかける
蝉の聲年中耳で飼い馴らす
元氣だど見掛けで決める世間の目
何周目追っ掛けごっこ草を抜く

河内長野市 藤塚 克三

雲つかむ話に敢えて今は乗る
翌檜あすなの一途なパワー俺にくれ
麻酔醒めスロー目線で妻探す
弱虫ね付いて来いとは言えないの
ゴキブリも妻一撃でぺっちゃんこ

河内長野市 松岡 篤

見栄捨ててランク下げると楽ですよ
先ずごめんくどい言い訳要りません
手探りの新米ママに努力賞
今ごろになって好きとは罪な人
猫よりもましやると言い家事をする

河内長野市 村上直樹

祈りつつ活断層の上に住む

期限切れドサリと捨てて気にもせず

昏迷の世界の空はいつも雨

紫陽花の露に宿ったような恋

いよいよとまだまだまだ闊ぎあう八十路

河内長野市 山室光弘

黒髪を切って反省出来ぬ人

バイキング食いしん坊はてんこもり

現役終えてスロライフの快適さ

ふところと相談しつつ舐める酒

一言で目から鱗が二三枚

岸和田市 雪本珠子

ありがたい言葉に元氣もらつて

輝いたあの頃じよじよに風化する

あの頃は楽しかったと猫が言う

溜息が部屋の空気を揺らして

娘の遺影幸せそうな顔してる

四條畷市 吉岡修

絞ってもこんなていどの知恵袋

ブームには鈍感力で耐えている

皆勤の記録熱など言うとなん

照準はピタリ トップの席が空く

ブルンブルン想像力が止まらない

吹田市 太田昭

般若心経まるうつしした月明かり

むし返さぬように昨日を折りたたむ

いつときをビールで冷やすクールビズ

削除キー押してみたらと猫が言う

菜を刻む妻はしつかり城守る

吹田市 大谷篤子

美しく老いる事まだ忘れずに

幸せですか心のドアをノックする

柔らかな視線にいつも癒される

人間の弱さを包み込む声よ

魔法を掛け夢の国から抜け切れず

吹田市 木下敏子

継続をして中指の固い胼胝

ひとり住む玄関赤いバラ活ける

姉の杖貰って帰る淋しい日

よかったと思うあなたに逢えたこと

ストレスが溜まりパンクした夕べ

吹田市 須磨活恵

淋しくてふと父の声母の声

四面楚歌静かに明日の風を待つ

泣き面に同情なんかほしくない

蝉しぐれ風鈴の音絶えたまま

若い日の思想が机上で干涸びる

吹田市 野下之男

この株価神様だけが知っている
投票にやっぱり後悔ついて来る
お寺だよもめる話が判らない
弁当に文句も言えず静かです
カラスでも見渡す場所がのぞましい

吹田市 山本 希久子

消し忘れたメールを月に覗かれる
つまづいたのはほんの少しの段差
長い一日休刊日休肝日
ラ・フランスに憧れ持っているりんご
信号は点滅八十路急がねば

高石市 浅野 房子

被害地を思って口にせぬ暑さ
エアコンに馴れて外には出たくない
予約予約と患者をがんじがらめにす
杖ついてタクシーに乗り医者巡り
風みどりとばされぬようあとしばし

高槻市 井上 照子

短冊に楽しい夢を書いてみた
サンクラス大事な話やめとする
老いてなお流行に添って縞の服
診察を待つと血圧高くなる
夏の陽に負けられないと水ゴクリ

高槻市 指宿 千枝子

スタミナを切らさぬ朝のゆで玉子
ストレスが溜まると叫ぶムンクです
しみ皺も自慢に出来る歳になり
生きられるだけ生きるぞまだ傘寿
スイッチが切れると孫へ SOS

高槻市 片山 かずお

ひっそりの暮らしが粹に見えてくる
高齢化神輿も飾るだけとなる
Uターン決断をした太い眉
キレイに残る棚田の裏にある苦勞
金釘流ですが手書きの味がある

高槻市 島田 千鶴子

真っ白なシャツ干してある梅雨晴れ間
プラス志向痛いところもすぐ治る
朝食にカレーイチロー真似てみる
ひるね覚め朝か夕かと狼狽える
古希二人鰻一尾で暑氣払い

高槻市 初代 正彦

げんまんの小指は孫のお気に入り
ペン胼胝は手書きの頃の宝もの
煮え切らぬ男レンジでチンしたい
福島がフクシマのまままた真夏
予期しない触れ合いもある趣味の会

高槻市 杉 本 義 昭

子供会気持ちがつなぐリサイクル
カキーンコキーンとまたイチローが打ち出した
法話聞く鬼が思わず正座する
家族皆見守る母の切るメロン
若さとは青いジーパン青い風

高槻市 左右田 泰 雄

おそらくは誰あれも信じないうわさ
手をつなぐだけで景色がまるくなる
考えが浅いと傷が深くなる
悔いのないまっすぐ生きる人生を
やわらかい心で支え合う暮らし

高槻市 富 田 美 義

意識して老いのパワーを控え目に
断捨離に迷うレコード昭和の娘
世に挑み人に生かされ八〇年
生かされた命尊し今朝も晴れ
生かされた一ツ一ツに感謝して

高槻市 富 田 保 子

あのボスの笑顔と握手選挙用
何よりも生きてて欲しい男の子
色々なサブリ手を出す年となり
しあわせを思えばいつも夏の風
子や孫のお蔭でタフになりました

高槻市 原 洋 志

オフレコの話が上手い縄のれん
衣更え老いの兆しは口にせず
錆止めにも潤滑油にもなるビール
胃腸薬といひコンビですイエスマン
あの鐘を鳴らした時がピークとは

高槻市 安 田 忠 子

舛添氏粘りに粘り辞職する
音痴でも一曲だけは歌います
空財布持って出掛けるあわてんぼ
時たまに片目を瞑り鼻を見る
猫嫌い預かる羽目になって鬱

豊中市 池 田 純 子

クーラーの休憩時間汗をかく
雨音に今日のリズムを刻まれる
産着干す梅雨の晴れ間の爽やかさ
マイペース猫に極意を聞いてみる
辛いこと半分持つてくれる夫

豊中市 江 見 見 清

聴診器外し何やらメモをした
赤富士の写メール列車から届く
朝が来るまたフレッシュになるチャンス
こけたって起き上がれますほっといて
替え背広さえ着なくなる歳となる

豊中市 藤井則彦

マネキンも笑いたい時あるだろう
ゴールインと思つた日からもう墮落
壁ドンで晴らすもやもやした気分
エンディングノートの準備をして五年
心のゆとりまでも無くした前屈み

豊中市 松尾美智代

暗闇の中で探している出口
ルノワール展ころやさしくしてくれる
余韻温め少し寄り道して帰る
頼られると甘い顔する爺と婆
生温い妻の座しつべ返しくる

豊中市 水野黒兎

青々と最後の雫まで新茶
周五郎読んで耐えてる梅雨の日々
ふるりに喜寿の集いはみな童
水琴窟ところに響く母の声
ロンドンには煙突の街女王住む

富田林市 片岡智恵子

思いつき妹を連れ有馬の湯
できぬ事頼んでしてもらう事に
良心の指令通りに生きるよう
リハビリを素敵な人がしてくれる
薄味に慣れ帰宅の日を待とう

富田林市 中井アキ

まなうらの亡夫が若くて妬ましい
人はみな砂の歲月踏んでゆく
懐メロにぎつしり詰まる片想い
半熟の玉子のまんま八十路まで
モノクロの想い出に降る赤い雨

富田林市 肥山一文

料理出来妻の味見で無事終える
絶頂期初恋のころ思ひ出す
酒二合老いを悟って寝てしまふ
機嫌とり何とか二人過して
地震止み次は大雨何とする

富田林市 山野寿之

人生を加減乗除で泳ぐ術
共通のゴール目指して共白髪
金蔓はないが人脈なら数多
節酒日を作り休肝日は皆無
ゴミ箱に薬飲んだか飲まないか

寝屋川市 伊達郁夫

一歩引く位置で結び目緩くする
素足から夏がこぼれている浴衣
浄土だと西向いて寝る母の癖
歩かねばまだ歩かねば枯れていく
やんわりと夏の気配を知る乳房

寝屋川市 籠 島 恵 子

羽曳野市 安芸田 泰 子

偶然を待つてカラスに笑われる

聞く耳を持つてくださる人がいる

くどくどと言うがお金でないらしい

半夏生時の流れは容赦ない

ひまわりが我が家を向いて咲いている

寝屋川市 富 山 ルイ子

早朝から暑くクーラー入れている

猛暑辛く買物六時過ぎて行く

夕食を試案胡瓜を畠から

スパゲティ載せるトマトを畠から

半袖に半ズボンです八十路すぎ

寝屋川市 平 松 かすみ

拡大の地図を息子に持たされる

嗅覚が鈍り近付く認知症

ご自分の脳の退化を知らぬまま

老人もいつしよにどうぞ星まつり

星まつりみんな曾孫に見えてくる

寝屋川市 森 茜

そのままにあれ笹百合の匂う谷

ひとしきりオゾンを浴びて黴払う

ひんやりと洞窟母を恋うみ霊

疲れたら勾玉になるハンモック

起こしてはかなぶんぶんは又くるり

蝉しぐれ記憶の底に終戦忌

郷愁の彼方に群れている螢

紫陽花は奥へ奥へと雨の路

夢は未だ未完のページ模索する

電話口他人行儀な夫なり

羽曳野市 宇都宮 ちづる

鉢植えのメロンの花に蟻が群れ

白桃が剥けぬ夫の粗い指

ため口で姑と話せる娘の平和

朝ドラの戦後描写に亡母重ね

ただいまに手洗い嗽たたみかけ

羽曳野市 徳 山 みつこ

知らなくていいかも蝶の過去などは

検算がどうも合わない今日は止め

転けないと思う私が危険だな

手を合わす神を宿している棚田

強烈な太陽ダニの退治せよ

羽曳野市 中 川 ひろ介

クリスチャンで特攻隊の兄がいた

弱い者の中にキリスト立っている

生き方を変えて余生が楽になる

人間だけが介護もするし酒を呑む

断捨離で涼しくなった夏座敷

羽曳野市 永田章司

東大阪市 北村賢子

サプライズ抜擢人事吉か凶
出向の辞令帰りの便はない

窓オープン飛び込んで来る蟬しぐれ
今の地球どう思い見る月うさぎ

政治家は国を憂えず金を追う

商店街ツバメの戻るぬくい街

笑わせて誤魔化している芸達者

買うのは妻世話する夫花の苗

核ボタン持ってオバマは広島へ

太陽をたらふく受けた熟トマト

羽曳野市 藤原大子

東大阪市 佐々木満作

若者と話して視線若くする

ふところ手じつと我慢の株市場

譲られて譲って笑顔二重奏

予定表ドタキャン増える老いの坂

慣れるほど一步の頃が苦笑する

聞き流す妻の小言の一過性

比べたらきりが無いマイペース

遅しく修行を終えて継ぐ家業

そこここに思い出があり天の川

今の幸五欲を捨てて自然体

羽曳野市 三好専平

枚方市 海老池洋

クラシック ビールがわりに聞いている

部屋ごとに時計のあつて遅刻癖

一日が勝負 断酒の兵法書

生き甲斐が所狭しとある書齋

偏屈が高じて酒をやめるはめ

子育ての方程式が難しい

生か死か一刀両断酒を断ち

待機児童待機老人抱く日本

五十年断酒を誓う野暮なオレ

老人の健康なんて梅雨晴れ間

羽曳野市 吉村久仁雄

枚方市 小林わかこ

大きめの服でゆったり生きている

天国のあなたの笑みが今ほしい

カミソリとナタの二人が社を見切り

好きやねんこの声遠くもう聞けぬ

七転八起もう転んでもケガをせず

がんじがらめの愛がまわり進めない

真夜中の決意青空に揺らいでる

昨日まで解けたパズルが解けぬ今日

とほけてはいない少々惚けただけ

父親の前では大胆になれぬ

枚方市 丹後屋 肇

脳のスイッチ入れ替えている あかんべえ

空想に耽る古墳の散歩みち

ハプニング起こる予感の立候補

何が起きててもビクともしない寝たっ切り

オール電化停電言わぬ云わせない

枚方市 寺川弘一

蛇行する川貪欲か軽薄か

砂時計時の流れをふと途切る

悪いことしないが嫌い防犯カメラ

公園ベンチ座り手無いと鬱になる

靴下の臭いにだつてある個性

枚方市 二宮山久

検診の帰りは大盛り食べる昼

今年また元気で帰る墓参り

里帰り心洗わる瀬戸の海

毎朝の体操仲間と笑い声

妻元氣今朝の笑顔に安堵する

枚方市 二宮紫鳳

良薬は孫の来たりし病み上り

朝顔のつる揚々と夏来たる

紫陽花に心癒され散歩道

梅雨楽し友が来たりしティータイム

我が庭の野菜にもらう元氣饅

藤井寺市 伊藤アヤ子

明暗を分けた他国でテロに遭う

ふるさとの蛍の匂い懐かしむ

甘酒は熱中症の予防です

井戸水は枯れる事なく湧いている

かき氷食べながら汗かいている

藤井寺市 鴨谷瑠美子

盆花を束ねる妻は無口なり

亡き妹の大きな穴は埋められず

初盆を急かせるように蟬が鳴く

昼顔の花に昔の母がいる

感情線の果てに静かな駅がある

藤井寺市 鈴木いさお

春は饒舌秋は寡黙な花の精

迷いつつ遙れつつ七十路の坂を

アバウトに生きて行きますこれからも

砂糖たっぷりミルクたっぷり僕のモカ

ひばりの忌妻の誕生日でもあり

藤井寺市 高田美代子

終戦の日まで神風信じてた

戦争の愚かよ八月の呪文

ひまわりの様に強くは無いわたし

好きだった人のことなど天の川

久々に聞くカミナリよ稲妻よ

藤井寺市 田付絹枝

雨も良し晴れりや笑顔の四季の花

捨てようか祖父の盆栽濃い緑

シヨッピング リュックかカート腰に聞く

超目玉予定メニユーは露と消え

手すり付け老いの明暗交差点

藤井寺市 津田シルク

あのチャンス逃してからの小商い

今ご利益あつてはこまるポックリ寺

隙あらば萎えてやろうと足と腰

ポックリと逝きそな病持ち歩く

あこがれた街の樹海へ入り込む

藤井寺市 増井ヨシ枝

お逢いしたい言われてみても車椅子

曲がついていてもアナタの歩いた道だから

ワンチャンス与えて神は通りすぎ

手作りの花に詰まった愛の量

電話より一筆箋の手書き文字

藤井寺市 吉田喜代子

良葉か明日葉あまり旨くない

諦めのおじさい園に友が杖

建具替えほつと大ノ字夏座敷

真夏日にたこ焼パーティーこれも良し

何故に命を奪う神が居る

藤井寺市 若松雅枝

孫に手を曳かれて嬉しバースデー

山の湯へ卒寿の母を祝う旅

髪カット心の内も軽くなる

内緒だと祖母に貰ったお小遣い

久し振り娘と浸る秘境の湯

箕面市 酒井紀華

わたくしは母に似たのか冬蛭

残り時間わずかになって飛びたてぬ

幸せは必ずくると花水木

好きとは言えずはらはらはらと露時雨

部屋の隅わかれた人の夏帽子

箕面市 出口セツ子

事故以来歩かないからまた太る

好物のメロンいっぱい子の家で

何度目と言いながら愚痴聞いてくれ

八時には大勢解る味気なさ

自己主張ばかり大きな顔の姉

箕面市 広島巴子

花もらい忌日の母の笑み浮かぶ

色褪せた掛軸寂し父母母ぶ

雨雨雨体に欲しい湿気取り

選挙戦突っ込み入れて聞き比べ

深読みをするほど知恵がまわらない

八尾市 高杉千歩

冷蔵庫満たして独りピーポーを聴く

雑用の海で溺れる九十歳

勘違いが続き前へ進まない

いつも有難うでメールが終り

まだ少し冒険したい九十歳

八尾市 寺川はじめ

適材適所言うて窓際族にされ

はったりが効き過ぎ大事委される

賞味期限過ぎて本当の夫婦味

ハツラツの新入生もウツの梅雨

タイマーを付けたい妻の長電話

八尾市 宮崎シマ子

日々の予定がのびてゆくこの暑さ

いきなり帰ってきた子を警戒す

戦する国にも続くひつじ雲

母の頭に四季の行事がまつてる

母娘の話し父は聞いてもわからない

八尾市 村上ミツ子

痛い足ひきずりながら投票へ

出口調査をされたことなどないが

参院選終わりタイガースぶりに

都知事選権利なくとも気にはなる

追い風と仲良くしたいのだけれど

八尾市 山根妙子

海の日は地味に記されるカレンター

海の歌小学生に戻れます

起き抜けの電話にべこり居を正す

被災地の酷い追い討ち雨と風

風鈴と西瓜渦巻昭和な日

神戸市 井上じろう

この一日お天道様の御意のまま

荒れるだけ荒れると人は覚めてゆく

どたん場で妻の度胸に気付かされ

ご先祖様永代塔へお引越し

歳月よ少しゆっくり歩いてよ

神戸市 上田和宏

手を繋げば若さが一寸通い合う

今も修行教えられてる学んでる

うらやまし若い細胞夏姿

二桁になれば元氣が出る雀

川柳にすっかり尻尾掴まれる

神戸市 奥澤洋次郎

運命的の出会いはあるか七十歳

人生を我がものとしてた錯覚

夕風に我慢くらべの惚け顔

戴きます人は都合よい言葉もつ

褪せる花愛の光を今少し

神戸市 富永恭子

踏ん張ってみよう何かはできるはず

雨上がりさぐりさぐりのピアノ弾く

雨の日は雨の日なりの山野草

夏野菜そろそろ飽きてくる土用

ご無沙汰ねここに居るよとバラの棘

神戸市 能勢利子

迷う時空を見上げて夫に問う

避難袋好きなお菓子も入れておく

ゴキブリが出ると仏飯にもラップ

値切る時大阪弁を使う妻

マイナンバー覚えられずに持ち歩く

神戸市 松井文香

菜園の朝吸い込んだ野菜の香

ゲートボール楽しみに待つ社交場

どちらにも相槌打った悪しからず

脇役と決めた可憐なカスミ草

居直った日からたられば捨てました

神戸市 山口美穂

糠床へおはようさんを言ってから

真面目に老いを演ずるつもりはないけれど

選挙すんで若者たちへ暗い影

今書かな一言いうと忘れそう

計の知らせわたしも友もそんな歳

神戸市 山崎武彦

人の子を叱る勇気がまだ持てぬ

君だけと含み持たせる縄のれん

これからはおまけの旅だ風任せ

大荒れの海で男は磨かれる

清貧で愚直に生きた亡父が好き

芦屋市 黒田能子

原因が不明手さぐり続いている

胸キュンとなったレモンの香る頃

フレイフレー声囁れるまで子のために

声をかけ命ひとつが救われた

胸はつて平和を叫び続けます

芦屋市 竹山千賀子

筆順に添うときれいな字が書ける

白い歯だこの人信じてみようかな

招かれて掃除洗濯させられる

切手にも気配り見える友便り

読まぬ本買っては部屋を狭くする

明石市 梶谷和郎

路地裏は私の過去をよく喋る

お出かけのまじないノブへ指差をする

爪染めて少女はひとつ脱皮する

ひと日ごと召される順が繰り上がる

一本の糸の重みを蜘蛛は知る

尼崎市 市坪武臣

幸せな時間と思う朝ごはん
なんでやる動かなくても腹が減る
幸せでもどんでん返しある油断
ペンネームは本名で行く趣味一途
価値観は違っても無二の友がいる

尼崎市 長浜美籠

無印の気楽さアイス食べながら
昨日今日さして変わらぬ予定表
ゼロからのスタートだから清清し
帰るには惜しい風向きふらり下車
マンゴプリン良くも悪くも今日終る

尼崎市 藤岡りこ

翌日は思い出となる旅帰り
砂浜を素足で歩き子に戻る
地味なのに和服は場所を引き立てる
幼子と同じ歩幅でよろよろと
卵抱く母鳥の声すさまじい

尼崎市 山田耕治

ライバルもおんなじ辞書を持っている
先生のマルがうれしい七十五
趣味の会みんなかわいい歳になり
昼のバスわたし一人で発車する
一流の主婦です笑い絶えぬ家

川西市 大坪一徳

人生も囲碁も我慢がチャンス呼ぶ
定石を知らぬ相手はやり難い
肩書が無くなつてから友が出来
ちよぼちよぼの悩みがあつて仲良しに
三回忌てきぱき仕切る次男坊

加西市 金川宣子

夏休みやつてくるぞと気合い入れ
娘が巢立ち夫の愛を独り占め
しあわせのしの字のきゅうり爺の作
帰途につく夕餉の匂い嗅ぎながら
趣味の数負けじと奮起老い之道

川西市 山口不動

沖繩に頭を垂れて詫げるのみ
キッチンで妻が師匠の弟子修業
生前に辞世の句などりハーサル
俗名で呼んで下さいいつまでも
面白くありがたかつたさようなら

篠山市 酒井健二

間が持てず人の傷口触れてみる
半世紀カストロ睨むジャズ喫茶
熱いから熱い京都を流れてる
人の世のルーツ訪ねて古墳群
二十年先は神でも分かるまい

篠山市 酒井真由

紫陽花の小径仔犬がじゃれている
涼しさよ筆の先より香の生まる
指切りげんまんごつごつと太い指
私がマークをされていたなんて
旅一ト夜祇園囃子の中にいる

三田市 足立つな子

ダディーの日祝い届くか気が揉める
人は人氣に留めないで楽に老い
もう一花五感磨いて旅に発つ
なるようにしかならぬと受け止める
叶うかも見果てぬ夢を飽きもせず

三田市 石原歳子

精一杯生きて亡夫を思い出す
夏が来た亡母の形見の扇子出す
思い出にひたっていますこの窓辺
思い出を胸に大事にして暮らす
マンシヨンの塗り替え作業今日ゴール

三田市 上垣キヨミ

ささやかな独りの自由医者通り
夏休み母の昼寝は許される
頼られて元気になったのは出費
久々に出ると哀れむ目に出合う
親展の利子は三桁の遺産分け

三田市 上田ひとみ

それだけで胸がいっぱい母の文字
母さんが遠く儂くなっていく
どこからか父の口笛流れ来る
愛されている豊かさによく眠る
お疲れさん素足になつてほめてやる

三田市 尾崎一子

友集う幸せなんだ皆きれい
久し友老いの輝き内に秘め
新聞を配るバイクの音で朝
白い杖握る覚悟がまだ出来ぬ
若者の洗濯物が涼を呼ぶ

三田市 北野哲男

勘定の合わぬところが地の絆
それぞれにさざ波の立つクラス会
厳肅な顔で採血されている
保険証お忘れなくと言うツアー
入院の姑に燕の巣を聞かれ

三田市 久保田千代

利用者のモラル問うてる駅の傘
情念を閉じて語らぬおんな傘
幸せの鍵握つてる父の傘
泣き濡れるたびに女が強くなる
こつこつと余生を託す趣味ひとつ

三田市 野口 晶子

甘え猫あやすと孫をまねて鳴き

多推薦玉虫色になる選挙

けだるくてお手付きばかりする真夏

貫いた味は頑固と評価され

悔いませんお手付きばかりしたけれど

三田市 福田 好文

散歩する犬が近所を広くする

神代から隣同士はよく揉める

順番と行かぬ葬儀が慌てさす

我慢くらべ介護する人される人

老いてより意固地になってより孤独

三田市 堀 正和

さありオだ皆で歌おう君が代を

ムリするな厚いカルテに諭される

転ぶなど言うだけでした子のエール

鈍行でゆっくり帰る日は高い

タブレット小脇に抱えひとり旅

宝塚市 田中 章子

無から有生みださねばと五七五

いい事をしたらしい事あったはず

短冊に祈る孫世代の未来

いい時代に生きてきたなとクラス会

うれしくなっちゃう恵美子さんの元氣

西宮市 秋元 てる

97歳今のままも少し生きて見たい

老いて尚ゴールの美学など口に

正論も愛が無ければ素通りだ

「凄い」の字 妻の力と納得す

手荒だが愛があるから身に沁みる

西宮市 足立 茂

ぬるま湯を叱られ役が締め直す

伸び伸びと力が出せる個人戦

還暦がきつと男の岐路だろう

夫婦ゲンカを引き分けにした稲光り

普通はひとつ酒ならふたつする返事

西宮市 緒方 美津子

息を呑む丸木夫妻の黒い空

里帰り娘は空っぽに軽い足

七月号重ねた色で涼を呼び

折れた心が倒れ込む母の膝

これからも厨の窓の灯でいたい

西宮市 亀岡 哲子

繰り返す言わずに済んだ一呼吸

しげしげと我が一票を見るテレビ

順調に老いているのに勘違い

蝉ひと声啼いて梅雨明けまだですな

三途の川渋滞でしたUターン

西宮市 西口 いわゑ

神様のリードで楽し三幕目
婚約へ孫もリングも輝きぬ

一步も二歩も引いているからよく見える

一票を担う鉛筆まで重い

一行詩残り時間を温める

西宮市 福島 弘子

ストローでむせる事増え齢を知る

党挙げて担いだ人を引き降ろし

一億総活躍信じてるのは誰でしょう

何時か咲くその日信じて水切らぬ

老いの血で我慢の蚊でも容赦せぬ

西宮市 山本 義子

虹連れてくるなら雨も慶賀なる

自転車漕ぐりハビリの夜爆睡す

柏餅もすこし冷やして食べてます

新茶ですに畏まりいただきました

傘立ての傘濡れたままです 御免

西脇市 七反田 順子

負けん気を出したところで転ぶだけ

青じそをジュースにしたらピンク色

立話犬が聞いてる良いうわざ

ナスキュウリ素直に伸びる子のように

爺ちゃんは七夕様の笹を切り

姫路市 古川 奮水

方円の器に素直心太

年老いて孫の指図の星まつり

定期預金解約をして杖を買う

金星の安売りなんか見たくない

ひとつだけ団子が残る自尊心

南あわじ市 萩原 狸月

老兵が消えてくれないから困る

兄弟で記憶の違う父の像

オバマだけ目立ちサミット影うすし

老いました昔話が腑に落ちる

贅沢は敵 家計簿は戦時中

奈良県 安福 和夫

久久に若さ解凍大合唱

発声で全細胞が躍りだす

ハモり合い心一つに打ち解ける

うつさえも吹き飛んでいくカンツォーネ

唇に歌を平和に活かしたい

奈良県 谷川 憲

散歩中飼いだ犬の名で声かかる

駅前飲み屋で自分とり戻す

散歩にもあちこち用事言いつかる

生まれ変わる昭和の長屋おしやれカフェ

一キロに一喜一憂するメタボ

奈良県 渡辺 富子

香芝市 大内 朝子

真つ向勝負止めた男の背が丸い

身の内の錆へシャワー全開に

浄土へと誘う絶景見えています

夢一途愚直に追った日々光る

両手広げ帰り待つてる里の山

奈良市 阿部 紀子

DNA 苦しい時も笑う娘ら

万葉に載る地名ありそこかしこ

秋篠寺技芸天像癒されに

アマリリス増え常滑の鉢を買う

般若寺コスモスあふれ五七七

奈良市 大久保 眞澄

座りなはれ譲り合うほど若うない

原発禍命のふたがずれている

ときめいた人がステテコでうろつく

使い方もスマホで見よというスマホ

一週間で効果見よとや試供品

奈良市 加門 萌子

男とは夫とは古い矜持持つ

仲間を切る策は通さない

人間ってこんなドロドロしたものか

リセットをしないと主婦もどんづまる

ひとときの幸せ時間コンサート

人情にもろいわたしを好きである
まだひよいとピンクの風にあえそうで
ふる里を手繰り寄せてるゆすらうめ
一票を投じる背のシャンとする
意欲さえあればこの世はおもしろい

奈良市 辻内 げんえい

猫ブームでも犬派の僕はぶれぬまま

アウトドア派予定理まらぬ梅雨最中

マイナンバーカードやつと貰った仕舞つとく

断捨離が進まないのはまだ元氣

スーパーカーのカート押すのは杖がわり

奈良市 米田 恭昌

窓際も僕にとつては徳俵

先頭にびつたり策士ついていく

おしゃまな娘作文に書くペンネーム

気がかりは氣弱になつてきた頑固

アメリカカの恥部をさらした銃社会

生駒市 飛永 ふりこ

空と地をサンドにしている花の苑

ジグザグの気分を飛ばす大ジョッキ

詮無いね十七年目転移とは

とりあえず昼寝スカッと迷い失せ

和の膳の涼が滴る暑氣払い

和歌山市 磯部 義雄

高齢の今も充電忘れない

逃げ足を鍛え地震に備えてる

震度7一難去って震度7

天と地を行ったり来たりした手術

汗流す人と信じて入れた票

和歌山市 上田 紀子

横切つてゆくのは重い嫌悪感

ボキヤブラリー不足熱帯夜続く

ドタキャンも二回約束もう出来ず

よいとまけの歌が聞こえる蟻の列

生臭い鱗が落ちて潮満ちる

和歌山市 喜田 准一

手を合わす人それぞれにある祈り

感想を聞く内ポロリ出た本音

一番を通し乾いた人になり

気の効いたヤジも飛ばせぬ議員席

人の道外れた所に甘い汁

和歌山市 楠見 章子

会う度にきみが変わっていくこわさ

好きだからあなたに油断してあげる

ここだけの話木蔭に置いてくる

泣きそうになるイマジンのメッセージ

夕映えの渚に楽譜落ちてる

和歌山市 坂部 紀久子

今日の色明日も同じいろがいい

する事がなくて背中が痒くなる

預金通帳支出正直すぎないか

何処で何してもその他の中に居る

テレビ消すと外の空気が流れ込む

和歌山市 玉置 当代

帰国するPM2.5と別れ

見上げれば星 足下にホタルとぶ

民衆の声がトップに届かない

登りつめたトップの椅子が硬すぎる

ケータイを持って余してる昭和です

和歌山市 武本 碧

骨もろくなつて仲間の痛み知る

魯山人の皿にせめては句の味

傾いているのかずれている波長

パッチワークの人生だけど乙な味

大太鼓鳴って一つの区切りつけ

和歌山市 福井 菜摘

シナリオになかった夢が弾み出す

ポケットの拳 雄飛の時を待つ

いつからか丸いペン先手になじみ

鍵かけぬ心に笑顔よってくる

オアシスへはるかな旅はまだ続く

和歌山市 古久保 和子

ひまわりの背丈で夏休みがくる
寝顔まで責任持てぬ半開き
のりしろへたつぶり蜜を塗っておく
カーテンがふわり涼風連れてくる
お静かに桔梗ひとり立っている

和歌山市 堀 富美子

食いしん坊当分お迎えなさそうだ
イエスノー私のために生きたくて
もう少し寄り道します夫の墓
冠婚葬祭年金と睨めっこ
もうお歳などと言わせぬ意地がある

和歌山市 松尾 和香

瀬戸大橋思い出浮かぶひとり旅
車窓から瀬戸の海見て心和ぐ
川柳旅梅雨の晴れ間に感謝する
灯明が揺れるいい事あるらしい
おかえりと風がハグする里の駅

和歌山市 松原 寿子

咲く意地があつて心に水をやる
馬鹿だなあ孤独を溜めるのはよそう
涙もろい女と知っている笑窪
器用ではないが私はサウスボー
心の隅に何か欠けて雨続く

岩出市 藤原 ほか

お気に入り器に愛をてんこもり
スタートに何が何でも立ち戻る
スタートをきって原点見えてくる
互角だと思いうっかり小休止
この山を越えて晴れ晴れ着地する

海南市 小谷 小雪

サングラス買って見渡す新世界
時により眉山の位置変えておく
お札にと花の笑顔を置いてくる
またしても怠け心が居すわって
片意地になつてきている冷奴

海南市 堂上 泰女

ハーゲンダッツでも食べようか今日も雨
お育ちの良い嫁さんで上がる株
子の補助を受けて蛇口も新型に
未練など残さぬように熟慮する
優等生の返事の底は汲んでくれ

紀の川市 宇野 幹子

七十の斜塔へ西日照りつける
催眠剤の下で仏になつてゆく
これからと言うのに顎がひけてくる
すっぴんの静止画像にある自信
真っ直ぐに進む外なし滑走路

紀の川市 北山 絹子

記憶力確かな父の日記帳
貝ボタン海の匂いが染みている
晩学へ父は絵筆を運んでる
朝顔が私好みの色で咲く
マスコミが騒ぐと風が手厳しい

紀の川市 楠原 富香

父と言う浮輪に家族しがみつく
振りまいた噂についてきた尾鱈
力んでも私の昭和かすみ出す
生きるため今日も元気に米をとぐ
休むすべ知らぬ我が家の洗濯機

紀の川市 辻内 次根

ジョーク集読んで笑える大丈夫
体力の回復待っている木陰
失った時間を手繰る古手紙
花が咲き実が生り時が経っていく
子に親が国に重たい高齢者

田辺市 岡本 昇

アイロンをシャツと意欲にかけている
寝る前にあしたすること決めておく
ユーモアのセンスを磨く五七五
何でもない事に感動して生きる
人生は十八十色俺は俺

橋本市 石田 隆彦

曖昧な返事を笑顔で繕う
不摂生をここぞと攻めてくる病魔
本音で生きれば意外に楽な道
一匹の蚊にも気づかうリオ五輪
ギリギリまで待つミラクルを信じて

鳥取県 石谷 美恵子

傷口を洗ってくれた聞き上手
万緑のシャワーへ命丸洗い
弁解は止そうスッキリ顔洗い
戻る場のないふる里をただ歩く
まだ残る気力で低く翔んでます

鳥取県 岩崎 和子

薄ぐもり明かりをつけて読書する
気を入れて大人の流儀六を読む
赤い花一輪差して落ちついた
曇り空気持を入れて読書する
アオと云う猫が居るからほっとする

鳥取県 斉尾 くにこ

手加減をしてはくれない大自然
汗ふいたハンカチに付く目と口と
飛び越えるはずの格差で駆けました
放牧の牛が見ている新幹線
お出掛けはどちらへと問う写真立て

鳥取県 竹 信 照 彦

亜熱帯気候日本を破壊する

借金でギリシヤになるか日本国

進化するロボット退化する私

老眼鏡似合わなくても必需品

世の中を変えるは難しああ選挙

鳥取県 鳥 越 鬼 一

梅雨開けてないのに萩の花たわわ

このところ落選つづきわが一票

民主主義棄権するのも意思表示

後出しでじゃんけん勝つと限らない

虚しいと分かっているも石を積む

鳥取県 西 谷 悦 子

コスモスを活けてトイレがうれしそう

夕焼けに今日一日を褒められる

職業欄りっぱな主婦と書こうかな

人生はすり鉢でゴマするようだ

手抜きが出来だしてわたしも老いたね

鳥取県 細 田 裕 花

ミストシャワー浴びて細胞シヤンとする

言い張った後のスイーツ味が無い

幸せの方程式を解く旅路

一票の格差田舎の声消える

マイペースで走っています押さないで

鳥取県 松 川 行 男

今日も留守川柳選者名が売れて

ベテランに誘い誘われ腰叩く

高齢の同窓会はまとまらず

五が三つ期待したのに何も出ず

八月は選挙の結果かじりつき

鳥取県 山 下 節 子

旬の味食卓に盛る妻元氣

料理人カリスマになる五つ星

ローン終えすつきりしたがもう八十路

先だつて旅した街が震度七

子等巢立ちキツチンに椅子二個残る

鳥取市 池 澤 大 鯨

あきもせず挑戦つづけいまだ没

注文を受けたからにはことわれぬ

言伝てを受けて出向いてドタキャンに

前触れじゃないぞ癌などくそくらえ

融通のきかぬ人らの予定表

鳥取市 加 藤 茶 人

芸人とイチロー笑われてなんぼ

顔見知りだけで友達だと言われ

その割に感謝の言葉ない夫

生娘も純潔も死語かも知れぬ

尻が出来て緊張解けた皮下脂肪

鳥取市 倉益一瑤

愛ゆらり人は別れを繰り返す
追伸にすっかり釘が打つてある
よく動く口でわたしを迷わせる
どんどんと階段上がる反抗期
頑固者ひとりじゃ棺に入れまい

鳥取市 棚田大

ホタルまで子ども少なくてさびし
怪しいなヘソクリの位置動いてる
どこ行つた式千円札見せてくれ
人類は勝手気ままに気付かない
我が家にもルール違反が増大す

鳥取市 谷口雄太郎

本性が聞き耳立ててやつて来た
通夜の席見知らぬ客に目礼す
もやもやが晴れて心は宙を飛ば
くしゃみする力いっぱい自己主張
哀しみはぐつと堪えて拳の中に

鳥取市 中村金祥

御曹司モンスターには気をつけろ
便利屋のつもりか孫が振りまわす
期日前誰に入れたかもう忘れ
大勝負結果はいつも呆気ない
日本の隅で都会の悲鳴聞く

鳥取市 夏目一粹

掃除機でうっかり虫を吸って詫び
父の日におーいビールと言つてみる
爪ばかり伸びて背丈の縮む老い
いさぎよく脱ぎも脱いだり竹の皮
ガンバレに練引きできぬエンドレス

鳥取市 永原昌鼓

あの頃は大きかったな父の背な
耳も老い曖昧返事してすます
地図なくて迷つてないか逝つた人
どんどんと世の流れから遠ざかる
ぼんやりとしとれぬ余命減っている

鳥取市 西川和子

六十回二人の記念日が巡る
大病も財も成さずに生きて来た
見守られ二人の余生穏やかに
苦も楽も紆余曲折も潜り抜け
子や孫の心に元氣貯える

鳥取市 春木圭一郎

夏の日もせつせと本を読むつもり
妄想の世界に遊びやめられぬ
犬かきで向こう岸まで渡りたい
失敗が無駄ではないと言ひ聞かす
前向きになれば行き先決まりだす

鳥取市 福西茶子

遣り繰りはしますデートの誘いなら
繋ぐ手に合わせて弾むスニーカー
可愛くて君ばかり追う鬼ごっこ
私も一億総活躍のポランティア
弱点を晒し可愛く羽化をする

鳥取市 前田楓花

バイキング好きな物から少しずつ
堪忍袋切れたら石を投げ返す
肩書きが無いので肩の荷が軽い
会ったのは行きも帰りも同じ人
喜んでいいのか患者二人だけ

鳥取市 森山盛桜

つまびらかです駄菓子屋の領収書
擬態語の中でゆっくり歳を取る
人格に年々混じる不純物
絡まってから考える蔓と僕
デカンシヨとカラオケ同じレベルなり

鳥取市 山下凱柳

非難中傷浴びて涼しい顔で逃げ
公私混同過去の栄光今何処
あれもこれも馬脚あらわし舞台降り
非常識な行動世間許さない
十八歳大人の壁を乗り越える

鳥取市 吉田孔美子

健康のモットー我慢無理しない
誰あろう側でにこやかなのがガン
粥餅が見えない程の芹その他
粥からごはんどろぞこのままどうか
あっぱれよ八十路の同窓会なんて

鳥取市 吉田弘子

都民の声雪崩になつて霧晴れる
死んだ振りできるだろうか熊ニユース
難民の乗らねばならぬ難破船
小銭だが共助の気持募金箱
逆らえぬ加齢腰痛まで加速

米子市 後藤宏之

ケンカばかりしていた父も仏さん
御仏前空箱だけど並べとく
東京に行くてくるぞとテロ覚悟
レストラン迄はよかったこの見合い
形見分け激しいバトルゴング鳴る

米子市 後藤美恵子

若返りの広告記事は見逃さぬ
さじ加減間違えくどい味になる
パーベキューの歓声恋し夏ひとり
サングラス泣ける映画の必需品
政党を泳ぎ回ったひと溺れ

米子市 中原 章子

朝ドラの時間電話を自制する
桃一個零たらしてかぶりつく
消費税のびて買い置き先のばし
出来るだけ片足立ちでズボンはく
来年のOB会を誓い合う

米子市 成田 雨奇

何回も最後の花と言った母
揺れたけど転覆まではしなかった
ほくの中のはくが遠くにすることも
撮るんなら斜めからよと女房言う
母の杖にホワイトカラー塗った妻

米子市 吉田 陽子

光らない存在感のままが良い
これからもよろしくなどと淡い恋
筆順を正したペンが落ち着かぬ
待つというだけでこんなに要る力
松みどり父の威厳が咲いている

倉吉市 猪川 由美子

老老詐欺弱みがアタへ哀しいね
後出しジャンケン情勢読みの知事候補
薬物汚染なぜ止まらない深い闇
奨学生の貧困連鎖切実だ
孤独からの万引きだとは哀れだね

倉吉市 山中 康子

窮境に助けてくれたおばあちゃん
飛び立って天まで昇れひ孫たち
土壇場でクーラーかけて生き返る
割り切ったアナタと共に見る花火
最期まで我が身の守りをするんだよ

島根県 伊藤 寿美

くちなしの花の白さよ夏の葬(補二年)
終活にまだ断捨離が捗らず
わたしの本音臍の辺りに伏せてある
へばりつく窓に守宮の白い腹
「凜」と命名棚田の村に孫誕生

松江市 小川 注湖

さようならの温もり残す手をさする
過疎の里川は静かにみずすまし
夏山へ天気異変の備え持つ
県人会郷土を思う声高い
卒寿の春九条感謝飯を食う

松江市 藤井 寿代

お仲間は未来志向で明るくて
恵まれているけど何か物足りぬ
打ち水が効いてきました心にも
法螺貝の中で化石になる私
来る来ない来ると信じてバラは咲く

松江市 松本文子

雲南市 松本昌

風に飛ぶ白い帽子と想い出と
薔薇の花ひっそり咲けぬから辛い
生きてたらあんなになつたかな夫
それからの夢は途絶えたままである
歩けなくなるからよたよたと歩く

出雲市 伊藤玲子

もう少し遊びたいのに呼ぶスマホ
自信家のダリヤの首が辛そうね
本物の政治家いずこ都知事選
日本の危機私は何が出来るだろ
長居して迷惑掛けぬよう せめて

出雲市 岸桂子

CMは目を休めろという合図
消防車並んでいると華やかだ
明日になれば忘れてしまう悩みごと
年毎に悲しい別れ多くなる
年金で泳げる浅い海にいる

出雲市 小白金房子

雨上がりで虫細い旅に出る
一人居へ初物包み会いに行く
島に夏家族むかえる波の歌
ログハウス緑広がる風の詩
少し余裕出来てつばめと対話する

十八で戦死した人あり志願兵
人生の楽しみ求め辞書を引く
夫婦して買う骨董に夢があり
泊まって行け言う人もなし父の里
金婚にこんな筈ではなかつたに

岡山県 池田たか子

あるがまま生きる姿を草に知る
振花のすなおな螺旋見習おう
けんけんばタイムスリップして姉妹
バックから皿に盛り付け知らんぶり
遠い日のけんか鼻血でけりついた

岡山県 田中恵

かすみ草の力を借りている主役
一つ買いいつ忘れてるバック
雷に出鼻くじかれ遠花火
頑張ってみても三日と続かない
性格は生まれ故郷の風の色

岡山市 工藤千代子

凶器にも布団にもなる夫の言葉
雨が降る今日は私の日曜日
百日紅 生あることを許されて
哀しい約束もあるくちなしの白
断定がとて苦手な鍋の蓋

岡山市 丹下凱夫

ツチノコが出そうな過疎の休耕田
雲の峯父の墓標が建っている

走馬灯父の七十七年間

減塩食だけで三夏は乗り切れぬ

うっかりとほんやりだけで暮らしている

岡山市 永見心咲

どうぞどうぞと好まぬ線が呼びに来る

頑張ってみても破線の上に居る

今日ひと日わたしを困う虹の線

もういいかい君を消し去る二重線

直線と曲線一度だけ燃える

岡山市 前田恵美子

言葉ではどうにもならず皿洗う

故郷の味はしつかり娘や孫に

欲望はほどほどが良い風通る

庭の梅毎朝食べて元気でる

庭見れば住んでる人の顔浮かぶ

笠岡市 藤井智史

結婚をすればサヨナラ勝ちですか

第四打席にて愛のアーチ架け

枯渴した愛から進まない大和

遠くても君と繋がる青い空

耐えている地球爆発遠くない

広島市 岸本清

復興の途上豪雨がまたなぶる

原発に頼る政党の依存症

前向きに生きると夢は無量大

腹八分自分のためと箸を置く

旬の花咲かせて妻の小宇宙

竹原市 石原淑子

気の早い萩咲く墓地の風清か

教わりたいたいの夢で逢えたらお姑さん

優しすぎ大成するに邪魔をする

面白い私の影のサブライズ

祖父という大きな椅子にある安堵

竹原市 岩本笑子

ほほ笑みの天使孫からメール来る

夏だから夏の帽子と話す

冷奴せめて茗荷を付けて出し

千両役者茄子は何にでも化ける

チエリービーンズ ラムネ菓子いいえ薬なんですよ

宇部市 平田実男

波風は少うし立ったほうがいい

麦御飯サブリメントの一つかも

復旧の邪魔をしている視察団

急逝の友の最後が羨まし

だんだんと亡母の顔に似る姉妹

防府市 坂本加代

嬉しさが行進曲に乗って来る
頼りない神様だけど手を合わす
電子本読む方法も分からない
大相撲大和だましい見せてくれ
ホンワカと余韻にひたる二十四時

東かがわ市 川崎 ひかり

哀しみを時がゆっくり和らげる
休刊日だんだん文字に飢えてくる
朝陽からもらうパワーで四股をふむ
しつかりと生きてあなたを供養する
褒め言葉もらい心が穂になる

松山市 古手川 光

ひまわりのあの笑顔には叶わない
土産は要らぬ笑顔を見せてくれりゃいい
スイッチオフにした覚えのない僕の脳
九回裏逆転したい人生も
一強多弱ブレーキ掛ける党が要る

大洲市 中居善信

疲れたら森に帰って来ればいい
年老いた母が山家を離れない
こんな山家で朽ちる積もりじゃ無いのだが
溪谷にぼつんと一つ灯が灯る
和紙でくるんで残月のしあわせな

西予市 黒田茂代

二〇〇年寿命尽きたか老柿よ
子らの水浴びは柿の木陰でした
風除けに日除けになってくれた柿
薬のマンモス威張っています米の里
ジীবンの穴から通り過ぎる夏

高知県 小澤幸泉

原発の餌食にさせぬ土佐の海
神の声ほんとは妻の「起きなさい」
君知るや土佐南国の龍馬たち
四十年妻と神とを道づれに
新しいページ開けぬ黙示録

唐津市 坂本蜂朗

深い皺残して友がまたひとり
口火切り代表席に縛られる
締め切りをせかされ思考停止する
野良猫も平和がいいと言っている
五十年歩幅合わないまま夫婦

唐津市 山口高明

現場百回出世気にせぬノンキャリア
公僕の漢字廃棄と致します
泣きに来た里で倅せ老母に告げ
琴線を揺らす男が少な過ぎ
へ理屈を述べて不祥事小出しする

熊本県 岩 切 康 子

蝸牛と分け合う梅雨の青野菜

検査してポリープ数個持っている

年金の免税となり長寿入り

玉蜀黍美味しい中におすそ分け

柳友の見舞いのメール派出る

熊本市 杉 野 羅 天

阿蘇涅槃鼻筋折れて別人に

出れば雨ドライブ嫌われてばかり

品に無理がある大口の一口

熊の胆が売れず熊被害増加し

偽らざる記事に感銘を受ける

札幌市 小 沢 淳

故里の法事に腰が浮いている

老人は金を使えと国が攻め

図書館は浪人達のオアシスに

昭和一桁骨は軽いが芯がある

ルール無視に虚虚実実のせめぎ合い

札幌市 三 浦 強 一

ニイタカヤマ登り滑落した歴史

ひめゆりを偲ぶ三線八月忌

全没へ口惜しさ沸かぬのも齢

名の出ない友にこにこと寄って来る

言い訳が下手で信用されている

青森県 松 山 芳 生

まつりの灯を守る減り張りの四季

お見合いに一役買った住所録

雪は白きつと答がある筈だ

なつかしい名前が一人歩きする

夕陽が遊んでる廃線の駅舎

黒石市 相 場 一 花

クマの糞校庭にあり大騒ぎ

ウニ丼の美味に驚く初体験

この電話猫で声で詐欺師かも

パーキンソンでもギターは弾けるから

外出はシルバーカーでヘルメット

弘前市 浅 田 隆 樹

衣替えお湯から水に顔洗う

草取りも小さな芽からこつこつと

ナスの花晴れの子報が当たらない

首都圏の猛暑少しはこつち来い

雑草の楽園になる長旅は

弘前市 稲 見 則 彦

一手目を星か小目で悩む雑魚

女子会に紛れ込みたい夫がいる

抽出に五、六個判子眠ってる

瘡蓋を剥がして悔やむ膝小僧

さながらに武器庫のようなおもちゃ箱

弘前市 岡本花匠

不在投票すつきりと枯れず居る

ストレッチ体すつきり皆笑顔

平凡な暮らしに刺激ダイケア日

イルカショーお別れ尻っほまたおいで

雉鳩の声に真夏日励まされ

弘前市 今 愁女

ウォーキング兼ねてスーパーへ日課なり

市場籠リユックに替えて現代版

三つ指ついて葉裏に居ます蝸牛

八十路まで無事に過ごして茅の輪かな

あこがれの街をテレビで視る至福

弘前市 須郷井蛙

罪人のように喫煙族がいる

足音で身内知ってる犬の脳

職業柄病偏なら皆読める

時事川柳常にアンテナ張っておく

衣を替えて財布を迷子にしてしまい

弘前市 高橋洋子

正装もクールビズで涼やかに

老母には拘りがある草むしり

老いの不調他山の石とは思われぬ

終章へ歩幅縮めて夫婦独楽

病んだ時溜めた贅肉命綱

弘前市 福士慕情

真贋は問わない僕の宝物

バラ一本百本よりも情がある

自画像の鼻は高めに描いてある

譲れないものは譲れぬ一本気

鬼が来るまでには石を積み上げる

(前月分) 大阪市 井丸昌紀

川柳に毒された後清められ

壊れない橋を造れば国滅ぶ

おばあちゃん子で御飯残したことがない

ハルカスは何を指して天を突く

廃駅で一番列車待っている

川柳なごや川柳誌上大会

募集作品 (1題2句詠・2名共選)

「人 氣」 庄司登美子・やすみりえ 共選

「飛 ぶ」 小林 映汎・尾藤 一泉 共選

「おそろく」 斉藤由紀子・佐藤 美文 共選

「さあ大変」 高瀬 霜石・松代 天鬼 共選

出句料 1000円(切手不可)

締切 9月30日(消印有効)

投句用紙 規定の用紙または便箋に4題まとめる。

投句先 〒488-1087 4

尾張旭市平子町368-12 宮内多美子 宛
主催 名古屋川柳社

川柳塔の

川柳讚歌

(141)

評論家 木津川 計

あじさいと初夏の乳房の等高線

齊尾 くにこ

「おそるべき君等の乳房夏来る」の西東三鬼を麻生路郎とどこか似ていると評したのは「川柳の群像」の東野大八だった。三鬼は歯科医師の職を辞め、貧窮の底の妻子をも捨て俳句雑誌の編集に没頭、しかも反戦句で投獄された。路郎もまた歴とした職を投げ、九人の子供と妻を貧乏に追いやり川柳に徹した。「行末はどうあろうとも火の如し」な情熱の生涯だった。そうだ、あじさいも夏の乳房も情熱なくしてどうしてあんなにふくらもうか。

今にわかるたつたひとりの手を上げる

岩佐 ダン吉

「野坂言ふ気づいたときはもうすでに始まってゐるんだ戦争は」と詠んだ歌人がいた。「火垂るの墓」の野坂と同じ。焼け跡開市派だった藤本義一も井上ひさしとの対談で「憲法で一番すばらしいのは9条。孫には「憲法

改正で自衛隊を軍隊にしたり、徴兵制にすることは、私の目の黒いうちは絶対にさせん」と話している」と。その藤本は桂米朝さんと共に「9条の会」の呼びかけ人だった。ダン吉さん、ひとりではありません。僕もいます。

年齢と共に引力重くなる

竹信 照彦

ダイラケが懐しい。なにしろ人類の月着陸を「テレビ局のやらせ」と煙に巻いて抱腹させた。リングの落ちるのを引力のせいというラケットに「自分で落ちると」と言いつのるダイマルは「シャボン玉みたいな軽いもんもよう引つ張らんと空へ飛ばしとるやないかい」でその気にさせた詐術は拔群だった。

しかし照彦さん、加齢と共の引力は僕も同感です。「膝の筋肉が衰えてる」は医者の方が、違う。やっぱり引力で足が重いのです。

相談後仲間にも弱味握られる

藤塚 克三

牧師も神父も偉いのは聴いた懺悔を一切洩らさないことだ。家庭裁判所の調停員にも感心し続けてきた。何人もと悪意だが、だれからも「こんな人間がいる」など聞いたことがない。ときに悪徳弁護士はいるが不実な調停員はいない。ウロ覚えだが「相談をした方がよく眠り」に、された方の親身を思った。

克三さん、相談相手が弱味を握るとは啞然です。「麩のような味方ならなんぼでもいるが」(岩井三窓)の麩以下もいることを知ります。

悲しい日傘は斜めに深くさし

若本 安代

兄頼朝に邪推された義経は陸奥秀衡を頼み、作り山伏となって陸奥へ下向する途次、安宅の関で富樫の詮義に遭う。破ろうとする一行を押しとどめ、何故君を強力姿に仕立て候ぞと弁慶が説得する。「御痛わしくは候えども、御笠を深々と召され、後に引き下がって御通り候わば……」あざむけようと。義経は悲しかった。深々と笠をさすのである。

傷心の安代さんも傘を深くさすという。

農業もいざ帰って来いという

小川 てるみ

嬉しいなあ、農業がいいぞとなつて。近年は土木系女子、農業系女子が増えているそうだ。ドボ女、ノケ女というらしい。どこにせよ娘さんのいる所に青年は集まってくる。農民詩の出發は渋谷定輔だったが、着飾った花見客を見て「みすばらしい土垢の野良着にくるまった」「もめんの晴れ着一枚さえ恵まれなひ百姓むすめは野良に泣く」と戦前を説んだ。てるみさん、帰ってきてほしいなあ。

白選集

小島蘭幸

宮西弥生

書齋暮れて僕は深海魚になった
起き上がり小法師の明るさは何だ
完敗のうしろ姿を見ましたか
句碑まつり終わり路郎と酒を酌む
路郎展毎年深くなるようだ

前 たもつ

ローソクの揺れが早い仏の日
ふだん着で来いとその気にさせる恋
ゆっくりと歩けばゆるりと止る汗
一寸の虫の信念刺し返す
鈍行の駅に情のある言葉

八木千代

生きることに仕事にすれば面白い
ペランダへ園児にぎわういい町だ
万歩計今日も夫婦で城回る
もう何度海の日会える誕生日
一寸先闇を信じている摂理

三宅保州

萩の道
見返れば迷いの目立つ足のあと
立竦んだり折れたり戻ろうとしたり
何かを曳きずり何かに支えられた跡
たおやかに通してくれた萩の道
鈴鳴らす どうぞ終りも晴れますよう

両川洋々

順延をしても心は晴れないが
コスモスに一目置いている風よ
さかなから見れば息苦しい地上
土下座することも仕事のうちだった
絵心はないが明日の画布はある

被災地に叛く再稼動が叛く
右派と左派あってこの世がおもしろい
ボルネオの森が和食の箸に化け
対立の構図は本家対元祖
すぎるけど教師がいじめ気付かない

板尾岳人

ポケモンよひとり歩きが処刑され
勿忘草母をわすれたことがない
白菜が胡坐をかいている残暑
男の木花が咲かない不眠症
僕の死後どこへ行くのかしりません

林 瑞枝

世を拗ねた子の背に優しいトンボの眸
ユニークな案山子に明日を賭けて見る
掌に虹を掴む若さは続けねば
生き甲斐の音が二階の上り下り
膝に来て実りを祝う赤蜻蛉

奥田みつ子

今を重ねて明るい未来開けゆく
究極のおしゃれ 飾らずありのまま
後期高齢者税金からのお小遣い
自分を褒める大切なことではないか
山なみは変わらず人は変われども

川上大輪

散らかっていますだあれも来ないから
新聞を開くと何か起きている
暑いから多少の事は許される
訳ありのワケを時々褒めてやる
サンドイッチに挟むジョークの二つ三つ

小西雄々

空き腹へコーヒー館のいい匂い
恍惚へ縁なくむかえ九十五
祭壇を飾る花にも上下あり
柿をとるまでの落葉へ腰痛む
蓮の葉と雲には乗る気すてません

斉藤 荔

明日葉に生きる力をいただこう
田植えした泥の感触忘れまい
撫の木のしずくが撫の子を育て
踏まれたり蹴られたりして伸びた芽だ
お日様が濃縮してゐるトマトです

新家完司

鉛筆でくすぐつてやる石頭
喧騒は遠く豊かな芋畑
女子会ではしゃぐ女子たち喜寿傘寿
脈拍は正常 脳波異常あり
塩分を控え焼酎飲んでゐる

津守柳伸

萩桔梗しばし女を取り戻す
せせらぎに素足が匂う蚩狩り
騒がしいテレビスイッチ切る猛暑
主義主張圏外にいる喜寿米寿
歳月や苦いゴーヤも好きになる

都 倉 求 芽

祇園会の稚児振る太刀へ陽が光る
金封の同じ大きさにある救い
罪ひとつ袋のままの花の種
したいこと山ほど居眠るホスピタル
山積みのお机去年の暮れの埃まだ

西 出 楓 栞

プライドに時々塩と胡椒ふる
遮断機をくぐるとわたし消えていた
輪をちよつと抜けて自分を取り戻す
シーズン毎思う去年は何着てた
こんな色着たいと思う紫蘇ジュース

仁 部 四 郎

欠席がなくて九月の始業式
へそくりを宝クジの日ちよつと借り
重陽の節句団地に救急車
名月や宇宙船ツアー不参加
市長から敬老の日に税金で

政 岡 日 枝 子

視野をひろげる心の窓をあけようと
人間が好きで窓からのぞく雲
宇宙の果てを見せてほしいと思う窓
窓の光老いてく果てをふと思う
若者を鼓舞するような稲光

兵庫県 川柳祭 in 加東

日 時 12月4日(日) 10時開場
場 所 滝野文化会館(加東市下滝野1369-1)

事前投句の部(共選)

- 「国宝」 赤井 花城・堀 正和・西村まさ子 選
- 「錦」 矢沢 和女・宮本 喜明・桂 ひろし 選
- 「技」 長川 哲夫・稲垣のぶ久・嵯峨里かほる 選

※各題1句、未発表作品に限る。大会への出欠記入のこと

応募方法 所定の事前投句用紙(コピー可)使用

応募料 1000円(定額小為替)

締切 9月12日(月) 当日消印有効

応募先 〒679-0292 加東市下滝野1369

滝野公民館 兵庫県川柳祭加東市実行委員会 宛

当日投句の部(各題2句)

- 「滝」 藤原 紘一 選
- 「温かい」 安部 美葉 選
- 「戦い」 山口 光久 選
- 「教育」 上野多恵子 選
- 「住む」 村上 水筆 選

出句締切 12時 なお出句は大会参加者に限る

出句料 1000円

問合せ先

加東市教育委員会

生涯学習課

滝野公民館

TEL 0795-43-0545
TEL 0795-48-3073
TEL 0795-48-3073

川柳がつまらない

旧聞で申しわけないが昨年の川柳塔7月号は麻生路郎没後50年特集であった。川柳葦群の梅崎流青さん、きやり吟社の竹田光柳さんら多くの川柳家の寄稿が掲載されている。その中の一人に、東葛川柳会代表の江畑哲男さんの「リアリズムの復権」の文中の見出しに目が止まった。ここ十年、愛媛の川柳が面白くないと思っていたことと重なるからである。要約をして紹介する。

「川柳がつまらない」とは二十年ほど前から聞く事である、川柳会の外では川柳ブームが続いているというのに。句会や大会が旧態依然で、作品は選者の価値観だけで篩に掛けられる。議論や意見交換はそこに存在しない。次に入選句がつまらない。選ばれた句は確かに文芸的だが、面白みに欠ける。川柳の三要素のユーモアを、何処かに置き忘れたのか。大会の規模が大きくなればなるほど「高尚化」「文芸化」している。「道句」的な作品ばかりが高位入賞する。(最近の川柳会で目につく二つの傾向がある)。難解句や道句の流行。この二者の弱点を選者は見抜けないらしい。抽象句を否定するつもりは無いが、しかしながら、その抽象句の言い回しをよくよく吟味すると案外中身の乏しい作品だったりする。ちようど玉ねぎを剥いたときのように結局何も詰まっていなかったりすることさえあるのである・・・。

私が何時も言っていることを見事に代弁された。

温故知新

『高杉鬼遊川柳句集』から

よく耐えたものだ金婚式が来る
天皇の写真が生きている農家
メニユーなどみたことがないコップ酒
コロンボが一つだけ訊く帰りざわ
わが子には兜をきせぬ初節句
居眠りをそつとしておく肩まくら
タイガースについては父とうまが合い
そのときは庇ってくれぬ核の傘
エマニエル夫人が好きな男たち
トイレから戻る女を持つ荷物
約束の女が来ない紀伊国屋
青春をかえせとと妻が無理を言う
勲章をつけると肩が光りだす
裏声で軍歌を唄うのは誰だ
防衛費気になる町の散髪屋
日の丸の好きな男ですぐ燃える
新聞を取れとけつたいなのが来る
田を売った金とは知らぬ披露宴



西出楓楽選

松山市 栗田忠士

素のままで生きるそれが案外むずかしい

とりあえず歩いた後で考える

雑草じゃないよ私はネコジャラシ

句読点ばかりが目立つ不調だな

母の日は花 父の日はさて何にする

愛猫の最期を看取る五月雨

大阪市 平賀国和

目覚しの時計代りに蟬が鳴く

血圧計座右の友となりました

子の帰省指折り数え待つお盆

日本人もテロの標的不安増す

テロ産んだイラク戦争罪重い

始めたら終わらせ方が難しい

佐賀県 門井孝

あの頃を想い出させる朝ドラマ

青信号ギリギリ渡る老いの足

チロリンと鳴らす有田の鈴の音

言い訳をレシビの本のせいにする

孫が来るボツボツ直す骨董品

圧勝にアベノミクスが加速する

堺市 小林若芽

笑ったら不思議な力湧いてきた

いくつもの渦をくぐって出る笑顔

月に兎孫に言えなくなりました

八起き目もスロースローで生き延びる

七人の敵が仲間になって老い

どん底の昭和を生きてきた粘り

山口市 中前幸子

幽玄の沼伝説が起きてくる

人生ゲーム雨の旋律聴きながら

砂浜に燃えた骸よ夏挽歌

血脈の流れる音を聴く墓石

地球の軋みよプレートがまた動く

花ごよみめくる愉快な鼓笛隊

大阪市 平井美智子

中心をわざと外して攻めてくる
一人だけ笑い遅れて目の遣り場
人差した指が疼いている夜更け
思い出を小出しに煮込む一人鍋
寝返りの数をかぞえている枕
決断の邪魔をしている血の絆

豊中市 貝塚正子

素っピンがオンナの顔に化けてゆく
懐かしい歌背景も付いて来る
太陽のように真っ赤で沈みたい
聞く耳は肥えているけど歌は下手
神妙にお経聞くうち夢の中
精一ばい今を生きると天の声

倉吉市 中村毅

刺した蚊にそんなに旨い血かと聞く
日本は広い豪雨と水不足
不安定大気経済血圧も
英世より諭吉の方が好きと孫
節約とケチの違いはハートです
常識の物差し古くなってきた

横浜市 川島良子

迷走をしながら今日を立て直す
トコトンは追求しない主義わたし
直球できたから変化球で返す

忘却は神が授けた宝かも
いい記憶だけを辿って生きていく
夏バテへ女子会肉の食べ放題

大阪市 高杉力

降りてない駅がまだある通勤路
原因はストレスでしょうそうでしょう
お先が四人揃って向かう先
ゴミ出しを忘れて冷戦が続く
彼変わる度に料理の腕上がり
夏来る犬も昼寝の場所を変え

宇部市 高山清子

昭和時代恋しくなった世の乱れ
弁解へ心の揺れをのぞかれる
適当に手を抜く術で生きる老い
行間へ本音におわせ書く便り
国治める人が狂わす永田町
由緒ある過疎地観光客を呼び

八尾市 前田紀雄

サポータージカ熱怖いリオ五輪
監督の気迫が欲しいジャイアンツ
平均寿命より健康寿命
梅雨明けぬ素知らぬふりで蝉が鳴く
群青の大空は嘘付きません
上辺より中身を磨くロスタイム

山口市 青木 隆子

小雀が一人前に人避ける
すぐ寝つく母を起こしてみたくなる
健康な母あることに感謝する
振り向いて轍一つも残せたか
ありがとうただそれだけで満たされる

岩国市 上村 夢香

三日ぶり朝の光に湧くファイト
朝八時緩い空気の旅の空
葉です確信を持つこの冷酒
生きたとは次々宿題もらうこと
顔浮かべ言葉紡いで書く手紙

松山市 神野 きつこ

戦後から男の背骨萎えている
朝顔に夏の感謝を伝えたい
娘の笑顔綿毛のように飛んでいく
ありがとう届けてくれる赤バイク
投票は好きか否かで決めている

松山市 柳田 かおる

さかのぼれば源流のひとしづく
のたりのたり海は充電するのです
曲り角ふと夕焼けに会えそう
あじさいの情緒に雨が激しすぎ
遠距離のふたりにとても濃い時間

大洲市 花岡 順子

背すじピンと伸ばし言いたいことがある
リハビリの痛みは再起への希望
昼寝した付けを回収される夜
真に受けた話が財布空にする
骨折の痛みが右の腕にある

西予市 西田 美恵子

愛した記憶は遠く吐息の中にある
異国に住む子よ起きたかな食べたかな
迎え火に迷わずおいでお母さん
こんな時笑顔を見せるしか出来ぬ
草の匂いがいつもしていた父の服

北九州市 小松 紀子

いつだって亡夫は笑顔でハイポーズ
朝寝する時間出来たに目がさめる
精一杯今出来ることをやる至福
露草の気品私にほしいとも
物価高値段さておき量がへる

佐賀県 真島 久美子

変わりゆく人変われずに見ています
映画ならリターンズと書く外は雨
静観という愛情の氷点下
わたくしが無くなる空気清浄機
恋という交通事故に遭いました

沖繩県 高良秀光

何気ない娘のしぐさ母に似る
ありがとう夢と希望が飛行中
十七八は他愛なく楽しそう
ヨイドン俺の青春ラストラン
待ちに待つ日本力士の土俵入り

札幌市 齊藤宏子

音もなく散華のようにバラが散る
また一軒昭和遠のく貸本屋
古布祭り女の歴史溢れ出す
よしよしと日向くさい子抱きしめる
大空に道があるのか揚げ雲雀

弘前市 吉川ひとし

検診日逆転無罪勝ち取った
また来ると落書をした無人駅
地図にない道を必死に探すナビ
付合いに疲れ感じてます背広
電線のカラスが見栄を張っている

塩竈市 木田比呂朗

当てのない待ち受け画面見る夜長
予定では今日も図書館だったはず
缶ビール秋パージョンか奥の奥
茶柱に見抜かれていた依存心
通院は補修なんだと言いつ聞かせ

上尾市 中村伸子

辞書をくる句材拾いに行くのです
すれ違いあの日携帯あつたなら
パソコンが二台つけて謀反する
実をつけたトマトに声を掛けてみる
もう着ない赤が中々捨てられぬ

八王子市 川名洋子

にこやかに妻の指揮棒待っている
ひまわりくるくる一年生の傘
初恋は小鳥のようなキスでした
爪先で十八歳は船に乗る
なぜ気が合うか分からぬがずっと友

横浜市 巖田かず枝

赤とんぼ母さんかなと思つた日
老犬と白旗揚げる真夏日よ
聞き違い言い間違いの老い二人
皆元氣ただそれだけで嬉しい日
身を守るための銃だと言われても

横浜市 長島亜希子

夏だもの少し冒険するつもり
ぜいたくねカニ食べ飽きたなんて言い
ハイキングツアー仲間が歳を聞きたがる
最北のトイレ記念に使つてこ
枯れかけでも写真撮られるアツモリソウ

豊橋市 藤田千休

大阪市 森廣子

七輪で茶毘に付された目刺したち

旅の空恥は掻き捨て使い捨て

穿き替えも夢も詰めこむ旅靴

驕る平家に似てる与党の無礼講

長女次女三女と妻の包囲網

鈴鹿市 小河柳女

千変万化雲の色人の心

花の笑顔に魅せられ花になる

うきうきと青空に乗りふる里へ

螢火ともす存在は無のわたし

隠しても隠しきれない人の器量

大阪市 田中ゆみ子

変な人きつと相手も思ってる

汗くさいTシャツ今日も無事だった

お茶碗を洗う明日へ切り替える

荷が軽くなつた分だけ弱る足

良い町だ燕が巣立つ歯科の軒

大阪市 松田聰

まさかでは済まされないう離脱劇

津波禍まだ二千五百人不明

腕を組む姿親父に生きうつし

謝った方が勝つてる老夫婦

七十年戦死者ゼロは誇るべき

雨上りテントウ虫の背が笑う

向日葵の孤独を思う炎天下

ナンテとかソナンとか言い逃げている

横向けば横にもやはり厚い壁

そうなんだこれが地獄の余り風

池田市 上山堅坊

映画の余韻それぞれ楽し二人連れ

古い殻リニューアルする趣味ひとつ

輝いた日を語り合う同期会

お世辞などトンと言う気のない鏡

医者通い脈とる医者知らぬまま

岸和田市 宮野みつ江

一人身に自己責任がのしかかる

猫といて笑うことなし熱帯夜

良いことを思い浮かべてから眠る

クマ蟬よ騒ぐな今日はヒロシマ忌

三歳の眼に空襲に焼けた街

堺市 梅木澄空

今はまだ騙しが効いて動く膝

お遍路へ波に身任せ四国入り

波の音高く寝つけぬ今日の宿

おすすめメニューえらい違いやサンプルと

会食を楽しむゆとり七回忌

堺市 大和峯 二

笑うこと少ない世だね笑いたい
先輩の言葉が生きる身に染みる
この傷もあの傷も今生かしたい
まだ咲ける花でいたいと前を向く
マイナナーやはり不安が残ります

豊中市 上出 修

核の傘知ったことかとトランプ氏
イチローの世界も唸る走攻守
握り方変えてボールの七変化
アレコレと守り固めて午前様
喫茶店昔は談話今スマホ

豊中市 源田 啓生

生きているただそれだけにありがとう
尽きるときそれもそのままありがとう
言いつつも五欲容易に捨てられず
関わった全ての人にありがとう
その日まで笑った泣いた感謝して

寝屋川市 岡本 勲

よくもまあ冷しソーメン今日もまた
学問のすすめはいらぬ論吉くれ
晩学で知識を学ぶ縄ノレン
あぶないと言われた人が長生きし
ポツクリの昇天願い寺詣り

箕面市 寺井 柳童

離せない携帯電話万歩計
千両が万両よりも値が高い
万年補欠チーム一番人気者
死ぬまでは元気でいるとやせ我慢
コスモスの迷路をぬけて道の駅

大阪府 小栢 こずえ

ひと時の昼寝が元氣呼び戻す
口出しは控え目にして涼しく居
先人の汗積み上げた家に住み
分けあつて食べた絆が生きつづけ
病むことの代り誰にも出来ません

大阪府 神野 千恵子

本当は生まれた時がゴールかも
権力を握るとヒトはサルになる
物忘れおかげでいつも今が旬
チャンピオン独りぼっちになる予感
家庭から役割が消え絆消え

神戸市 輿水 弘

妻たちの饒舌楽し亭主ネタ
夏の記憶スイカすいとん皆笑顔
背を伸ばすこんなことでもひと仕事
透明な朝のかがやき老いに活
はつとする青い鳥とは妻だった

神戸市 細川花門
婆ちゃんは大好き爺ちゃんはおまけ

気まぐれな孫だ血筋は争えぬ

句会後の美酒がたのしみだから行く

日本語の「せこい」世界を駆けめぐる

イギリスがドミノ倒しの引き金に

神戸市 山根弘子

味方だと信じた友にうらざられ

車間距離おいて夫婦の和を保ち

百歳を目ざす卒寿の好奇心

一言がすぎて老輪きしみだす

スピーチで身振り手振りで笑い呼び

尼崎市 清水久美子

目覚しになる朝練の子らの声

風通し良くてのびのびする職場

あいまいに答え身の内明かさない

一日のピリオドにする大ジョッキ

あめんぼが大空を蹴る雨上がり

尼崎市 永田紀恵

負けだすと片目で見てるトラ試合

時として杖に化けてる日傘かな

ちよつと診て手術したがる外科の医者

大くしゃみ膠着破り座が和む

一寸の虫です意地も見栄もある

老妻がお喋りになる旅の空

水一升汗一升の暑さかな

創作のおかずに変える残り物

百までがなかなか言えぬ孫と風呂

ジジババのお守り任せる3歳児

篠山市 長谷川善輔

紫陽花も茶色く枯れる猛暑の日

留守電に何で留守やと文句言ひ

あいさつに受けをねらつてオヤジギャグ

結婚が未来をつぶすこともある

バブルの日々まだ懐かしむオレがいる

三田市 九村義徳

遠い日の父に似てきたお人好し

あやふやにしてたらピンチやつて来た

筆順が違うと孫が胸を張る

ウインクを花粉症かと去なされる

里帰り母の匂いを持ち帰る

三田市 東内美智子

琴の糸切れて妹先に逝き

蛍雪の灯りを知らぬLED

息子の言葉きつう感じて柔らかい

イベントに紛れこんだか雨男

カタカナ語読めても意味のルビほしい

小野市 田中辰夫

宝塚市 太田 としお

何があつても等身大で生きている

健さんよりも僕はやっぱり寅さんだ

次の世も日本人で願いたい

息子より頼りに出来る札の束

金と健康どつちかせいと言われても

宝塚市 丸山 孔一

加齢です五体何処かで崖崩れ

再発を防止しますと何度でも

話し合ひだけで尖閣守れるか

九条で来るミサイルをどう防ぐ

出来もせぬことを叫んで選挙戦

香芝市 山下 純子

ふるさとの訛り振り向くバスの中

半世紀ウルトラマンと共に生き

生き方を守りモードに換える年

ケンカするパワー残して夫待つ

気がつけば母の味付け守ってる

和歌山市 倉橋 悦子

平等に降ってほしいと思う雨

お日さまと仲良しお茶を持ち歩く

おもむろに季節が変える風の色

半世紀愛から絆くさり編み

父の夢もう軍服は着ていない

和歌山市 福呂 秀子

冷え性も暑い暑いと喧しく

暇そうで退屈知らぬ老いの日日

額紫陽花日影ひっそり良く似合う

夾竹桃吉屋信子を思い出す

断捨離をしたと寂しさ此方迄

紀の川市 山東 日出男

逆らえぬ雨に泣く人笑う人

しなくても済んだ喧嘩は痛み分け

相対論なんぼ聞いても解らへん

原爆の凶から魂ほとばしる

名工の鉋は常に冴えている

和歌山県 森下 よりこ

耳も目も八十歳のそれなりに

一人ぐらし老化のスピードが上がる

梅雨前線消えて暑さへ四苦八苦

花畑次の季節を準備して

生返事しながら新聞読んでいる

倉吉市 大羽 雄大

ぐずぐずもやっと手を出す締切日

前のめりなつても転けぬ千鳥足

もの忘れ夫婦互いに五分と五分

オイと呼びハイとこたえて軒止む

蟠り解けて花びら宙に舞う

倉吉市 岡崎 美知江

点滴がポトポト命のびたよう
翔べる日をチエック静かに風を待つ
青信号風に押されて渡りきる
青い空みんな許してくれそうだ
大丈夫まだくちびるに唄がある

倉吉市 堀 かずこ

一日が老いて過ぎてくかけ足で
誰にでも古傷はあるバネにする
人生の過去から逃げて明日はない
御披露目の笑顔可愛い舞子さん
人生は良かれ悪しかれドラマだよ

米子市 野川 宣子

親子でも甘え許さぬ芸の道
お互いのうっかりミスが笑えない
汗と涙で身につく芸は本物だ
大山のみどり手招きしてくれる
じじとばば違う次元で孫おもう

鳥取県 児玉 規雄

夫婦ともゴールド免許宝物
ボケ防止車運転止められぬ
ハンドルを握るとファイト湧いて来る
車より心傷つく自損事故
助手席のナビゲーターはよく喋る

松江市 中筋 弘充

重い荷を下ろし逃げたい時がある
世論調査に当たり障りのない答え
オイと呼んでも返事をしなくなった妻
お湯割りをロックに変える梅雨の入り
飲み会の幹事ぐらいはやりましょう

松江市 福岡 左余

無口でも亡夫居た日の安らぎよ
哀愁の泣き声子牛売られ行く
俄雨歓声あげる夏野菜
売る程にできた馬鈴薯悲鳴聞く
唐黍の実りひそつと待つ鳥

松江市 山根 邦代

ふる里は生きる支えになっている
不安の種思いひとつで晴れてくる
惨いことなんでナンデと涙おち
聞き役に回れば弾む笑みも出る
この一票生かしてくれる人選ぶ

雲南市 菅田 かつ子

よく見ればどこか似合いの犬と猿
長生きの笑い袋を持ち歩き
顔バズルみたいと曾孫に見つめられ
待ちぼうけ約束したこと忘れられ
チャンスです兎が昼寝しています

瀬戸内市 東 槇 ますみ

嘘一つ吐いて人間くさくなる

外食もあきた男の台所

三角の言葉を呑んで胃酸過多

角曲るまではお面がはずせない

ポケットでまだ迷ってる私の芽

瀬戸内市 宮 宅 比佐恵

沈黙を通し筋道たてている

指切りを忘れていない指うずく

昭和史に断捨離出来ぬ義理もある

相槌を打てば私の罪になる

褒められて桜のように逝きたいな

玉野市 片 岡 富 子

負けること恥じる気もない歳となり

ローテーションいつも二人ですぐ終わる

備蓄品平和かみしめまた食べる

輪くぐりで年に一度の人に会う

数値良し三段腹が強気なり

岡山県 高 岡 茂 子

草取りに起こされている大蚯蚓

親よりも長生きしてる誕生日

物忘れ作り笑いで場をすごす

勅斗雲あればすぐにも飛んでいく

騙されて幸せでした五十年

竹原市 若 年 幸 子

迷いとけやつと心がしゃべりだす

泣き笑い人生模様抱いた恋

目標へ届かぬ汗のもどかしく

振花のずらり振られてフラダンス

ちよつとだけおめかし孫の参観日

竹原市 六 田 半 徳

左手を右手でさすり明日想う

朝食後夫婦そろって飲む薬

一号の台風連れて来た豪雨

無差別に人命奪う若いテロ

梅雨明けを待ってましたと蝉の声

三次市 伊 藤 寿 子

社運掛けテレビ出演照れる夫

四代目からのれんバトンが出来るやら

昭和の世美し過ぎる思い出が

朝夢が本当になる日の恐さ

靈感などないと思うがよう当たる

三原市 笹 重 耕 三

でっかい夢が遊いでいる蒼天

私にまだある明日からの予定

酒飲みを誘う夏です冷奴

割り引きのシール目当てに行く財布

黄昏れるまでにやりたい事がある

佐賀市 清水園實

梅雨時は坪庭なれど草繁る
何ごとも気にせず生きるひとり者
銀行に小錢袋をさげてゆく
新しいコンロ取替えリフレッシュ

唐津市 岩崎實

干竿のしずくの玉が光り合い
妻の食すすみてうれし梅雨晴れ間
捨てられてしまった後を探して
さもあらん一言多い悪い癖

唐津市 吉富節子

台風もそれて安堵し予定くむ
この頃は夢と現実かさなつた
亡夫年忌すんでも側にいるようだ
昔なら離婚しなくて我慢した

山鹿市 中山好打

あじさいもここぞとばかり咲き誇り
これでもかことん責める自然界
たかが恋されど恋とて夢の夢
示談までやつときたのにまた悩み

山鹿市 前田幸子

天と地と相和し平和望みます
雨にもめげずくまモン元気がんばろう
晩酌は亡夫しみじみ思う時
戦時期の歌を歌えば目がうるむ

山鹿市 柳田白沙

この夏もひまわりの君心待つ
自分流はざまで見せる真骨頂
今日もまた旬の私をごらんなれ
決めました最後のとまり木この心

シドニー 坂上 のり子

背負つてた孫にもう早や選挙権
月謝分じゅうぶん遊び笑つた日
留守電へハローでいいの声入れて
病院のご飯うまいと声優し

札幌市 富永恵子

菜が届き今夜のレシピはカルパッチョ
草いきれ初夏を運んで人の影
頑張つた今日の歩幅に雨樂し
雨降りを待つていました工事あと

登別市 小林碧水

夜の雨君の負けだと言っている
敗戦の洗い残しがありますか
カキ氷体の夏を追い出しに
空の巣を花束買って温める

弘前市 高森一吞

真四角で父の威厳は不器用で
幸せは少し遠くで待っている
千の風吹いてブランコ揺れ続く
ちやつかりと友を尋ねてランチする

カッコウの声も托卵注意報
生きてゐる実感ラムネらっぱ飲み
彷徨の背に海鳴りじんと沁む
ポスターのロゴが迎える道の駅

男鹿市 伊藤 のぶよし

発車ベルとび乗り見れば専用車
海も山も祝日あると川怒る
離脱して焼けほつくいを恋しがる
梅雨明けを待てぬ蟬達シヤアシヤと

つくば市 嶋本 喬

セラニユームの庭が招くよ春の詩
ミニ菜園心も発芽青い空
旅半ば気楽トンボに救われる
反戦をラップで叫ぶ仲間の輪

松戸市 山下 明子

ボーナズで子供がくれた赤ワイン
ヨチヨチと歩くギャングを追いかけて
家じゅうでとうとう一番チビになる
いい姿勢若く見えるといい聞かせ

東京都 高岡 弥生

平均寿命迎えた余裕でうまい酒
スーツばかりで着て出るものがない
五十回忌昔が通じる人に会い
五十回忌わかる人だけ来て貰う

佐渡市 高野 不二

左手がイライラしてる明日見えぬ
青春に口づけさえもしていない
選手権十八歳がやかましい
左利きなのにお酒が飲めません

沼津市 鳥沢 無午

だれも死ぬ死ぬのはいやだだれも死ぬ
老いて知る身体の部品がさびて行く
老いて知る健康一番大切よ
老いて知る縁ある人の大切さ

静岡市 渡辺 芳子

寸志受け披露する前中を見る
まだ若い育毛剤でマツサージ
ボケ防止編み物編んで贈る妻
妻の電話夫婦間にもルールある

江南市 脇田 雅美

早よ起きよと蟬の合唱急かしおる
年金日一寸せいたくファミレスへ
ヘソクリの在り処互いにまだ内緒
ゆるゆるとスイッチバック余生生く

大阪市 磯島 福貴子

ネクタイをかたく結んで振り向かず
影を出て影に隠れた油虫
道の駅トイレの帰り品選び
引越のそばを配って探り入れ

大阪市 大治 重信

大阪市 柴本 ばつは

身の程のカード細々役に立ち
孫去んで九月はきらい疲れたわ
猫までも掻きまぜられた夏休み
猫二ひきほんやりしての相手無し

大阪市 梅里 南天

英国にジャンヌダルクよ疾く出でよ
楽ちんと思つた日には落とす穴
言い逃れ政治家様に教えられ
勤務時に新聞を読む心地よさ

大阪市 前川 善之

大阪城暑い暑いと蝉しぐれ
イギリスは世界経済掻き回す
梅雨時の晴れ間探して散歩道
老人は憩いの場所を探してる

大阪市 宮村 満寿恵

電車中申し合わせか皆スマホ
軽い嘘聞いていたけど聞かぬふり
帰宅した機嫌で解る子の疲れ
血糖値あれこれおかず悩んでる

大阪市 横山 里子

ボケた振りしていませんよ素ですけど
婆ちゃんはラインに負けぬ口コミで
百合園でつなぐ母の掌温かい
うかつにも転び先行き読めぬ地図

大阪市 吉田 知之

新語ばやり字引にも無く困つたな
昭和の子ゴマ塩頭バリカンで
住職の胡麻料理には般若湯
五七五世間の見方広くなり

泉大津市 助川 和美

少子化に先祖の墓を守りかね
ちよつとでも寝ていたかつた若い頃
軽々と交わした言葉悔んでる
下駄箱に妻のヒールが眠ってる

交野市 田岡 久幸

妻と娘の電話いつはてるとも知れず
父の日にオバマも飲んだ銘酒くれ
ローテーション昼たべたもの記録する
べっぴんの方に投票するつもり

河内長野市 穂口 正子

連れ添って違う景色を生きた妙
予定詰め追いかけて生きる前のめり
サブリ多数効いてる様な無い様な
心弾む若く見られたそれだけで

河内長野市 森田 旅人

朝焼けを見て市場へと八十の母
台所に魚の光る午前五時
みそ汁の香りの目覚め里帰り
坊さんの来る日遺影に生氣あり

河内長野市 渡邊 修

困ったなやみつきになる船の旅

この世の中を変えれなかった政活費

レシビよりごちそう作るロボほしい

二枚目がブライド捨ててお笑いに

堺市 近藤 治子

水たまり蟻には深い深い池

窓明かり塾の帰りを待っている

龍宮の気分浸る水族館

信じてたイミテーションをお宝に

堺市 羽田野 洋介

せっかちで得をしたことあったかな

意識してとほけるうちはまだいける

シニアだなんて気持ちはまだいける

もやもやも飲んで歌えばすつきりと

高槻市 三谷 白黒

定年後留守にするのが妻のため

お互いに聞く耳までも老化して

この先はどうにでもなれ今よけりや

身の丈に合った生活楽ですよ

豊中市 荒木 郁子

行きすぎのしつけ親が問題児

親も子も成功のキープしてる

ウォーキング快感となる一万歩

一票は迷わず主婦の目線から

豊中市 荒巻 夢

二ホニウム飛び込んできた良いニュース

同世代昔話に目がうるむ

おはようさん天国も今朝ですか

真白な太ももちらり困るなあ

富田林市 小出 修三

唐黍の味見鴉に先越され

嫌われぬよう健康で存える

痛いところ飛んでゆきなと撫でてやる

塗り絵本貰ったままに積もる塵

寝屋川市 守家 尚世

七夕に冥土の妻に逢いに行く

やさしさの思い届かぬ現代子

してやれる事は全てをし終えた気

独居する気持青春あこがれる

羽曳野市 安本 美喜

気分よしわたしの一票国会へ

出目金の泳ぐ涼菓の青の精

金婚式一年遅れの祝かな

向日葵を壺いっぱい終戦日

羽曳野市 磯本 洋一

島の猫釣り人待つて何処から

梅雨荒れる雷公豪雨仲間連れ

年金の私に合うなあ発泡酒

梅雨寒に豆腐屋の声寂しげに

羽曳野市 仲谷真一

日本丸船行あやし波高し
ちよつとだけ株の配当こづかいに
ちよつとまでスマホ運転危ないぞ
イギリスのEU離脱波高し

箕面市 大浦初音

笑顔よし坐っただけで和む席
悔しさを知ってる人は強くなる
気負わずに平常心でのぞむのみ
ここだけの話はいつも散歩する

箕面市 中山春代

ザワザワ写真の父へ鎮魂歌
湧き水の苔の匂いを手に掬う
迷ったら明るい方へ行ってみる
片陰を伝い駅まで遠まわり

八尾市 田邊浩三

温暖化熊も冬眠不足かな
温床でできた野菜に匂はない
匂ですね褒められたのか孫娘
痛み止め飲んで握ったドライバー

八尾市 山川寧

麻雀で三人打ちが出来るんや
録音で選挙運動軽薄な
近眼を克服したよ白内障
優先席スマホに耽る若者や

大阪府 高木道子

耳遠くなるも浮世の通過点
熱中症のテロップ昭和に無い吐息
ダイレクトメールと私根比べ
順順に地蔵撫で行く夏の風

大阪府 畑中節子

じゃが芋と会話し乍ら掘る至福
さらわれる老いらくの愚痴畑に捨て
うっかりは年齢のせいだとあきらめる
老いて今友との対話気が和む

尼崎市 藤田雪菜

何時か咲く人とは違う色探す
お酒より君に酔いたい朧月
案山子にも事故のない様見守られ
気持良く歌ってるのに鐘一つ

伊丹市 平井富夫

雨宿り美人と一緒雨やむな
パンダさんあんなに太る笹竹で
飲んで食て昼寝しているうちの猫
褒め上手相槌うって聞き上手

川西市 日野岡和之

母しのぐ味わい妻の柏餅
九条に生かされ平和甲子園
十八歳番茶も出花選挙権
一票へ平和人権意思表示

何よりも宝と思ふ母の愛

目に見えぬ亡夫と結ぶ赤い糸
夜八時娘の電話にホッとす
この季節色々野菜感謝する

篠山市 永井 かほる

ウォーキング花や小鳥に励まされ
好き嫌い今も言わない戦中児
夫遺影何か言いたげ私見て

篠山市 藤井 美智子

包丁のリズム認知を遠ざける

三田市 幸田 厚子

自販機が鎮座している村はずれ
のろのろの車列の前はパトロール
花粉症ついて来ないで春の旅
どこにでも大小問わず銀座街

三田市 宗福 清司

ホールインワン仮想でも良いしてみたい
黙らせる為の条件高くつく
さびしいネ全雨戸閉め増えてきた
私の歯昔表彰今治療

三田市 多田 雅尚

不足だと必ず言ってくる切手
スーパ―に有ってコンビニ無試食
子は夢を大人は金と短冊に
受診して加齢が先について出る

父の歳幾つ越えたか指を折る

マークした意味を忘れて悩み出す
ゴージャスなドレスはみ出すサロンパス
シルバーマーク付けてガンガン飛ばす人

三田市 谷口 修平

ストープが終らぬままの扇風機
ウォーキング小雨の梅雨に傘を友

三田市 辻 開子

道の駅山盛り旬で卓かざる
駆け込んだトイレで涙連れがいた

三田市 馬場 貴美江

夢の中亡夫笑顔目が合わぬ
スッピンの鏡の中は母の顔
雨あがり水辺恋しい猛暑日
選挙カースピードあげて通り抜け

三木市 山口 久子

心地良い秋の夜長はテレビ番
夕涼み蚊まで仲間でにぎやかに
朝日背に仲良く散歩老夫婦
信念で生きた記念は顔のしわ

奈良市 尾畑 なを江

この頃はスローライフが身に付いた
亡母呼べば前見進めと言うばかり
暑いのに熱い食べ物欲しくなる
金脈も人脈さえも無い家系

奈良市 高橋敬子

留学へ親押し切つて独り立ち
化け猫が消えて平和な猫ばかり
手術前あれこれ思い眠れない
通販の写真に買う気そそらされ

和歌山市 北原昭枝

陽炎に耐えて咲いてる夏の花
わたしにも下さい少し好きなバラ
不器用に生きて耐えてる肋骨
ひび割れた茶碗が持っている望み

和歌山市 鍋嶋澄子

珈琲の香り心の折れ癒す
遊歩道咲く花手折る不粋者
意地っぱり泣きたいこともあるだろに
旧友に逢つてつくろう空元氣

和歌山市 平田元三

ああやつと涼しくなるか鱈雲
一升瓶慌てて空ける月見前
取れ立てを漁師が捌く朝の味
体調を朝食の味が予告する

鳥取市 大前安子

応援の色にトライも燃え上がる
靴紐を解いてあなたの笑みを受け
五十年素のまま夫へ包まれて
シャワー全開明日の風を吸うために

鳥取市 奥田由美

乗り換える毎に確認トイレ場所
金尽きた旅の終り日握り飯
旅先も五円支払うエコ袋
予兆とか痛みないまま手術台

鳥取市 高原かおる

口先で日本を変える選挙カー
二度とない今日一日を有意義に
再びの再会ちかう同窓会
知恵しほれ先ずは頭に活力を

鳥取市 田中天翔

五分粥のでっかい芋の旨いこと
私のルーツも急に気にかかり
詠みたいのです評価二の次五七五
建前と本音はわたしでも違う

鳥取市 津村律子

患者より指示を聞いているパソコン機
診察室三分間で追い出され
三分間の診察異状無いらしい
せなならぬ仕事有るから勇氣湧く

倉吉市 田中紀美恵

チンのおかげ時間節約すぐ食べる
エアコンがガタガタしゃべるもうだめだ
ポトポトボタリ汗掻く夫たのもしい
嘘ついてポトポトぼたり脂汗

境港市 中井虎尾

卓哉さん願いは空に行つて掛け(七夕飛行)
いばつても妻の掌中に居る男
ノンアルを飲んで宴会盛り上げる
内緒ごとバラす相手にうそを言う

米子市 生田和之

異業種を待てど電気を売りに来ぬ
地方創生活性バスが街を行く
被災地に追い打ち掛ける雨しとど
予想せぬ離脱に世界風邪を引く

米子市 池岡たけし

深い谷行く道程は限り無く
芸のため只ひたすらにのめり込む
年嵩は老いたと言つてまた逃げた
草も木も芽生える時の底力

米子市 川本美津子

のら猫も八方美人餌ねだり
孫達に愛を与えて夢もらう
暑いねえ毛皮を着てる猫に言う
旅立ちを自分で予言断捨離す

米子市 田村周子

芸能人結婚病気大ニュース
あじさいが見頃となつて仏壇へ
苦勞して顔に刻んだ深いしわ
愛孫が帰つてくれば力湧く

米子市 永井三津子

ゴミの日に僕を捨てたい時がある
割烹着亡母の温みが染みている
孫叱るたんと逃げ道開けてから
財産も地位も無いから気楽です

米子市 見山温子

草花がきれいに見えるウォーキング
虫食いも手掛けた野菜捨てがたい
クラス会葉見せあい自慢する
悪い事いい事あつてドラマかな

鳥取県 飯野菖子

息子から届く便りは温かい
つながれたネットワークの中で生き
人間よ衝突やめて丸くなれ
夫との衝突だけはやめられぬ

鳥取県 門村幸子

ほんやりと日々を過ごしてトコロテン
磨き残さないはずでゆく歯の検査
化粧水たたきこんだら済む素顔
ゆとりある時間授かり今が旬

鳥取県 下田茂登子

タンス預金我がタンスには見当らぬ
夫婦の仲互いに秘密もつて生き
姑に仕え嫁に仕えて昭和一桁
昼食時ビールも飲んで一人です

鳥取県 橋谷 静江

防犯のカメラ迎える友の家
呆けまいとあれこれ友と語りあう
年金日夫へ感謝の受け取りに
歩くため遊園地には来たものの

松江市 相見 柳歩

一列を崩して好きな子の近く
似たようなセリフ赤点の言い訳
仏さまシヨック与えて試される
紙一重頂点に立つヒトとの差

出雲市 黒目 英男

ニホニウム日本の科学認められ
そよ風に笑顔が戻りリラックス
大願を成就させたいマメなうち
川柳に思いを載せて世を変える

安来市 原 煩惱児

古井戸で西瓜冷やしていた故郷
古井戸で冷やした西瓜家族の輪
病院の窓から故郷の山遥か
雑草の花に病む身を癒やされる

岡山市 藤成 操江

今更と思うこれからとも思う
プランター歪なキュウリだが旨い
深入りはしないきれいなきれいな輪
中の下あたりで心地よい我が家

瀬戸内市 片島 秀月

ゆつくりと竹を踏んでる梅雨の部屋
晴れた日は妻と私は花と蝶
老いて尚父母の温もり忘れない
朝ドラが変わり鼻歌かわる孫

岡山県 紫 しめの

芋づるの先に大物ついてくる
甘い汁求めピンポークじを引く
キラキラとジャラジャラの先にある奈落
生き方も死に方までもトリセツに

岡山県 山縣 のぶ子

おにぎりがりユックに温い登山道
木曾駒で富士を見晴らす誇らしさ
蹴つまずき小石が憎い下り坂
限界とばつさり切った山が呼ぶ

尾道市 小畑 宣之

サン格拉斯帽子マスクで誤解され
野良猫も甘え身につけ生きていく
前向きにはなくすぐにやってくれ
老人力つけて悠々生きてます

竹原市 土井 輝恵

挨拶をしても返さぬサン格拉斯
昼食は食堂夜は店屋物
崖つぶちチャンスの神はそこにある
跡継ぎは都会で暮らし家族葬

府中市 岸田 武

健診にまた一センチ低くなる
効かぬかも一年前の風邪薬
通勤車のスマートフォンに囲まれる
蟻の列前を信じているのだな

府中市 田辺 和子

立葵まだまだ背筋のばせませす
腰痛が今日の仕事のバロメーター
ものぐさで物置き易く取り易く
猫帰る今日の株価は乱高下

三原市 鴨田 昭紀

まだ呆けていない悪知恵が働く
震災の街から温い灯が消える
友情の証しに塩辛い助言
ママ友の謎が朝からよく弾む

山口市 増田 めだか

口止めのきかぬカラスは噂好き
習うより慣れろと匠愛の鞭
夫の留守風雨の音にふるえてる
若いつて素敵になれる恋がある

下松市 有海 静枝

叩き売りしない意地入れ持つ靴
記憶ない母に繋がるだまし舟
むずがって困らせた母あやす番
確かめる昼夜寝ている母の息

松山市 郷田 みや

思い切り汗を拭いてもいいのです
オシヤレです冷製パスタと言っておく
沖縄から届いたハガキ宝物
寄せ書きにたつた一言ありがとう

今治市 渡邊 伊津志

ゴミ出しのモラル烏に笑われる
泣きなさい笑いなさいと神仏
自在鉤主は懐古の茶を容れる
受験子を片目で見ている福達磨

高知市 三谷 松太郎

青のない横断歩道ぞろぞろと
通販が届いたほどの幸せ度
顔の皴年齢などは違う過去
良くもなく悪くもなくてほっとした

第156回 大阪川柳の会

日時 10月12日(水)
午後1時開場
午後2時締切

会場 大阪市北区梅田
駅前第2ビル5階
大阪市立総合生涯学習センター
第一研修室

宿題 (各題2句)
「戸惑う」 二宮千栄幸 選
「安い」 天根 夢草 選
「ポイント」 鴨谷瑠美子 選
「舌」 森中恵美子 選
席題なし

会費 1000円
欠席投句 (切手82円5枚同封)
10月11日到着分まで
会員に限る

{会員募集} 年会費 1000円
会報を年6回奇数月にお届けします。
〒532-0025
大阪市淀川区新北野1-3-4-706
本田 智彦 宛

新川柳鑑賞 (55)

麻生 路郎

御亭主の儲け誇示した舞ざらえ

(修 三)

舞ざらえというものは莫迦々々しく費用のかかるものである。デカデカした衣装にウンとかかるだけでなく、ご祝儀が予想外にいるのである。

そこへ虚栄心も手伝うので、一寸やそつとの収入では舞台を踏む訳には行かない。勢い御亭主はどんな働らき手かと思わせるほど派手に振るまうものである。

わたくしの趣味は仕事と大きく出

(静馬)

仕事は仕事、趣味は趣味とハッキリ区別している人がいる。どれが趣味やら仕事やらハッキリしない人もいる。仕事はしているのか、していないのか判らぬが、趣味なら、甚から釣から踊と何でも来いの人もいる。

ところが、政治家や実業家で、何一つ趣味を持たない人がいる。こんな人に、

「あなたのご趣味は？」

と訊いたところが、

「私の趣味は仕事ですよ」

と大きく出たと云うのである。そんな人間に限って女色に耽っているようであると作者は思ったのであろう。

たまに見た映画はキッスばかりして

(湖山)

映画を見たからと行つて別に腹の足しになるわけでもないが、永い間見ないので、フト見る気になった。ところがキッスばかりする映画だったのでウンザリしたというのである。たしかにそんなことを経験する人が多からうと思う。軽い穿ちの句である。

眼が覺めりや丁度映画は済んだ処

(花村)

パイ機嫌で映画をのぞく、キッスシーンを見ても大して興味が湧かない。まして連れて行つてと云われて来た女の手を握るほどに若くもない。そこでついウトウトとする。ハッと眼が覺めたら、終と云う字幕が映っていたと云うのである。

泥沼へ斬られて転ぶ役が付き

(丁路)

スターだけで映画が出来上る訳ではないが、その他大勢にしても、いい役もあればわるい役もある。この句はロケーションで、

泥沼に斬られて転ぶだけの役がついたのであるが、それでも映画俳優としての誇りを持つてゐることは想像に難くない。

ロカビリー新興宗教よりさわぎ

(雄々)

踊る宗教のように、新興宗教というとなんとなく騒がしいものが多いが、近頃流行のロカビリーというのは、新興宗教よりも、もつと騒がしくて、一般人から見るとまるで気狂い沙汰としかうけとられぬと言つたのである。そういう観方も一つの観方には違いない。

黒帯の猛者も口説きの手をしらず

(一念)

黒帯と云えば柔道で初段以上の者が縮めることになつてゐる。その黒帯の猛者が敵を降すには色々の術を知つてゐる筈であるが、惚れた女を口説く手ばかりはどうしていいか判らないということを詠んだものである。

フラフープの周りを雪も付いて舞い

(甞光)

最近に流行したことも大人も楽しんでおもちやのフラフープを詠んだ句はかなりあるが、斯の句のように感じを巧く出したのは少ないと思う。「雪も付いて舞い」が情景を生々とさせてゐる。

英語 de Senryu ⑤7

麻生路郎句集 『旅 人』

英 訳 吉村 侑久代 Kim Horne

すべりんこ親は涼しいとこで待ち

*kids play on the slide
their parents wait
in a cool place*

水溜り 飛びそこねても 一人かな

*missed jump
over the puddle,
nobody helps me*

play on ～で遊ぶ *slide* 滑り台 *parents* 両親 *wait* 待つ *place* 場所
missed jump 飛びそこねて *puddle* 水溜り *nobody* 誰も～ない *help* 助ける

～リバーウィローのため息～ R.H.ブライスによる川柳の解釈と英訳②①

今回も SENRYU から、(人の心理) つまり、心の動きを取り上げましょう。

惜しがられながら天才使はれる 琴 波

The genius / Is commiserated with,-- / But used just the same. (Blyth 訳)
genius 天才 *commiserate* ～のことで憐れむ *used* 使われる
same 同じ 同様に

頭脳明晰で、黙々と仕事をしている青年の姿が浮かんできます。戦前の道德教育の教科書に出てきそうな人物です。器量にふさわしくない仕事を続けていることを周りの人間は解っていないながら、彼を評価し、引き上げもしません。むしろ心の中では「社会はこんなものだ」と思っているのかも知れません。人間の心の中に巣くう冷淡さは、戦前のみならず現代の社会にもあります。ブライスは *This verse is a satire on the apathy of people, the shallowness of their compassion and admiration.* (この川柳は人間の無関心、同情や賞賛の薄っぺらさに対する皮肉である) と述べています。人の心の冷淡さを揶揄した句と云えましょう。いつの世も人を育てることのできない環境は、豊かな社会を生み出すことはできません。作者の琴波(1900～1977)は、敦賀市生まれ、福井県たばこ信用組合専務理事や番傘同人として北陸地区番傘発展に寄与しました。

参考文献：Blyth, SENRYU (北星堂書店 1949) p.170. 尾藤三柳編『川柳総合事典』p.90.

誹風柳多留一一二篇研究 39

伊吹和男・山田昭夫

石川道子・小栗清吾

細井龍夫

清 博美

310 すばしりをそへて金ひやうぶをかへし

伊吹 スバシリは、ボラの幼魚である。「物類称呼」巻之二の鱸ぼらの項に、

一説に此魚河と海との潮境しほまぎを往来する頃を賞して洲走の名有とぞ江戸にては六月十五日より洲走と呼すばしり十四日迄をいなど云也

などである。六月十五日の山王祭に借りたお札に、すばしりを添えて金屏風を返す。

ひやうぶの札にすばしりをもうろうなり

安五仁5

山田 賛。ただ、

金屏風立テにやうられぬ肴也

傍 38

という句のようにスバシリは六月十五日が解禁日。だからスバシリの走りを札に添えた事

になる。
清 賛。出世魚の名称はむつかしい。

311 黒猫のわんもやつはり片思ひ

伊吹 労咳の原因は、異性と接する機会が少ないための気鬱症と考えられているから、回復のお呪いの黒猫が使っている碗も、磯のあわびの片思いの、あわび貝である。

黒猫のわんにはきざなあわび貝 一五 41

小栗 賛。飼い主も片思いなら、黒猫の碗もやつはり……。

清 賛。片思いの碗とは、一対の碗で片方が破損し、支えなくなつたものの片割れか？

312 ばいしよくでなくて三三せんまくら也

伊吹 芸者や踊子。純然たる淫売でなく、三味線を弾いたり踊りを踊ったりする合間に、色をひさぐと言っているのだろう。
三味線を枕にとんたい、てうし 六四 22
山田 賛。立前はあくまで芸を売るのが商売。
清 賛。女郎ではないという意識。

313 にうり見世みの無いがんやかもがとび

伊吹 煮売店は、飯と煮物を売つたり食べさせたりする店。煮売店の軒先にぶら下げた雁や鴨とも思つたが、やはり料理中に雁や鴨の羽根が飛んでいるというのか。
まけこけたかりがねの居るにうり見せ

天三箱 2

山田 賛。身の方は料理の中。

石川 やはり店の軒先の風景ではないでしようか。

清 石川説賛。軒先に羽根を吊した風景。

314 今いふハ口づうへだとふとんかけ

伊吹 口費えは、言つてもむだなこと。言うかいのないこと（『日本国語大辞典』）。酔つ払つて帰つてきた亭主に、小言を言つてもか

らまれるだけだから、明日の朝にでもしよう
と、寝てしまった亭主の背中に布団を掛ける
女房。

生酔にまけて大屋ハあすの事 一三12

山田 賛。でも明日の朝が大変だ。

清 二日酔の頭に女房の小言は、ズキン／＼
とひびくに違いない。

315 ものもちのわるさ今度で三人め

伊吹 配偶者が次々と、亡くなったり、離縁
をしたり、させられたりで、今度で三人目だ
と言うのである。それを物持ちが悪いと表現
している。丙午もその一例だが、断定はでき
ないだろう。

細井 賛。 二三人けころして来た女房なり 二〇11

清 若後家を命取りとハきん句なり 明五天2
男だとはかり思っていたが、女の場合も
あり得ますネ。

「物持ちの悪さ」は、川柳らしいいい表現。

316 妾の不首尾きんくわ一ち日のゑい

山田 権花一日の栄は「栄華のはかないこと
のたとえ。つかのまの盛り」(「日国」)。

主題句は「妾の不首尾」をどう取るかによつ
て二通りに解することが出来る。

①妾の不首尾が原因で、権花一日の栄となつ
た。原因は色々と考えられるが、これは自分
の責任だから、文句も云えまい。

御めかけのふ首尾さし売数度の事 二二26

殿様のよこね妾ハふ首尾なり 明三満3

御主人と思ふとめかけ不首尾也 一七29

②妾の不首尾は、権花一日の栄となったこと
だ。これは思惑が外れたことで、外的要因で
引き起こされる。これも色々な場面を想定出
来るが、

腹ハかり物とお妾不首尾也 傍四12

果報なおもへは腹ハかり物と 取元文二義1

というような状況が、残酷だけでも面白い。
殿様の世継ぎを産んで、これからはお部屋様
として栄華を極められると思っていたら、「腹
は借り物」で、お払い箱になった。

小栗「不首尾」は「事のなりゆきが思わしく
ないこと。結果が悪いこと」(「日」)が主た
る意味で、「悪事を働く」とか「行いが悪い」
というようなニュアンスは少ないように思
う。主題句も②の意であろう。うまくいかな
かったね、と。
清 同。

317 生酔の女房あたりでほめられる

山田 飲んだくれの亭主によく仕えているよ
と、近所「迎りで誉められる」。でも夫婦間
の事情は思惑の外、

へのこの生酔ハ女房うれしかり 末四16

なんていうこともあるからね。

清 賛。呑んだくれの父親を持ったために、
孝行な子供にされる場合もあった。

318 爰いくわの内に粟もちがたくなり

山田 目黒不動へ参詣の帰り、品川の遊里で
一夜の「栄華の内に」、目黒名物の「粟餅が
固くなり」。その粟餅を土産にしての朝帰り。
その後の情景左の如し。

一ち夜のゑいぐわあわもちのみやげ也 一三21

目黒の不首尾粟飯か石のやう 傍四22

餅で仕た花に女房の風也 五二23

小栗 賛。「栄華」という必然性の乏しい語
を遣ったのは、「粟」餅とからめて、「廬生」
を匂わす技巧ではないか。

清 小栗説賛。廬生に触れないと正解にはな
らない。

愛染帖

新家 完司 選

(投句 286名)

神戸市 細川 花門
グーグルでマンハッタンを散歩する

(評)グーグルの「ストリートビュー」で世界中の街角へ立てる。凄い時代になったものだが、最新技術は軍が抑えて公開していない。

豊原市 居谷真理子
疑問符は考えすぎた曲がりよう

(評)ロダンの「考える人」は、顎を腕で支えているが「？」は、考え過ぎて背中が丸くなり頭が垂れている。いわば象形符号？

広島市 岸本 清
写経より集中できる草むしり

(評)写経するには筆も墨も紙も要るが、草むしりは軍手だけでOK！ 坐禅よりも写経よりも簡単に無念無想の境地に至る。

岡山県 紫 しめの
何かある猫が夫を見て逃げる

(評)野生を色濃く残している猫。危険を察知する能力はペットの中でも抜群。「夫を見て逃げた」とは、喧嘩でもしたのだろうか？

河内長野市 山岡富美子
忘れるというお手軽な自然治療

(評)恥ずかしいこと、腹立たしいこと、悲しいことなど、徐々に忘れるから生きてゆける。全部覚えていたら苦しくて仕方ない。

大洲市 中居 善信
節穴を覗きたくなる寂しい日

(評)ところが朗らかで悠々としているときは小さなことに拘ることもない。重箱の隅に目が行くのはところが羨んでいるのだ。

神戸市 能勢 利子
下戸が飲む意外と高いウーロン茶

(評)煎茶や玉露の価格もピンからキリまであるが、ウーロン茶も同じなのだろう。「お酒より安い」とも言えないようである。

堺市 加島 由一
公園に日曜画家を褒めに行く

(評)人を喜ばせるボランティア。金も労力も要らないが、相手が納得するように、ポイントを押さえて褒めるには鑑識眼が要る。

青森市 守田 啓子
醤油注ぎに醤油を足せる日までのこと

(評)無事な日常を端的に言えば「醤油を注ぎ足している」ということ。当然ではあるが、誰にも「注ぎ足せない日」がやってくる。

尼崎市 市坪 武臣
大丈夫ヨイシヨと言つと立てるから

(評)そう、いずれ「ヨイシヨ」と言つても

立てなくなる日が必ずやってくる。その日の訪れを遅らせるためにウォーキングを！

神戸市内 片島 秀月
吾が妻は歳を忘れた夏燕
年金よ白寿までもいいですか

三田市 上垣キヨミ
ゴメンネと医者が気遣う注射針
万歩計帰りは福祉バスの客

松江市 石橋 芳山
負け犬が隅の方から消えていく
わたくしの狡さがハイと返事する

宝塚市 田中 章子
前向き今のわたしが好きである
病院に行ったら病人にされる

奈良市 辻内げんえい
元気な証し断捨離が進まない
妻よりもずっと素直な犬と猫

豊中市 貝塚 正子
なびくのはお前だけかと猫を抱く
チェックイン言い間違えたベッドイン

明石市 梶谷 和郎
「やってみせ」そんな上司は絶滅種
ミニスカの曲がる方へと向く散歩

大阪市 高杉 力
井戸端じゃなくてファミレス会議です
半額のシールを隠すゴミ出し日

防府市 坂本 加代
長生きによく効く薬「欲」らしい

大阪市 谷口 義
おしよゆうゆをちよつとたらすとい男

大阪市 藤田 武人
今日は晴れ煙が見える焼鳥屋
大阪府 吉川ひとし

大阪市 藤田 武人
お迎えは定員一の縄電車

大阪市 藤原千恵子
アンパンマン歌詞がとつても温かい

大阪市 大川 桃花
くまモンに逆にエールを送られる

大阪市 山田 耕治
生きてるか網戸の守宮突いてみる
焼きおにぎりチンしてひとり昼ごはん

大阪市 大内 朝子
手品にはわつと驚くのが礼儀
おいくつと問うてるように見つめられ

大阪市 朝子
終活を秋になったら始めよう
同じ事また言うてはる聞いたげる

大阪市 中筋 弘充
法螺吹きも歓迎される縄のれん
マドンナとダンスができるクラス会

大阪市 加門 萌子
よいしよして他人の孫の自慢聞く
体幹を鍛えなさいと今更に

大阪市 高瀬 霜石
ぼっちゃりでもいいのにみんな痩せたがる
ラブ・シーン見るといまだに照れくさい

大阪市 山下 凱柳
饒舌は妻の機嫌のパロメーター

大阪市 川本真理子
賽の河原 歩きスマホの人の群れ

大阪市 坂本 蜂朗
近道を急ぎ迷路で思案する

大阪市 真島久美子
ダンゴ虫わが身がそもも可愛い
大吉を入れた財布が福を待つ

大阪市 高島 啓子
発見をされて新種と言われている

大阪市 平井美智子
共通の話題へ持病持ち出され

大阪市 仁部 四郎
枕元リモコン三個置いて寝る

大阪市 福西 茶子
そう言えばアダムとイブは共犯だ

大阪市 古今堂蕉子
お迎えか生命線が消えている

大阪市 石田 隆彦
もうあかんなんてわたしの辞書にない

大阪市 田中 恵
老化への攻撃開始一万歩

大阪市 田中 昭紀
夏草に私の根気試される

大阪市 鴨田 昭紀
二枚ある舌に粘着力がある

堺市 矢倉 五月
駅までの距離がだんだんのびてきた

堺市 大和 峯二
毎日が作句極楽五七五

堺市 倉益 一瑠
五七五右脳左脳が採めている

堺市 山根 妙子
風鈴に拙吟吊るし泳がせる

堺市 栃尾 奏子
全没は明日への糧だ気にするな

堺市 山口 不動
柳誌来て百の生き様溢れ出す

堺市 近藤 治子
宇宙船乗るとき柳誌持つて行く

堺市 桑名 孝雄
クラス会卒寿まではとおなご組

堺市 緒方美津子
千円の散髪似合う夫となり

堺市 田浦 實
八百万の神を束ねる和の心

堺市 齊尾くにこ
似てますが区別と差別ちがいます

堺市 松岡 篤
武勇伝敵は夜中の蚊が二匹

堺市 田辺 和子
大丈夫墓石洗う嫁がいる

堺市 高杉 千歩
病院の隅でいつまで独り言

三田市 上田ひとみ
メリハリをつけるためですまずお酒

宇部市 平田 実男
異議なしで終わった後で酒の会

豊橋市 藤田 千休
売れっ子の色紙も黄ばむ裏酒場

尼崎市 長浜 美籠
友情の証のように酒をつく

三田市 北野 哲男
座を下りて天の美祿の旨いこと

姫路市 古川 奮水
辛口の美酒に乾いた肴囃む

鳥取県 細田 裕花
ビール一杯今日と妥協をするために

神戸市 松井 文香
ああ美味い！ 下戸も一口だけ猛暑

笠岡市 藤井 智史
心地良く酔える休日前の酒

大阪市 宇都満知子
鋭角を鈍角にする旨い酒

岡山市 丹下 凱夫
塩分は控え目 酒はほどほどで

桜井市 安土 理恵
気安さにぼろり本音の立ち呑み屋

富田林市 山野 寿之
立ち飲みの足を鍛える万歩計

米子市 生田 和之
一升が千円以下の酎に酔う

倉吉市 宮田 風露
酒は飲めぬが卓球できる傘寿です

熊本市 杉野 羅天
慣れてから知らずに寝てた震度3

シドニー 坂上のり子
趣味の会美味しい物とお喋りと

唐津市 山口 高明
三つから法被着ている唐津っ子

奈良市 大久保眞澄
起き上がりこぼしもいずれ杖が要る

神戸市 奥澤洋次郎
こんな別嬪さんをみる夏盛り

松山市 郷田 みや
首振りには本意でないと扇風機

八尾市 山川 寧
錦織と同じラケット持ってます

大阪市 森 廣子
真実をじっと見ていた女郎蜘蛛

鳥取市 夏目 一粹
魂も枯れてだんだん軽くなる

熊本県 岩切 康子
受けた球すぐに返せぬ悪い癖

三田市 堀 正和
朝二錠夜は三錠飲み元気

八尾市 宮崎シマ子
口八丁手八丁何かが二丁欠けている

倉吉市 中村 毅
福の神働き者を見えています

松山市 柳田かおる
真つ直ぐな人で嫌いな楕円形

京都市 三宅 満子
お買い得電池もなしで動く主婦

高槻市 富田 美義
主役まで譲り合ってる家事介護

八幡市 今井万紗子
寄つてたかつて試験されてる物忘れ

山口市 青木 隆子
度忘れと思ひ込みとが入り交じる

河内長野市 村上 直樹
絶滅危惧亭主関白あとわずか

鳥取県 門村 幸子
消えたはずの恥がムックリ起き出す夜

大阪市 坂 裕之
勝ち負けをつけず付き合います同期

東大阪市 北村 賢子
娘来る日は頬紅もかるくさす

藤井寺市 鈴木いさお
好きではないが青汁を飲んでる

鳥取市 前田 楓花
旨ければ元祖本家も気にしない

神戸市 山崎 武彦
たんぼぼの祭ふわふわと老いの恋

大阪市 柴本ばっは
夏休み標準語やら河内弁

高槻市 片山かずお
生返事ばかりですねと妻の喝

気が弱くなければセコく生きられる
つくば市 嶋本 喬

功績はセコイを広く世界語に
堺市 遠山 唯教

不適切でない我が家の生活費
奈良県 渡辺 富子

とれとれのトマトが噂連れて来る
男鹿市 伊藤のぶよし

長寿国五体通帳根競べ
横浜市 川島 良子

ストレスの発散場所にいるアナタ
交野市 田岡 久幸

大器晩成やがてやがてが今のボク
弘前市 今 愁女

桐箆筒行く末案ず佳き着物
茨木市 藤井 正雄

ふるりは着替え上手な四季の森
奈良市 尾畑なを江

早ばやと布団を入れて昼寝する
青森県 松山 芳生

同好の輪も人間の好き嫌い
鳥取市 奥田 由美

旅帰りズボラな妻に早変わり
寝屋川市 伊達 郁夫

愚痴ひとつ流して今日も介護する
尼崎市 清水久美子

ハイチーズあかんべえする天の邪鬼

身の程の程を時どき勘違い
寝屋川市 籠島 恵子

負けられぬ選挙一票入れて負け
鳥取県 竹信 照彦

肉狙い野菜はバスのバイキング
京都市 榎本 宏子

翻筋斗打つ賞には未だありつけぬ
三原市 笹重 耕三

誕生日まあ喜んでおきましょう
普屋市 黒田 能子

どうしても自主体に考える
鳥取市 春木圭一郎

お葬式スニーカーでは行けません
東かがわ市 川崎ひかり

黒い出汗蕎麦には良いがうどん駄目
大阪市 佐藤 忠昭

点滴がポトリ命が揺れている
河内長野市 木見谷孝代

出口調査 そんなん言うたらあかんねん
京都市 都倉 求芽

自分史の最後の見栄が難しい
箕面市 出口セツ子

株下がりまたも後悔キリギリス
神戸市 近藤 勝正

先ず一枚家内安全笹飾り
大阪市 磯島福貴子

広辞苑にまだ残ってる「真空管」
高槻市 原 洋志

たつぷりと愛を語らい猫帰る
八王子市 川名 洋子

大和言葉じわりと影が薄くなる
高槻市 初代 正彦

せっかちで人の話の腰を折る
鳥取市 岸本 孝子

マドンナはいついつまでも花の園
沖繩県 高良 秀光

若い娘を男目線で眺めてる
奈良市 阿部 紀子

美女も子も笑顔の固い北の国
河内長野市 森田 旅人

かたつむり自分のことはまだできる
大阪市 田中ゆみ子

昭和一桁耐えることには慣れてます
奈良市 米田 恭昌

家族農八十路の母も生産部
神戸市 富永 恭子

卒寿半ば生きているぞと繰る雨戸
田辺市 岡本 昇

八十路すぎ女忘れず紅をさす
神戸市 山根 弘子

お祓いを受け喜んでる車
倉吉市 大羽 雄大

息抜きも手抜きも下手なあかんたれ
大阪市 若本 安代

ポックリと逝ったお隣はめる嫁
三田市 福田 好文

橘高薫風句抄

(橘高薫風川柳句集) 平成十三年発刊

遠い灯は人を想えというごとし
本心が二伸に女心かも

原始から女の姿水を汲み

女なるかなやこの女優も芸者が似合い

剃りあとの青さが非力とも見えず

湯槽出る男海より出るごとし

落選の酒は問答無用なり

昼の月お前も二日酔なのか

おしなべて銀も鉛も卒業す

天才の根気の無さが哀れなり

親切な官吏なかなか出世せず

旨いとも言わず新聞ばかり読み

女中へはかけがえのない皿と言う

降って来たから止めようという齢になり

親捨てた仲とも見えぬ老夫婦

六十を越した家では哀れなり

老醜の土筆ほどにはなければども

竹植えて雨うつ音を楽しめり

文机に菜根譚を伏せて留守

煙草のけむりも窓から出て行けり春

旅に出たし子に描く絵にも汽車電車

地図と一緒に夢を畳めり

鳥取砂丘

砂丘有情 お前と月の出を待とう

旅人も月もやがては去る砂丘

句集「三文オペラ」の岩井三窓君結婚二句

三文オペラ 第二幕へとかかりたり

皆君のもの 新妻の寝顔まで

武部香林氏夫妻を想う

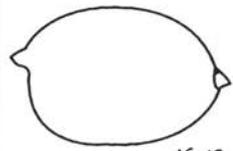
淀川の土筆送らんすべもなく

共選欄

檸檬抄

(薫風書、カットとも)

(投句 375名)



κ. κ

「前触れ」 北野 哲男 選

前触れも何もすべてに無頓着
 そういえばしばらく顔を見ていない
 ノックしろ画面は急に変えられず
 ついに来たあれこれが増えてきた
 優しさが前触れという淋しい日
 ビビッドな握手が恋の前触れに
 前触れがあれば仮面を付けたのに
 電話より先に予感の夢枕
 別れかも知れぬボトリと夏椿
 前触れがあつて胃薬飲んでいる
 前ぶれか小当たりつづく宝くじ
 SOS子の出すサイン見落とさず
 地震豪雨ノアの箱船欲しくなる
 傘の中突然だったプロポーズ
 チラシ見て今日の献立て決める朝

河内長野市 黒岩 靖博
 三田市 上垣キヨミ
 和歌山県 堀 富美子
 鳥取市 飛永ふりこ
 佐賀県 真島久美子
 鳥取市 田中 天翔
 高槻市 原 洋志
 三田市 上田ひとみ
 尼崎市 清水久美子

「前触れ」 安土 理恵 報

夏祭り前触れ告げる陣太鼓
 触れ太鼓網を期待のドンドン
 茶柱が立って二泊の旅に出る
 変化球サインもなしに投げて来る
 雷が鳴り水やりは止めにする
 顔色が変わった前触れかも知れぬ
 妻の料理この頃やけに辛すぎる
 あの世へは前触れ無しに頼みます
 子期もせぬ辞令一枚北の果て
 おめでたかどうか料理の味が変わ
 母になるきざしか笑みが柔らかい
 神経痛明日はきつと雨が降る
 膝関節より前触れもなくへしゃぐなよ
 前触れもなくさような言わないで
 何ひとつ前触れなしのポックリ死

寝屋川市 森 茜
 箕面市 広島 巴子
 寝屋川市 平松かすみ
 岡山県 田中 恵
 大阪市 津村 柳伸
 和泉市 横山 捷也
 羽曳野市 吉村久仁雄
 川西市 山口 不動
 三田市 多田 雅尚
 和歌山県 平田 元三
 奈良県 渡辺 富子
 芦屋市 竹山千賀子
 富田林市 中井 アキ
 芦屋市 黒田 能子
 大阪市 原田すみ子

前触れの悪いことだけよく当たる
 ハグをするただそれだけで意は届き
 足元に注意の張り紙をみて転ぶ
 予防線張る早口になってきた
 ウインクをしたでしようつと言われても
 女房のですます調に身構える
 前触れが欲しい覚悟をするために
 予期もせぬ辞令一枚北の果て
 フクシマをチエルノブイリで覚悟する
 フクシマの福島になる兆し未だ
 復興の兆し聞こえる笑い声
 八月の灯は前触れもなく揺れる
 赤紙の前触れとなる多数決
 戦争の前触れが今起きている
 さりきりと戦の予感第9条
 前触れは何も無かったキノコ雲
 脱退は日本昔にとつた道
 前触れもなくいきなりゲリラ雨
 前触れに一喜一憂する株価
 触れ太鼓今場所こそはと稀勢の里
 宿六が自由欲しいと雲隠れ
 甘い風月下美人が今夜来る
 鼻歌の妻の料理を誉めてみる

大阪市 升成 好
 鳥取市 大前 安子
 神戸市 細川 花門
 鳥取市 吉田 弘子
 宝塚市 田中 章子
 京都市 清水 英旺
 芦屋市 黒田 能子
 三田市 多田 雅尚
 堺市 大和 峯二
 高槻市 初代 正彦
 紀の川市 楠原 富香
 八尾市 宮西 弥生
 豊中市 水野 黒兔
 沖繩県 森山 文切
 札幌市 斉藤 宏子
 東大阪市 北村 賢子
 羽曳野市 水田 章司
 大阪市 藤原千恵子
 大阪市 大川 桃花
 篠山市 長谷川善輔
 岡山県 山縣のぶ子
 河内長野市 村上 直樹
 唐津市 坂本 蜂朗

栄転の内示が洩れて反古になる
 誤字脱字呆けの前触れだと思ふ
 爆発の前触れ妻が口きかぬ
 前触れはいらぬコロリと閻魔さま
 前触れがあつて胃薬飲んでる
 これも前触れネズミが騒がなくなつた
 前触れをベルトの穴は感じてた
 顔色も悪くて熱もあるようだ
 前触れがあるので使う養毛剤
 ネギ刻む音に嵐を予感する
 前触れは朝食二回食べたとき
 不器用で前触れ顔に書いてある
 前触れのない善行が胸を打つ
 食卓にレトルト食が増えてきた
 前触れはバツサリ切つた長い髪
 優しさが前触れという淋しい日
 老いの前触れかトイレが近くなる
 母さんの虫の知らせはよく当たる
 元氣そうだけどもと違う咳
 別れかも知れぬボトリと夏椿
 甘い風月下美人が今夜くる
 幸運の兆し青空白い雲
 何をやってもトントン拍子いい兆し

札幌市 小沢 淳
 塩竈市 木田比呂朗
 豊中市 水野 黒兔
 倉吉市 大羽 雄大
 藤井寺市 鴨谷瑠美子
 藤井寺市 高田美代子
 京都市 都倉 求芽
 鳥取市 前田 楓花
 堺市 坂上 淳司
 堺市 澤井 敏治
 奈良市 大久保真澄
 倉吉市 山中 康子
 奈良県 安福 和夫
 大阪市 大西 晴雄
 八幡市 今井万紗子
 佐賀県 真島久美子
 藤井寺市 鈴木いさお
 香芝市 大内 朝子
 沖繩県 森山 文切
 豊中市 松尾美智代
 河内長野市 村上 直樹
 大阪市 平井美智子
 男鹿市 伊藤のぶよし

ネギ刻む音に風を予感する

連絡もなくアドレスが変わってた

前触れがあつて返した免許証

母さんの虫の知らせがよく当たる

境界にわざと一輪バラを置く

胸騒ぎ思いつく手は打っておく

AIがやがて川柳する時代

文春のペンから次のハリケーン

陣痛と言う前触れで呱呱の声

仏壇が明るいきつと良い知らせ

ちよこちよこ料理手伝い出す娘

明日咲く花の鼓動を聞く詩人

蜘蛛の糸前触れもなく降りてくる

チンドン屋人連れてくる開店日

前触れはバツサリ切った長い髪

前もって知らされたって金は無い

仏壇のメロン部屋中香り出す

前触れは小さく鳴った胸の鈴

何をやってもトントン拍子いい兆し

秀句

大吉も引いたし流れ星も見た

福の神前触れもなくやって来る

透明になった少女は羽化をする

堺市 澤井 敏治

奈良市 大久保眞澄

鳥取市 岸本 宏章

香芝市 大内 朝子

三田市 野口 晶子

長岡京市 山田 葉子

羽曳野市 中川ひろ介

鳥取県 斉尾くにこ

大阪市 津村志華子

橿原市 居谷真理子

堺市 矢倉 五月

枚方市 海老池 洋

大阪市 田浦 實

三田市 村田 博

八幡市 今井万紗子

四條畷市 吉岡 修

鳥取市 倉益 一瑤

和歌山市 古久保和子

男鹿市 伊藤のぶよし

大阪市 栃尾 奏子

鳥取市 春木圭一郎

寝屋川市 籠島 恵子

ことのほか赤い夕焼だったよネ

前触れはあつたよ風のあの匂い

シエルトーもないから前触れは要らん

食欲がないのは恋の子兆かも

酒欲しく無くなったと恐いこと

南海トラフ予知は鯨の髭だろう

躰いた小石が教示する前途

明日咲く花の鼓動を聞く詩人

突然のリストラ首も洗えない

世界中前触れもなく自爆テロ

ノストラダムスも虫の知らせに敵わない

いわし雲いつしかつばめ居なくなる

猛暑らしセミが十日も早く鳴く

大吉も引いたし流れ星も見た

文春のペンから次のハリケーン

仏壇が明るいきつと良い知らせ

触れ太鼓村の祭りは継がれゆく

痛い目にあうよーやっぱりあいました

八月の灯は前触れもなく揺れる

秀句

ご一報頂けたならお迎えに

胸騒ぎ思いつく手は打っておく

いずれ又あれが前触れだったのだ

大阪市 森 廣子

唐津市 岩崎 實

堺市 奥 時雄

大阪市 川端 一步

堺市 矢倉 五月

香南市 桑名 孝雄

富田林市 山野 寿之

枚方市 海老池 洋

奈良市 米田 恭昌

奈良市 宇賀 史郎

和歌山市 武本 碧

西予市 黒田 茂代

京都市 榊本 宏子

大阪市 栃尾 奏子

鳥取県 斉尾くにこ

橿原市 居谷真理子

四條畷市 吉岡 修

弘前市 高瀬 霜石

八尾市 宮西 弥生

和歌山市 古久保和子

長岡京市 山田 葉子

弘前市 稲見 則彦

「受ける」

(投句 222名)

川 本 真理子 選



順風にゆつくり老いの帆をあげる
朝の五時郵便受けに音がする
偶然という運命を受け入れる
運命と受け入れ明日は前を向く
待ち受けていたのは深い落とし穴
受け皿が逝って覚悟の自立心
根性に下の字をつけて受けてやる
真つ直ぐに眼を見る話受託する
クン付けがサン付けになる辞令受け
若くないのにワカイから受けた役
引き受けて胃腸薬やら頭痛薬
重い荷だけれど引き受けたのだから
幹事役受けてときどき独り酒
受賞者のみんなひと癖ありそう
負け癖で受け身の形崩せない
背のびするやさしい風を受けたくて
沈む陽を受けて二人の長い影
好きなことだけ泣いたらいいと受け止める
受け止めてあげよう努力したようだ
戯言と受けて流せるならおとな

紀の川市 辻内 次根
大洲市 中居 善信
橿原市 居谷真理子
三田市 谷口 修平
大洲市 花岡 順子
香芝市 大内 朝子
鳥取市 夏目 一粹
東大阪市 北村 賢子
高槻市 富田 美義
奈良市 大久保真澄
藤井寺市 太田扶美代
羽曳野市 徳山みつこ
高槻市 初代 正彦
米子市 成田 雨奇
和泉市 横山 捷也
岸和田市 宮野みつ江
弘前市 福士 慕情
長岡京市 山田 葉子
芦屋市 竹山千賀子
和歌山市 平田 元三

検診を受けたらきつと何か出る
待つて待つて待つて受診の三分間
拳振る初孫受けるバスタオル
受け答え出来て三歳反抗期
凝りもせず子の反省を真に受ける
子の投げる球はとにかく受けてみる
ストレート以外は受けてくれぬ父
ヒヤクログジュウサンキロに耐えてるグラフ 河内長野市
ナツクル用のミットで愛を受け止める 笠岡市
せっかくのご好意遠慮などすまい 西予市
魚心ないと分かった受け答え 今治市
受け取ってほしい私という荷物 佐賀県
佳 句
授賞式いつも拍手の側にいる 藤山市
お隣りもそのおとなりも年金日 青森県
背負おうが切り刻もうが胃酸過多 弘前市
ずっしりの桃しらずと手に受ける 海南市
両の掌に滴一滴の岩清水 岡山市
人
父母が僕に命を呉れたんだ 宝塚市
地
レシピエント今受けましたあたたかく 大阪市
天 柴本ばつは
二人三脚とけてひとりを受け入れる 紀の川市
軸 宇野 幹子
マジウケるその意味合いは精査せよ

堺市 矢倉 五月
横浜市 川島 良子
三田市 北野 哲男
三田市 福田 好文
米子市 後藤美恵子
西宮市 緒方美津子
沖繩県 森山 文切
河内長野市 梶原 弘光
笠岡市 藤井 智史
西予市 黒田 茂代
今治市 渡邊伊津志
佐賀県 真島久美子
藤山市 酒井 健二
青森県 松山 芳生
弘前市 高瀬 霜石
海南市 小谷 小雪
岡山市 丹下 凱夫
宝塚市 太田としお
大阪市 柴本ばつは
紀の川市 宇野 幹子

「トライ」

福田好文選
(投句 219名)



トライトライ生きて行くとはそんなこと
E U が揺れる未到の志
車椅子押して体験重さ知る
トライアウトでクビの球団倒す意地
トライする事を忘れたニート族
試すより儲けが先きと偽装する
清水の舞台がトライせよという
級友は孫と同年定時制
炎天下目指す頂上甲子園
意識した失言トライしたつもり
トライした野菜作りは裏切らぬ
人生の彩り恋にトライする
脱サラの屋台にトライする夫婦
賞味切れいつも私が毒味役
駄目元でトライしてみろプロポーズ
まだチャンス待っておりませうロスタイム
振り向けばトライ続きの道だった
トライする意欲老いなど寄せつけぬ
ここからの延長戦へ深呼吸
トライするかしないかハート揺れている

宝塚市 太田としお
河内長野市 穂口 正子
姫路市 古川 奮水
西宮市 足立 茂
札幌市 小沢 淳
明石市 糀谷 和郎
和歌山市 武本 碧
南あわじ市 萩原 狸月
弘前市 高森 一吞
唐津市 仁部 四郎
鳥取県 竹信 照彦
防府市 坂本 加代
茨木市 藤井 正雄
河内長野市 藤塚 克三
三原市 鴨田 昭紀
三田市 堀 正和
堺市 村上 玄也
香芝市 大内 朝子
和歌山市 松原 寿子
鳥取市 山下 凱柳

逆上りトライする手に血がにじむ
髪染めて婚活して古希の父
ストップを知らぬ時間へトライする
命まで取られはしないやりましょう
トライする節目になった誉め言葉
お父ちゃん育休とつて玉の汗
てっぺんの夢へトライの蝸牛
慣れぬ手でことごとくパパの割烹着
弾かれても世界の壁にトライする
生前葬済ませて柿の木を植える
あの世でもあなたにトライするつもり
ラストトライ残り時間に炎が付いた
佳句
やってみなあの一言で今がある
失恋をナイストライと誉めておく
若いねと言われたいからトライする
毎日がトライこの世は一度きり
トライした数だけ男磨かれる
人
急流を上る魚は命がけ
地
鶏も飛べる気がして助走する
天
トライする明日履く靴光らせる
軸
年毎にトライしてます休肝日

大阪市 大西 晴雄
奈良県 渡辺 富子
鳥取市 夏目 一粹
橿原市 居谷真理子
和歌山市 福井 菜摘
三田市 九村 義徳
大阪府 米澤 俣子
芦屋市 竹山千賀子
松戸市 山下 明子
青森県 松山 芳生
西脇市 七反田順子
和歌山市 上田 紀子
神戸市 近藤 勝正
東京都 川本真理子
松江市 中筋 弘充
男鹿市 伊藤のぶよし
神戸市 山崎 武彦
鳥取市 岸本 宏章
八王子市 川名 洋子
吹田市 木下 敏子

初しぎ教室

題一色

山口光久

川柳塔の全身、川柳雑誌の中から、麻生路郎先生が不朽洞の没の句から拾い、「多少とも参考になれば」とコメントされているのを紹介します。

入門後、六ヶ月も経っているのに一歩も前進しないと、こちらの方がいらいらしたり、情けない気持ちになったりするものがある。こんな時に、多少コツがのみこめて、少し句らしい句が抜けだした時には作者自身よりもこちらの方がホツとするのである。

没句の中から作者共通の欠点を指摘して作句上の参考に資することにした。例示した句について、句主だけの問題とせず、作家一人の問題として取り上げて欲しい。

空いていた汽車へ団体やかましく
富士山の姿はつきり明けた窓

これ等の句は、確かに車中風景には違いないが、至って平凡な事実を叙したのに過ぎない。

い作者自身には何程かの感激はあったたであらうが、第三者の心を動かすに足りるとは思えない。(以下次号)

【添削】

原 投句日の朝まで出来ず以下余白 厚子
句が出来ずばーとなるのはよくある事ですが、下五の「以下余白」がどうでしょう。題の色という言葉を探しましょう。

添 句が出来ず頭の中が白くなる
原 妻色に染められ尻に敷かれ古稀 紀 恵

尻に敷かれるのは、思い通りに従わされる、事ですから「妻色に染められ」と同じように思います。省きましょう。

添 妻色に染められ頭上がらない
原 悪い癖レットルを張る色眼鏡 国 和

レットルを張る、は貼るです。レットルを貼るのは一方的に判断を下すのですから、色眼鏡で観るのと同じような意味があると思います。

添 色眼鏡で人を見ている悪い癖
原 還暦を軽々超える赤い爪 静 枝

「軽々超える」がどうでしょう。
添 還暦を過ぎて染めてる赤い爪

汗の色灼熱の色かき水 (東)美智子
汗の色が気になります。かき水を連想さ

せる、関連するような言葉を探しましょう。灼熱は赤を連想できます。

添 酷暑日は灼熱の色かき水 尚 世
原 健康でバラ色人生尚続く
中八になっています。倒置してみるのもよいでしょう。

添 バラ色の人生今もどつぷりと
原 どんな色染まっていくなお婿さん (高)弥 生

上、中、下がポツンポツンと切れた感じ
でリズムもよくないです。助詞を入れることでスムーズになると思います。
添 どんな色に染まっていくなお婿さん
原 色な試練あつての共白髪 由 美

平凡で、ああそうですか、という感じで
終っています。何かが欲しいです。

添 色な試練乗り越え共白髪
原 白が好きなどと言いつつ赤を着る 天 翔

作者自身の気持でしょうが、そんな事は
ままありますね。思いと行動の隔たり。

添 白が好き言つて赤着る天邪鬼
原 五十七色恋まだまだしたいもの 真 一

よく分かれますが、年齢を強調して下五
に五十七を持つてきました。

添 色窓がまだまだしたい五十七
原 沖繩の海の青さを思い出す 開 子

ああ、そうですか。いい思い出ですね。でも報告、説明で終わっています。

添沖繩の海の青さがこびりつく

原嫁色にとっぶり染まる若い婿

添嫁色にとっぶり染まってる息子

原あなた色染めて下さい此の私 (山) 弘子

添あなた好みの色に染めてよこの私

原顔色を見ながら言うか言わまいか 風露

添顔色を見ながら言葉練っている

原赤子なら真つ赤な顔で泣けもする 安子

添赤ちゃんが真つ赤な顔で泣きじゃくる

原悟ったか惚けたか失せた色と欲 修平

添加齢かな色と欲とが失せてくる

原色取りもなぜか淋しい二人膳 隆子

いい句だと思えます。でも、ちよつと淋しい感じですよ。華やかにしましょう。

添色取りを添えて華やか二人膳

【少しの工夫で住くなる句】

原台区して冴えない色に埋められる 和之

添台区して冴えない色になつてきた

原気が付けば私の地図もあなた色 義徳

添気が付けば私の地図はあなた色

原色褪せた心を捨ててケセラセラ 紀美恵

添色褪せた心は捨ててケセラセラ

原シルバークレイ切磋琢磨の色と決め 英男

添シルバークレイ切磋琢磨の色である

原障子紙破れぬうちに黄ばんでる (見) 温子

添障子紙破れてないが黄ばんでる

原色使い上手なひ孫絵だけ甲 (山) 久子

添色使い上手なひ孫絵だけ〇

【入選句】

テロ行為国の色など構い無し

大人しい色を着こなす反抗期

赤色は少し気合を入れて着る

銅板画彩の深さに魅了され

衝動買色々買つて役立たず

染ムラのあるジーパンで退院す

さあ仕上げどこかに虹を描いておく

遠き日はセピア色でも鮮明に

カラフルな洗濯物がいい景色

雨上がり紺あざやかに茄子光る

精一杯歩む人生色模様

色褪せてはならぬ九条の誇り

青春の色よみがえるクラス会

人生の暮色を浴びて心清む

あざやかな南瓜額に封じこめ

歳重ね赤いポロシャツなじみだす

夕あかね明日の希望を予約する

白黒をつけぬ会話で丸くいく
色街の芸妓炎暑を知らぬ顔

自分色少し汚れた今が好き

向日葵がUV浴びて陽の匂

パールに魅せられている孫二歳

色褪せた父の遺影がまだ恐い

【佳句】

ばあちゃんの顔色見つねだる孫

寄り添うてやがて溶け合う重ね色

食欲をそそる配色ママの技

真つ白いご飯を今日も頂ける

白黒をはつきり言つた後の悔い

【今月の推せん句】

カラフルな色で仕上げる夏の皿 高木 道子

夏場はどうしても食欲がわかないもので

す。こんな時、色彩豊かな膳があつたら咽

が鳴るでしょう。

歳の功玉虫色にとりまとめ 嶋本 喬

様々な意見や纏れた物事を上手に取り纏

める手腕が欲しいもの。そこで登場するの

が年(歳)の功です。

リバーシブル今日の気分は鈍色で 齊藤 宏子

その日その日の気分によって、色に對し

ての感じ方が変わるものです。派手に装いた

い、地味に装いたいと様々でしょう。

【私の句】

少しずつ自分の色が褪せてくる

里子

洋一

福貴子

ひとし

孔一

昭枝

治子

川柳塔鑑賞

同人吟 高瀬霜石

— 8月号から

くだらないくだらないねと唐辛子

石橋芳山

漫才もコントもろくすっぽせずに、ただひたすら内輪ネタばかりの笑えないお笑い芸人たちが日々闊歩するテレビ。

どのチャンネルも、似たり寄つたりの安易な旅番組、料理番組、クイズ番組。唐辛子振りかけようぜ、あいつらに。

輪の中に入ると自分見失う

能勢利子

テレビ界の草創期に貢献した故・永六輔。彼はある時期からテレビを見限り、ラジオ一辺倒だった。自分を見失う人。政治の世界にもわんさかいますなあ。

船底の板外された舩添氏

近藤正

正しく言えば「外された」ではなくて、己のあまりの非常識、非見識によって「自ら外さざるをえなかった」ということだろう。東大法学部卒、哀れ。

毎日がせいこい都知事でうんざりだ

齋藤さくら

週刊誌の「次の首相にふさわしい人」なる当時のアンケートを見て愕然とした。

▼2001年(平成13年)

①田中真紀子 ②小泉純一郎

③石原慎太郎

▼2005年(平成17年)

①安倍晋三 ②岡田克也 ③小沢一郎

▼2010年(平成22年)

①舩添要一 ②鳩山由紀夫 ③菅直人

どうです? 選んだのは我々ですぞ。

うなずいただけで味方にされていた

松井文香

続きも気になるところ。今年の順位。

▼2016年(平成28年)

①小泉進次郎 ②安倍晋三 ③石破茂

この記事の最後に「俺たちはバカなのかもしれない」とあって、大シヨック。

進次郎君。信じているよ。頼むよ。

弱者には世の中の嘘よく見える

中崎深雪

と、僕も思っていたが。世の中の嘘は見えても——政治家の嘘は全くと言っていいほど見抜けてなかったですなあ。

無糖ではまずい微糖は甘すぎる

吉田陽子

我々は我が儘で、しかも贅沢。消費税延期は、弱者には優しい政策だろうけど、果たしてこれでいいのか。未来に対しての責任は? このまま赤字路線を突っ走って行ったら、弱者の子孫はますます弱者になっていくだけの話ではないか。

これを書いていくだけの話ではないか。京都知事の椅子に、誰が座っているのか。

晩酌の前だ少しは草むしる

稲見則彦

人生は不平等なり草むしる

酒井紀華

俳優。緒形拳の母親。息子が弟子入りした劇作家(北条秀司だったか)の屋敷を突然訪ね「私のできることはせいぜいこれくらいです」と、日がな一日草むしりをして帰って行ったという。紀華さん、則彦さんを真似ましょう。

なんのご用か近づいてくる軍艦は

まえて とよこ

困ったものだ。裁判もなにもあったものんじゃない。習近平の奥さんは、中国の美空ひばりと謳われる国民的歌手なんだってさ。近平の弟は、遠平といって、この人の奥さんもまた歌手なんだとさ。

ルビ振って下さい今の子の名前

岸 本 宏 章

縁あって、子ども川柳の選を15年以上以上している。付ける親も、もうちよつと茶目っ気があつてもと、つい思う。僕の親戚に「晩平」という名前の人があった。その人の長男の名前は「朝平」といった。

そういえば、五稜郭で有名な榎本武揚の通称は、釜次郎。次郎だから次男。長男の方は、鍋太郎。長じても生活（鍋釜）に困らないようにと念じて名付けたのだそう。なんとも楽しい父親である。

年を取るの時は時計の針が動くから

寺 川 弘 一

弘一さんの句は、いつもすつとほけていて面白い。こういう人の息子に生まれたら楽しいだろう。弘一さんに息子さんはいろのかなあ？名前は一弘？

父の日を冷やし中華で祝われる

中 川 ひろ介

なんともいい味の句。祝ってもらえるなんてさ。そんな父親、そうそういませんぜ。同居人が外出する時、僕はよく冷し中華をリクエストする。僕にとつて、コレはある意味「完全食品」なのだ。上の具をつまみにいっぱいやりながら、ゆつくりDVDを観る。最後は、麵で締めくくる。多少伸び気味になっているけれど。

カレーしか頼まないのにメニュー見る

村 上 玄 也

僕は食いしん坊。いい年をして、つい頼んでしまうのがカツカレー。カレー屋のカツカレーと、トンカツ屋のカツカレー。選ぶなら、あなたはどっち？

天井と決めてから見るお品書き

横 山 捷 也

カレーの次は天井。天麩羅屋に入ると、まず目に入るのが、天麩羅定食。松竹梅とあつたりもする。天井は手軽。大抵は一番安いメニュー。一方、蕎麦屋の暖簾をくぐると、玉子丼、親子丼、カツ丼の上に燦然と輝いているのが天井。丼もの王様だ。捷也さんはどっちに入った？

昼ごはんお酒も飲める蕎麦にする

堀 正 和

粹ですねえ。関西の人は、蕎麦よりうどんと思つていましたが、酒なら蕎麦だ。ラーメンが好き飲んだ後もつと好き

三 浦 強 一

コレが胃によくない。イヤ、飲んだ後、麵がアルコールを吸収し排出してしまふから、悪酔いしなくていいという説も。ラーメンを啜り終活考える

工 藤 千代子

笑つた。終活を考える年なら、ラーメンじゃなくソーメンでしょう。女性は元氣。丈夫で長持ち。強く逞しい。降参。

テリトリにコンビニふたつ押さえる

山 本 義 子

カラアゲひとつとっても、コンビニによつて、味も値段も様々なんだつてね。嫌いでも好きでもないが良い夫

藤 岡 り こ

あれまあ。なんとも素晴らしい本音。

やさしくしないでホントは嫌いな

大 久 保 眞 澄

これも究極の本音か。誰に言つているのだろう。まさか旦那？ オンナは怖い。

水煙抄鑑賞

— 8月号から

丹下凱夫

目立つのが嫌でベースを弾いている

高杉 力

目立たなくても、力さんの音にじっと耳を傾けている人がいます。

大ジョッキあんたはうちの味方やわ

清水 久美子

不満不平。誰でも持つています。日頃の鬱憤おおいに発散。大ジョッキは優しく受けとめてくれます。

欲みんな捨てると風になれそうな

中前 幸子

「そうな」だけでいいのです。欲がなくなったら大変。いつまでも強欲で。

真っ直ぐな気性で曲線が描けぬ

鴨田 昭紀

無理に曲線を描く必要ありません。自己の道を通す直ぐに、真っ直ぐに追い求めて下さい。

笑いましょ明日には明日の風が吹く

宮宅 比佐恵

上五に明るく新鮮な呼び掛けの言葉。中七下五に古臭い常套句。その古臭い常套句で上五「笑いましょ」がいつそうに生き生きとしてきました。

長生きの極意はずばり恋心

上山 堅坊

私も恋心途切れたことはありません。いい恋をいっぱいして、長生きをして、いい句をいっぱい吐き出したいと思っています。堅坊さんも恋心を持ちつづけて寿命増益。御健吟を。

前向きな人に神様味方する

太田 としお

神さま、仏さまは何も彼も見抜き見通し。よいことをいっぱいして次の世代へとつなぎましょう。

ミュージカル風に哀しみ乗り越える

真島 久美子

人生の大舞台で哀しき、苦しき、楽しさをミュージカルしましょう。わたしはわたしは世界中で一番不幸な……と歌い振る舞っているうちに、いつのまにか哀しさはポジティブに変換されています。

僕の腕使ってほしい生きてるぞ

柴本 ばつは

一億総活躍だと言うのに。僕の腕ウズウズしているのに。誰も見向きもしてくれない。年配者が本当に活躍できる社会を。

懸命に生きて二つも無い自慢

片島 秀月

一生懸命に生きてきた秀月さん。すばらしいですね。無駄なことばかりに生きてきた私。淋しいですね。正反対に生きてきた二人にも、他に類を見ない自慢出来る一句はある筈。必ず。

同窓会花柄の杖よくしゃべる

高岡 茂子

杖に頼る歩行。外出の少ない作者。おしゃべりな花柄の杖で同窓会に出席。常日頃の無口。あの人にもこの人にも喋りつづけています。花柄の杖が。お喋りするために出席しているのです。

手動で電車降り降り長閑なり

片岡 富子

一読平凡な一句。日常の情景を何の作爲もなく詠んでいます。間違いないこれは非凡の一句。



哲学川柳

長く川柳をやっていると、身の周りの事物すべて詠い尽したように「ネタがない」と思われることもあるでしょう。そのようなときは、これまで客観的に見ていたものを独自の考えで解剖する手があります。大袈裟に言えば「哲学的に分析」するのです。私はこれを勝手に「哲学川柳」と言っていますが、この名称はまだ市民権？を得ていません。

この手法は客観的描写以上に知恵を絞らなくてはなりませんので、いささか面倒ではありますが、これまで対象とした森羅万象が「新しい素材」として甦るに違いありません。

本当のハグは親子の初対面

設計は完璧だったはずの僕

妥協ではないよフレキシブルなのだ

どのバートでも引き受けますとカメレオン

生まれ出た赤ん坊を初めて抱くお母さん。その抱っこがすべての「ハグ」の原点であり「本当のハグ」だという見解。

受け継いだ遺伝子は「完璧な設計」であったはずだが、それを活躍させていないのは努力不足、という謙虚な自省。

気が弱くて妥協したのではなく、こころが広くて柔軟なのだ。が、それを「カメレオン」と揶揄されるのも辛いところ。

二足歩行余った手には銃がある

同じ惚けても一番恐い平和惚け

逃げ足が早いと転ぶのも早い

シャンブーがふわりと変える世界観

夏目 一粹

藤井 智史

高瀬 霜石

郷田 みや

落合 洋人

太田としお

藤井 則彦

板尾 奏子

ヒト科が二足歩行になり、手が創作に生かせるようになったが、人を殺す武器を持つようになつたという皮肉。

老人ボケはやむをえないが、「平和ボケ」は戦争の足音さ

え聞きもらす。逃げてばかりいては足元の穴さえ見えない。

難しい書物を通読しても閃かなかつた「指針」が、爽やかな

シャンブーでふわりと得ることができた。これもまた哲学。

ストライクばかりでつまらない会話

高等な当たり障りのない話

言葉とはひとたび出るとはや固体

尾髄骨あたりにたれば尻尾

深いところで繋がっている無口

誰のプライバシーにも抵触せず、誰も不愉快にならず、反論する余地もない。いわば「ストライクばかりの会話」には

刺激も面白味もない。が、そのような「当たり前障りのない話」こそ、本当は高等技術が要るのだというオトナの見解。

心に収めている間は形のない「言葉」も、口に出すと消去

不能の固体になり。後から「たれば」と後悔しても遅い。

言葉による結びつきは表面上だけ。無口な人は世辞や愛想

は言わないが、心の深いところで繋がっているという哲学。

少しづつ間が抜けてきて敵が減る

二番手でいいと思えばだれてくる

あきらめることに慣れると早く死ぬ

歳を重ねるにつれて間が抜けてくるのは残念ですが、角が

取れて敵が減ってくる効用もあります。また、「二番手でいい」

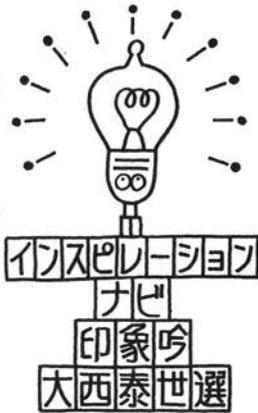
などと気弱なことでは「だれて」きます。そして、諦めては

かりでは生命力さえ諦めやすくなる。まさに人生哲学です。

北野 哲男

山口 光久

片山 忠



(投句219名)

リオでのオリンピックに高校野球、プロ野球と今年の夏は一層華やかに様々なスポーツがテレビを席巻しています。



その一方で熱中症に注意しましょうという文字も闊歩していて大変。ほどほどにクーラーも使いましょ、なんて言われなくても、電気代のことを考えると寒気がするくらい使っておりますって。では、ナビ、ご一緒に。

河内長野市 山岡富美子

歳月や二人三脚にも濁き

(評)あんなに親密だった、あるいはあんなに愛し合っていたのに、そんな二人に歳月はまことにザンコクです。

高槻市 島田千鶴子

理想とは少し違つが手を打とう

(評)理想と現実、これが一致するという

話あまり聞いたことがありません。ほどほどで手を打つしかないですか。

河内長野市 藤塚 克三

不揃いの胡瓜は店に出せません

(評)味に変わりはないはずなのに、値打ちが極端に下がってしまった商品となると、売り手の都合も考えてしまいます。

神戸市 上田 和宏

カロリーも値段も同じどっちする

(評)うーん、悩んでしまいます。大きい方のツツラにはお化けで一杯だったなんて昔話もありましたし、ね。

大阪市 栃尾 奏子

ビーナスは自信有り気に豊満だ

(評)泰西名画に描かれている女性の平均体重は九十キロあまりだとか。皆堂々と豊満な肉体をお見せになっています。

大阪市 石橋 直子

平和への足跡ならばしっかりと

(評)八月は鎮魂の月、だんだんと戦争体験者も減つてゆく戦後七十一年目。だからこそ、しっかりと、ですね。

堺市 坂上 淳司

三十二文の馬場のキツクは凄かった

(評)ジャイアント馬場さん、キツクは確かに凄かったけど、ご本人は物静かな文学好きだったそうですね。

大阪市 柴本ばつは

なああなたちよと疲れてはるみたい

(評)こんなコトバ、よっぽど親しくない

と言えませんが、大阪弁がうまいくソフトにしてくれました。

高槻市 高田 康子

ああおんな足の先までトリックよ

(評)おんなは飾る、おんなは嘘をつく。では、お訪ねしますが、足の先まで正直なおんなって魅力ありますか。

箕面市 出口セツ子

わたくしも偉人も同じ一歩です

(評)偉人と凡人(失礼)と、踏み出す一歩は同じだと思ふのです。偉人のそれは後付けされるからでは…。

可児市 板山まみ子

帳尻をどこかで合わせまだ夫婦

アメリカをゲンははだして出迎える

鳥取県 斉尾くにこ

居士大姉こんな位牌はどうですか

左右間違えましたひとの靴

つくば市 嶋本 喬

告白のチャンスへ口が渴きすぎ

和歌山市 古久保和子

登山よりわたしやっぱりシヨツピング

大丈夫だろうか跡目継がせても

裁判所出れば無口でみぎ左

貢ぐだけ貢がせオンナなびかない

香芝市 山下 純子

米子市 八木 千代

三田市 村田 博

尼崎市 清水久美子

弘前市 高瀬 霜石
万歩計万歩になったことがない

青屋市 竹山千賀子
民は痩せ上層部だけ肥る国

堺市 内藤 憲彦
任せると言った割りにはガタガタと

宝塚市 田中 章子
ライザップ成功したがすぐもどる

横浜市 川島 良子
左ボク右が妻ですパビブペボ

神戸市 山崎 武彦
もうあかん僕もなすびもリパウンド

貝塚市 石田ひろ子
大ジョッキ女もたまに気炎吐く

大阪市 古今堂蕉子
金メダル持たずに国に帰らりよか

玉野市 片岡 富子
平成に男女参画当たり前

藤井寺市 若松 雅枝
泣き上戸笑い上戸と馬が合い

香芝市 大内 朝子
うっかりと踏んだ百足に噛まれたの

大阪市 坂 裕之
本当に好きだったのとやっとな

橿原市 居谷真理子
恋人は足の裏まで美しい

大阪市 寺井 弘子
選挙権十八歳の足固め

松江市 石橋 芳山
ターザンの親子はどうも風呂嫌い

神戸市 奥澤洋次郎
夏の日が悪戯ずきなキュービット

高槻市 安田 忠子
もう少し此の世でいたい事がある

香南市 桑名 孝雄
牛若に手古擦っている橋の上

鳥取市 西川 和子
この辺でベアを解消しませんか

大阪市 江島谷勝弘
おかげさまついに水虫うつされる

紀の川市 辻内 次根
下駄投げて天気予報は晴れと雨

高槻市 富田 美義
コンセント抜いてあの口だまらせろ

弘前市 稲見 則彦
足のツボ押したら顔もこうなった

枚方市 小林 わこ
一緒にイヤ余りに目立ちすぎるもの

唐津市 仁部 四郎
ついていく暗夜行路だついてこい

富田林市 中井 アキ
頑張っているから今日も勝ちました

松山市 宮尾みのり
目の上にタンコブ多い小池さん

三田市 堀 正和
こんなにもマラソン好きが居る日本

倉吉市 山中 康子
アナタの半分それでも馬は合う

江南市 脇田 雅美
土踏まず金塊踏んで蹴躓く

和歌山市 平田 元三
楽しくていいな二人でフラダンス

堺市 大隅 克博
ちよっとした悪戯ですの遺伝子の

西子市 黒田 茂代
恰好いい隣へちよっとだけ嫉妬

枚方市 海老池 洋
でで虫でさえ足跡を残すのに

高槻市 片山かずお
ホラごらんヒールはダメと言ったでしょ

豊中市 水野 黒兔
ばく的一步君の一步が世を変える

大阪市 大川 桃花
顔ばかり磨く女の足の裏

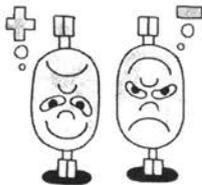
和歌山市 楠見 章子
駄目よだめ先ず野菜から食べなくちゃ

海南市 堂上 泰女
大英帝国理性失いひび割れる

加西市 金川 宣子
あの頃は相思相愛だったなあ

西宮市 山本 義子
あらあらあら熊の親子の歩きあと

11月号発表 (9月15日締切)



(平本 勝彦 画)

柳箋に2句

本社 八月句会

◇八月五日(金)午後一時
アウイーナ大 阪

猛暑日が続く五日、八月句会は百二十二名(投句十名)の参加で開催された。句会に先立ち、七日に亡くなられた同人春城年代さん(尼崎市)に黙祷を捧げた。

今月のお話は江見見清さん。題は「戦中の小学校と川柳」。六年生で終戦を迎えられた見清さんの貴重な小学校時代の経験談「志を果たして:」(唱歌「故里」)「身を立てて名をあげ:」(「仰げば尊し」)など立身出世を目指す歌詞が、滅私奉公の世には不適切とされたこと、日の丸弁当の奨励日があったことなどは、当時の川柳作家の句が訴えるものと相俟って、戦争を知らない世代にも強い印象を与えた。特攻隊員の辞世の句の紹介で少し重くなった会場を、「リンゴの唄」の合唱で再び明るく盛り上げてお話を終えられた。

(真澄)

月間賞は居谷真理子さん(橿原市)

(司会)蕉子・真理子 (脇取)扶美代・寿之
(受付)敏治・すみ子 (清記)憲彦

席題「悲鳴」 出口セツ子 選

ソプラノで悲鳴アルトで愚痴を言う
ニンゲンが恐れブルーさんの悲鳴
連日の猛暑クーラー悲鳴上げ
歩かねば悲鳴をあげる膝頭
お化け屋敷悲鳴を場外へ流し
虐待の悲鳴へ早く気付かねば
子の悲鳴届かず花束がぬれる
号外に悲鳴があがる千代の富士
深海魚わたしの悲鳴呼応する
明暗の悲鳴に揺れる甲子園
一週間の孫に悲鳴の夏休み
量販に悲鳴をあげる小売店
雷へギャツと抱きつき恋実る
素っぴんの私に悲鳴あげた奴
爆買の悲鳴そろそろ秋の風
この暑さ悲鳴をあげる僕の脳
難民の阿鼻叫喚が聞こえぬか
牛丼に届かぬ餓える子の悲鳴
家計簿の悲鳴またかと聞き流す
地震豪雨悲鳴が止まぬ肥後の国
大地震は地球の悲鳴だと思ふ
人のエゴへ悲鳴を上げている地球
歳時記の悲鳴聞える温暖化
老骨が悲鳴をあげる熱帯夜
喚声が悲鳴に変わる逆転打
悲鳴の主はゴキブリの方だった

希久子 朱夏 淳司 武臣 握夢 あや子 耕治 章子 ふりこ 真理子 ひろ子 裕之 楓楽 理恵 一歩 よしみ 保州 完司 富美子 堅坊 保州 富子 武彦 唯教 いさお 眞澄

ゴキブリへバージョンみたいな声をだし
核にテロ神も悲鳴をあげている (柿)
キヤアキヤアを集め昭和のビートルズ
阿鼻叫喚まるで地獄図テロ現場
メダルラッシュ嬉しい悲鳴リオ五輪
改憲はダメダメと蝉悲鳴
さあどこに捨てたらよいか核のゴミ
養護施設に響く断末魔の悲鳴
凶刃に倒れたやまゆりの悲鳴
予定表嬉しい悲鳴多事多難
少年の一直線にある悲鳴
すぐ悲鳴財布は口を閉じたまま
犬も人も悲鳴は同じ哺乳類 住
蚊までも悲鳴あげてるリオ五輪
九条の悲鳴聞える八月忌
スプラトリー悲鳴あげてる珊瑚礁
八日目の蟬の悲鳴を聴いている
声のない悲鳴を掬うのが政治 人
MRI縮んだ脳に皺がない 地
幽霊が悲鳴を上げる熱帯夜 天
八・六海が覚えている悲鳴 軸
句が思いつかず悲鳴をあげる脳

握夢 和夫 寿之 直樹 宏造 一歩 進 淳司 寿之 弥生 としお 和宏 憲彦 憲彦 ひろ介 真理子 ゆみ子 蕉子 富子 といな

兼題「選ぶ」 石田 隆彦 選

飛行機に乗るにも母は日を選ぶ
 落選のポスター今も良い笑顔
 先出しの勇氣選んだのは都民
 都知事選クールな民は名奉行
 選挙権十八歳に出た自覚
 記名台まだ迷ってる浮動票
 選り抜きのメンバ揃えいざ五輪
 七十億オンリーワンは僕の妻
 選択眼狂いなかったダイヤ婚
 慎重に選んだ桃が傷んでる
 ふる里発迷わずに買う米と水
 コンコンと叩いて西瓜選ばれる
 うなぎより根菜食べて元気です
 おにぎりか蕎麦かで迷うワンコイン
 選り好みたまにはしたい一張羅
 ふところの都合なまずにした土用
 選ぶ度決断力がついてくる
 哀しみの夜は哀しい紅を選ぶ
 納得で選んだ道に咲いた花
 選ばれて責任感という重石
 小鳥でも巣作りの樹は選び抜く
 パパとママどっちも好きと子の打算
 欠点のある人選ぶ四コマ目
 登山家の勇氣登頂止めるのも
 選ばれて座った椅子で火だるまに

倅子 哲男 淳司 正彦 克己 狸月 唯教 寿之 楓楽 よしみ 美津子 あや子 忠昭 眞澄 といな 楓楽 利子 理恵 ひろ子 富美子 完司 茂 宏子 玄也 玄也

近道を選んだ悔いが今もある
 選択肢正しかったと余生映え
 煩惱が選ぶ指先惑わせる

朝一番広告比べ選る特価
 いい写真選び遺影に取っておく
 子は親を選べぬ哀れ虐待児
 消去法で選んだなんて言えないわ
 てにをはを選ぶ言葉の深い森
 運命は選べないけど切り拓く
 なにもかも御破算にして決めました
 選択肢ありすぎるから籤引きで
 夏服を選んでる間に秋になる
 佳

いさお 一文 大子 恭子 ひろ子 朝子 朱夏 希久子 黒兎 昌代 裕之 廣子 文代 郁夫 富美子 哲子 (矢)五月 克己 蕉子 美籠

難しい打球くると取る名手
 諍うてくるり背向ける長い夜
 風車くるりともせず増す暑さ
 走馬灯くるりと亡母を回す盆
 死神もくるり名医のメスの刃え
 人生感くるりと変えた白い粉
 先頭がくるり慌てる蟻の群れ
 一年の仕上げに山車の引き回し
 終の日へくるり昭和の走馬灯
 方針をくるりと変えて多数派へ
 残り香へきびすを返すのは男
 振り向いてまたねと去ったお下げ髪
 観覧車二周は乗せてほしいもの
 勘定になるとお顔が裏がえる
 調理師の修業くるくる桂剥き
 不調からまたもくるりと起き上がる
 横道へくるり会いたくない人が
 九回の裏のくるりへ湧く歓喜
 ハルカスからくるり浪速をひとめぐり
 背を向けるチャンスうかがう最後尾
 ひらめきがくるり背を向け逃げていく
 風見鶏くるくる明日は明日のこと
 疑問符がくるりと囲む核論議
 くるりとは振り向けない丸木橋
 正札を確かめくるり引き返す

(奥)五月 倅子 英夫 といな 直樹 まつお 葉子 浦久美子 ひろ介 裕之 唯教 勝弘 憲彦 淳司 千代 ゆみ子 朝子 (梅)和夫 富子 といな 郁夫 わこ (安)和夫

兼題「くるり」 松尾美智代 選

僕の顔見るとくるりと後向かれ
いざという時に背を向け去る女神

兼題「記」 加島由一選

釣り書きに悲しい恋が記入もれ
木簡が古代のロマン語り継ぐ
夢千代館核への思い二行半
新快拳元素記号のニホニウム
縦書きでさらりと記す遺言書
イナゴ追いかけてた戦争の記憶
モノクロの記憶いつもの父母がいる
記録あり記憶残るのがスター
記憶あいまい片方だけのイヤリング
家計簿に一言記して今日を閉じ
日記帳会ってきた日の丸じるし
絵日記の夏画用紙を溢れそう

羽搏いてくるり巣立っていった子等
雲行きへくるり話題を変えました
表裏巧みにかえる二枚舌

記憶にはないが記録にある浮気
歳時記があかんと言うている地球
猛暑中記録更新夏太り
記念日を全て祝っている卒寿
私にも書けそう恋の放浪記
絵日記に家族の顔が陽に染まる
都合よく記憶が消える調べ室
記憶障害議員はみんなこの持病
原発の値段どこにも記されない
御記帳をと無粋な筆が置いてある
古い記憶たどれば透けるラムネ玉
走馬灯にあれやこれやの半生記
記念日を二人で祝う長いくせ
記入例あつても間違いはおこる
生きざまをノートに残すペンの先
子育ての記憶が手足支えている
まだ女^⑥マークのある日記
忘れたいけど心が記憶する
終戦日もはや記述もない曆
形状記憶型にはまって楽に生き
人生を記す川柳にあるドラマ
触るなど書くから触りたいな桃
風化するのは記念日にしてしまうから
磁気カード私の動き記録する

真理子
キヨミ
千恵子
敏治
哲子
憲彦
宏子
いさお
希久子
美智子
蕉子
寿之
狸月
美津子
黒兔
楓楽
六点

向日葵の首くるりどこまでも強気
寝返りを打って悪夢を打ち払う
キャリアウーマン夜はくるりと母の顔
しあわせをくるりと包むオムライス

ひろ子
進
廣子
隆彦
あや子
哲子
一徳

大きな丸くれる先生ダライ好き
呼び物は忍者屋敷の壁くるり
振り向くと未練が残る別れ際

佳
くるり背を向けて自立へ踏み出す娘
どん底を糧にくるりと華にする
寝返りを打ってあなたを確かめる
くるり首横に振られてファイト湧く
恥かいた今日をくるりと裏返す

満作
六點
茂
夫
和
夫

一回りするたび友達が増えた
地
逆風をくるりと追い風に変える
天
引き返す勇気を持って山登り

軸
体くるりヨガのポーズに嵌ってる

軸
カレンダーがもはや日記になっている

八月の記憶確かに生きている

一回りするたび友達が増えた
地
逆風をくるりと追い風に変える
天
引き返す勇気を持って山登り

軸
カレンダーがもはや日記になっている

八月の記憶確かに生きている

兼題「スタート」 西出 楓楽 選

スタートラインに並んでからのくされ縁
宣誓の手夏空に届きそう
後期です新たな門出波高し
生まれた時にすでに格差はついている
グルメツアー腹ペコにしてバスに乗る
折り鶴が原爆なくすスタートに
スタートは五角だったと言うウサギ
朝のスタート青汁飲んで恙無し
大変な借金背負い呱呱の声
靴の紐ゆるむスタートきつてから
一開いて飛び出す癖がなおらない
保育所が足らずスタート阻まれる
飲み会に遅刻はしても元は取る
スタートにはやっても息が切れ
スタートは同時と見えぬ努力の差
人工知能癌の治療を開始する
こはれ種フライングして庭は秋
車捨て二本の足にあと托す
子の自立杯割って突き放す
フライングですぐ失格になりました
スタートはみんな笑っていたようだ
スタートまで採めて結束固くなる
五輪旗は波乱含みのゴースイン
逃げ足のスタート早い次男坊
入社式もう七人の敵と会い

公輔 叔子 つな子 完司 一文 まつお (木)明子 一步 蕉子 哲子 博子 久仁雄 好子 章子 恭子 美津子 博子 茂 蘭幸 見清 富美子 淳司 あや子

脱原発いまだだつて遅くない
通過点ですと謙虚なりスタート
苦界とも知らずに産声を上げる
スタートに人參投げて呉れた母
二期をスタートさせる赤とんぼ
スタートに遅いなどない皆素足
あときは社長になると決めていた
スタートで小遣い制にした不覚
ビビビビビッ熱いスタートできました
逆打ちの遍路を欲が歩いてる
両親に挨拶をしてスタートだ
スタートもフィニッシュも無いテロの間

敏治 耕治 進 郁夫 廣子 よしみ 勝弘 一徳 わこ (楠)和夫 ゆみ子 誠一 佳

結婚もスタート離婚もスタート
晩学のスタート平熱を上げる
八十代のスタート崖の上に立つ
蟻の列先頭きつたのは誰だ
猛暑日が続く家出は延期する
傷口が痒いそろそろ出直そう
運のないスタート親は選べない
胸の鼓動何かスタートする気配
スタートはしたがその後は風まかせ

敏治 耕治 進 郁夫 廣子 よしみ 勝弘 一徳 わこ (楠)和夫 ゆみ子 誠一 宏造 すみ子 希久子 見清 宏造 朱夏 握夢 理恵

兼題「外国」 小島 蘭幸 選

先祖より外国旅行するお盆
ネット句会外国からもある投句
外国の言葉も分かる奈良の鹿
四年後に話してみたい外国語
娘が行ったイギリスの旅宝物
外国船港神戸を華にする
外国船の国籍言える島育ち
旅をしたい国がつぎつぎテロ騒ぎ
猫の楽園外国のとある街
戎橋異国の風の中にいる
青い目の僧衣浴けこむ座禪堂
年金に逆らう妻のバリローマ
一匹の蚊にも敏感リオ五輪
河内弁めちやくちやうまい帰国子女
ヨーロッパ夫婦の増えていく塗り絵
南海トラフ怖いハワイに移住しよ
道頓堀わたしはまるで異邦人
ゴミ置き場四カ国語の注意書き
外人の爆買いで知る良き日本
目が放せないUSAのつむじ風
バスポートさくららの国と書いておく
新都知事にタスキを繋ぐリオ五輪
行くのならテロと地震のない国へ
外人の寺の和尚に聞く法話
異文化を吸いに弥次喜多旅の空

キヨミ 堅坊 富子 宣子 美智代 弥生 由一 信子 希久子 英夫 直樹 誠一 隆彦 まつお 寿之 楓楽 朝子 真理子 (楠)和夫 美津子 郁夫 武臣 保州 郁夫 靖博

舶来品と呼んで大事にした戦後

羽田着このくつろぎは世界一

知日家の外国人はみんな好き

古稀ですがまだ留学の夢を持つ

エッフェル塔にタッチして来たバスポート

シヤネルより匂い袋にある気品

フランスもドイツも今日は雨らしい

ウオシユレットない外国はよう行かぬ

洋画から盗んだ恋のテクニク

パリの街大阪弁がすれ違ふ

異国の地で添乗員を見失う

ヘルメット防弾チョッキ着て渡航

外つ国にあれば恋しくなる茶漬け

リオ五輪地球の裏の遠花火

眼も耳もしばらくリオへ行つたきり

パリの夜静かに幕が降りて来る

トンガ産のカポチャですつてイケルわね

シヤンゼリゼ歩いた足で野良仕事

青い目のひ孫と愛の糸電話

霧が出ただけで異国の街になる

外国船を見ていた膝を抱いていた

かずお 修

清久美子 章子

隆彦

忠昭

まつお

勝弘

進 富子

茂

玄也

敏治

英夫

富美子

公輔

朱夏

完司

一歩

居谷真理子

軸

天

句会 燦 燦

七月句会を読む 岩崎 眞里子

ハブニング起きて人間試される

忘却をせまるわたしの過去の過去

ハブニング最中思いがけない自分に出遇った時、己の人となりを問われていると感じる。忘れようとか忘れまいとすることも含めて、人間度数は各々の裡でしか測ることは出来ない。

スイッチバックゆっくり答え出すつもり

虹が出るまではわたしの空だった

実によく転ぶ質だが、転んだ時はゆっくりと天地左右を確認して起き上がり、周りの仲間達と一緒に虹を見上げてきた。

飛行機雲空のほころび縫っている

空なんか見向きもしない深海魚

綻んだ空を縫いあげた飛行機雲が、歌うファスナーのように見えた。そして空なんぞ知らんと、むっつり閉じた深海魚の口もファスナーに似ている。こちらは、ムフフンの鼻歌か。

おぼつかない足に夕闇が迫る

本音スイッチむずかしいのはタイミング

十分ではないか青い空がある

疲れた身体の後を夕闇が、その直後を老いが付いてくる。皆元氣そうに笑ってはいるが辛さを抱えている。言葉に出来ない。くても、青空の下で見交わす眼裏にはキラリ本音が滲んでいる。

美しく転んで美しく起きる

いよいよの覚悟に似合う花吹雪

美しく転んでも起きて、己の姿は己には見えない。しかし最終章は、季節を問わず、花吹雪の中を立ち上がろうとする姿である。眼裏に浮かぶその景色が句作の中で深まっっていく。

楓 楽

あきこ

義 榎子

野 霧

宏 造

完 司

わ こ

ひとみ

惠美子

慶 一

老心ゆづり

毎月24日締切・35句以内厳守
掲載は原稿到着順となります。
楮書で誤字のないようお願いします。
編集部

きやらぼく川柳会(鳥取)成田 雨奇報

春の息吹をうぐいす初音裏山で
少女らの胸が尖つてくる春か
花冷えに葉桜愛でて爛一本
名人と云われる程に物忘れ
踏まれても明日のためだよ笑い顔
いい歳の意味も色々あるらしい
被災地によりそう虹に胸キュンだ
いい距離でメール交わした嫁姑
神の国地震に舞ってお手上げた
青空に私の愚痴を吸い込ませ
いつ終わるのか灯の国の揺れ止まず
八十路越え船支える手待つばかり
木漏れ日に若葉萌えてる深呼吸
じわじわと老いの息遣いが聞こえ
よく笑う友とおしゃべり昼過ぎた
だんだんと義父に似てきた山的神
骨密度歩いて鍛え健康へ
預言者も狂う百年先の日本

あやこ 雨奇
かね子 乾啓
紀の治 桐子
恵子 正二
多美子 千代
初枝 治代
日枝子 ひろこ
宏之 美草
瑞枝

桜花短き一夜恋心
宇宙人も警戒してる地球人
春めいて死んだ木もあり芽吹く木も
新緑の思いかなって京の旅
ちよつぴり鼻毛を出して歩く吾子
美智子
美穂
ゆき
ゆたか
ゆめ子

川柳花の輪(大阪) 岡本 薫報

今日も又気分爽やか感謝する
学ぶ気が昔の日々にあつたなら
晩学で知識を学ぶ細ノレン
思い出に気分をほぐす母がいる
日々学び日々忘れてく我が余生
棺の前急いで学ぶ阿弥陀経
意地張つて老いの手習い競い合う
学んでも前頭葉が追い付かず
卒業すると勉強したくなり
先人に学ばなくても老いは来る
婆の味しつかり学べども孫も
気分屋で甘やかされてふてくされ
はびきの市民川柳会(大阪)永田 章司報
ちよつと顔かしてはこわい路地がある
日本丸船行あやし波高し
洋々と未来語れぬ18歳
ちよつとした油断人生裏返る
ちよつとだけ五文字曲ものだと思う
松島も傷跡残し巡る船
メダカから見れば火鉢も太平洋
捕鯨船昔の雄姿今どこに
勇太郎
笑子
薫
やすの
みちる
敬子
克茂
正太郎
泰子
風
昭好
あや乃
真一
かつ美
仁
ダン吉
ちづる
清
高鷲

まっ白な雅をちよつと身八つ口
待ち合わせちよつと遅れた一時間
洋食と言うてた頃のカレー皿
ちよつとずつ譲って丸い輪を作る
チョットした手違いでしたお大事に
母親を守れる人は僕だけだ
被爆樹の平和を願う首脳等も
東西は問わず仲良く腕組んで
わたしに最上ファミレスの洋食
ちよつとした気遣いみせる老舗宿
止どまない大河の流れ洋洋と
太平洋またもや戦なきように
父ちゃんのちよつとはいつもパチンコ屋
ちよつとだけと上がり込んで長くなる
沈没で船長だけが逃げ出している
七十年あの日を海は知っている
海洋法聞く耳持たず要塞化
台風に備え寄り添う舳い船
定年下船丘に上つたカッパです
街角で拾つたちよつとといひ話
争いは洋上に出た岩ひとつ
欣之
安男
美代子
泰子
ヨシ枝
雄太
美喜
千鶴子
みつこ
喜久子
アヤ子
フジ
さくら
登志子
一文
洋一
ひろ介
壽峰
シルク
いさお
章司
黒兎報
桂子
美智代
郁子
堅坊
信男
黒兎

六八九やがて昭和は霧となる
 悪天候船は揺れるがやがて着く
 父が逝きやがて静かに来る孤独
 その肩にやがて責負う十八歳
 セミ七年地中で我慢やがて夏
 やがて来る終活近く子に任す
 マイナンバーやがて世界を駆け巡る
 趣味の無い夫はやがて濡れ落葉
 上品にやがていられぬこの暑さ
 品切れと聞けば無性に欲しくなる

ブラザ川柳(大阪)

坂上 淳司

久子 守啓 正子 美佐子 順子 長一 柳童 奈津子 春代 純子

暑くても脱ぎは出来ないアデランス
 自民党小池にはまりさあ大変
 プライドはきれいに生きる糧になる
 雑草が踏み行く人を嘲笑い
 鎌を持ち暮らし支えた凄じい亡母
 駄目よダメ妻の寝言に目が冴える
 じいちゃんにどうも相談あるらしい
 プライドがチャリ顔だす婦人会
 相談を出来るお局居た昭和
 よっこらしよ膝に気合の登り坂
 ふくれ面せて笑顔を愚妻殿
 安もんのプライド守り殻の中
 球界に武蔵も惚れる二刀流

八尾市民川柳会(大阪) 土田 欣之報

久美子 和代 正子 一彌

油断からのを違えて知る驕り
 猿まわし人と傀儡笑みをまく

壽峰 朋子

何事も亭主除いて決める妻
 削ぎ落とし削ぎ落としして我が身だけ
 ほどほどというものさしはみつからぬ
 削除キー磨耗ザンゲはエンドレス
 美しく老いたし残高が足らぬ
 外された梯子になつていいるピエロ
 裏ごしをすれば言葉も柔らかい
 不覚にも魔女に恋して木偶になる
 十八と十九が握る近未来
 パソコンが僕の能力排除する
 傀儡の糸操る人も操られ
 人間の話は止そう露天風呂
 傷付いて傷付くたびに磨かれる
 人間の肥やし寄り道回り道

倉吉川柳会(鳥取)

竹信 照彦報

今更に消せるわけない離脱劇
 書いて消すラブレターが懐かしい
 消えた筈燃える煙り夫に見る
 あかり消し迷い蛍の行方追う
 残すものゼロで消えます悪しからず
 消されたまま姿が浮かぶ拉致家族
 真つ二つ桃の中から桃太郎
 お迎えの舟が来たなら乗るだけだ
 割り切ったけれど寂しい雨の夜
 天命と割り切り病妻看ています
 割り切つて友と楽しむ発泡酒
 割り切つたおつき合ひまで断られ
 見た目より家も私もガタガタだ

安男 両文 千里 紀雄 寿之 常男 慶子 清一 耀一 惠 高鷲 欣之

節子 英子 恭子 智恵子 鬼一 けいこ 石花菜 完司 萩江 重忠 茂夫 野蒜 由紀子

寺川弘一 選

癌を摘むピンセットには神が棲む
 ひとつずつ校歌が消える過疎の村
 紫陽花の雨七色の虹を呼ぶ
 傷口を洗ってくれた聞き上手
 BSのシネマがロマン巻き戻す
 蛩舞う里に静かに降る民話
 何もかも終わつた雨も止んでいる
 ネジ一個緩んだくらい丁度いい
 消しゴムが思案のあとを知っている
 時折の木漏れ日だつて生きる糧

美穂 雄大 國治 修 美穂 恵子

佳句地十選

(8月号から)

倉益一瑤 選

なげなしの弾が尽きたら高齢者
 てにをはの向きを変えたいピンセット
 鉄砲や戦車のあるぞおもちゃ箱
 灰色の広野に赤い趣味一つ
 逢いに来た海が朝から荒れている
 鉛筆の芯から発芽する野心
 舞い終えて仮面を脱いでゆく両手
 傷口を洗つてくれた聞き上手
 少し荷を下ろそう口バも老いてきた
 消しゴムが思案のあとを知っている

芳光 節子 きよし 堅坊 アキ 菜摘 小雪 美恵子 博子 美穂

ガタガタは体なのかな脳なのか
ガタガタの軽が一台足代り
築三十年ガタガタ文句いう扉
酒飲むと何時もガタガタ困らせる
ガタガタと風にだまされ戸を開ける
借金まみれこれが日本のやりくりだ
やりくりが出来なくなった物忘れ
やりくりがつかないままに黄泉近し
金と暇やりくりしては旅に出る
やりくりが骨に應える奇数月
冷蔵庫やりくりり上手主婦の箱
農繁期やりくり付け三朝の湯
やりくりをせずとも行けるのがあの世

瑞子 妻子 風露 日出子 玲子 龍枝 雄大 次男 醉美蓉 康子 紀美恵 祐子 照彦

遺産分け貢献度をと競い合う
桜んぼうの種吹き競争菌も飛んだ
スローだが確かな仕事かたつむり
おっとり美人恋の道行き猛ダツシユ
五十年信念曲げぬ人と居る
相談の締めは神サマ仏サマ
相談とは名ばかり妻の一人勝ち
尖閣を分捕る野望果てしなく
坊に入り身の錆落とす座禪組む
傘寿過ぎ手足の動き亀に過ぎ
母の膝分捕り合つた遠い過去
人生相談別れなはれとすぐ言われ

なる子 和香 よしこ 秀子 日出男 大輪

逆さまで広告めくる目のはやさ
家柄がにじみ出ている言葉尻
タラレバがいくらか減つた定年後
白い粉の魔性におんなどり付かれ
手招きに行けば知らない人ちがい

裏方が飲み過ぎましたまつり酒
盆踊りご先祖さんも仲間入り
自問自答の祭り一夜を動けない
毎日が祭り楽しく生きてます
お祭りだ今年もふるさと近くなる
二重虹今日は宇宙の祭りかも
警官と大工方だけ酔ってない
冠婚葬祭傘寿の坂も忙しない
説明不足怖いクスリりの副作用
説明書不要の道を生きている
見切り品のわたし返品できません
返品をされて気分お返し致し
愚痴ひとつ空にお返し致します
非売品と書いたらすぐに売れました
売約済みの札を見てからほしくなる

准一 京子 あきこ 克子 ほのか めぐみ 富美子 徑子 まさみ 知香 英子 小雪 保州 寿子

勝弘 まつお 堅坊 福貴子 わこ 和 美世子 武臣 一步 弥生 芳香 朝子 美籠

川柳塔唐津(佐賀) 仁部 四郎報

川柳塔わかやま吟社 川上 大輪報

川柳大阪 山崎 珠生報

長柳会(大阪) 辻村 ヒ口報

相談に来たとよく食べ帰つた子
若沖の画に今人氣凄列
今でしよう母の介護をリタイアで
一点を競う水上夢舞台
饅食べ凄い暑さに立ち向かう
厚化粧好きでやつてるわけやない
スローライフ人が輝きビューティフル

説明不足怖いクスリりの副作用
説明書不要の道を生きている
見切り品のわたし返品できません
返品をされて気分お返し致し
愚痴ひとつ空にお返し致します
非売品と書いたらすぐに売れました
売約済みの札を見てからほしくなる

何があつたんだあいつが笑つてる
さわやかな笑顔できつい事を言う
奢らずに運に感謝をする笑顔
涙拭き作り笑顔で繕う場
祖母の言う七難隠す笑顔よし
ハグし合い今日も明日も笑顔です
五欲まだあつて彼岸は視野に無い
あと十年元気で命ほしいもの
年金にボーナス欲しい老いの夢
欲言えば年金8パー上げて欲し
大和路は仏に会える欲がある
百歳迄凜と生きたい欲を持つ
究極の欲だと思つぱつくり死
児等の澄む無欲の瞳にはかなわな

美世子 武臣 一步 弥生 芳香 朝子 美籠

満面の笑みを浮かべて寝る赤子
台所デビューするとは口だけか
七光りデビューしただけさしただけ
足早に駆けた坂道振り返る
苛ちやな早いがりえ中味なし
水分補給早め早めとうながされ
ハンドルで人格変わるスピード狂
夢中でスマホで二駅歩くはめ
戦場は命令一つ逆らえず

京都塔の会

山田 葉子報

(仲) 功 司

終戦を生きて傘寿のハブニング
人間の宝は休まないボンブ
徘徊を止めて母さん草むしり
立葵そうかそうかと聴き上手
亡き父母がきつと待つてる無人駅
競争に勝たねばならぬ資本主義
忙しい主婦には休まないのよね
日本の子どもも明日へ伸びて行け
なんでかな長男だけがおっとりだ
休日は大ごみに変身す
ハブニング知事の座狙う競走馬
招かざる客が顔出すハブニング
休刊日机さびしい朝ごはん
植え終えてはとと一服畦の道
おっとり構え流れを読んでいる
一瞬に終の住処が消えた午後
まだ食べてはるいつ終わるのか食べてはる
唄わせて一休みするパスガイド

珠生 かよこ 由一 万紗子 美濃 満知子 温子 北舟 北舟

被爆者を優しくハグしたオバマさん
愛という支え大事に生き伸びる
おっとりと喋るが言うことはきつい
雲間からようお休みとお陽さまが
おっとりとうぐつぐつ煮込む家族の和
嫌な事伸ばしに伸ばす悪い癖
子供だけ乗ってドアが縮まりかけ
伸ばしても少ない髪でまとまらぬ
チエロの弦切れても澄まし顔で弾く
おっとり舞妓言葉の下ごころ
自転車パンク西瓜がわやになる
お休み処あじさい色に染まるお茶
まだ伸びる未来信じて古稀の風
命あることが奇跡の大津波

英旺 保子 見清 弘之 哲子 文代 忠子 かずお 則彦 宏子 正彦 公子 千代 義昭

川柳同友会みらい(鳥取)吉田 陽子報

ふるさとの山は黙って抱いてくれ
ワッハハと一人楽しむ日をもらう
有頂天過ぎると梯子はずされる
白壁土蔵スローライフが往き来する
混じわらぬオンリーワンの色に生き
ほつといてなどと言えない年を知り
風除けに少し太めの眉を描く
優しさのピンぼけ写真ありがとう
下り坂ゆるり本番残すだけ
飽きの来ぬ味わいのある顔と言う
ビューティサロン綺麗になるのくたびれる
差別に耐えたモハメド・アリよ永遠に
景気回復総理の思い違いでは

治子 みどり 美恵子 信子 葵 千恵子 安子 陽子 広子 章子 真帆 水樹 みち子

それなりの水平飛行する安塔
花一輪に空き瓶が生き返る
自分史にむかしの火花打ち上げる
八月の海を花束往き来する
小川の水よお前もいつか大海に
健闘をたたえて笑顔絶やさない
騙されて小骨ささったまま踊る
島国で海にテロから守られる
なんぼでも使いなはれで目が覚めた
幸せに暮らしています本当です
成り行きで連れ合いだけに恵まれる
どこだつて受かれればそが志望校
負け惜しみ都議選敵に廻してる
記憶にはないと上手に騙す老い
句会には負け惜しみして背を伸ばし
なんとなく月を仰いで瞑想す
太古から生き物の母青い海
海の私語聞きたくなくて一人旅
大海も時には作る落とし穴
まだ海を恋しがってるサンマの目
故郷の海はいつでも聞き上手
笑いつつ騙されてやる母として
暑いのに熱いコーヒももう一杯
果てしない言葉の海で立ち泳ぎ
ひと夏の恋が浜辺に落ちている
選挙戦言葉の海ありつたけ
海の絵を眺めて気分晴れました

川柳塔さかい(大阪) 村上 玄也報

遊子 華蓮 公弘 扶美代 ヨシ枝 唯教 若芽 世紀子 さくら ゆみろ 憲彦 永久 健吾 清晋 妙子 舞夢 富夫 敏治 日の出 好 誠一 和夫 月子 五月 俣子 八千代 かりん

政治家にいつも一杯食わされる
敗戦を終戦という負け惜しみ
きな臭い風が海から吹いてくる
騙されておこう気遣いされた嘘
海底の菊の御紋が反戦歌
情報的大海で真実見失う
妻騙し医者騙しても飲むお酒
整形と最初に言うてはしなかった
故郷のお裾分けよと海の幸
膏葉で騙してやると動く腰
欲を引つ込めて騙されずに済んだ

ばつちりと虹を描けどゼリー状
ばつちりと着地も決めて金メダル
土砂降りや女の過去を聞いてから
こだわりを捨てて大きな胸となる
ひび割れをゆつくり埋める小糠雨
朝露は卑弥呼の微笑みをうつす
望月も私も欠けていく運命
ドキドキの理由突き止める聴診器
昨日を捲れば甦つてくる希望
真夜中にとどき欠伸する仏
渴望に今日も扉を押ししている
望まれて望んで満月の宴

清 ひろ子 シルク 玄也 みつこ 憲 時雄 としお 澄空 玲子 天笑

内緒話ポトリ落として大騒ぎ
悩むよりとにかくやってみる
雲海を染める朝日に手を合わせ
ラブレター高嶺の花もトライする
エンドレス血で血を染める世界地図
五十年わたくし流の味加減

イギリスにガツカリもせず箸運ぶ
いつだって期待裏切るのは政治
禁酒した酒を再び呑んでいる
再びと約束かわす指と指
投票に景品あれば行くと言う
再び赤紙出すのか総理殿
投票所立会人が寝ています
老いました手綱に力入らない
通販の美女ほどサブリ効いて来ぬ
セコ過ぎてガツカリしたり呆れたり
がっかりは傷つく言葉言いません
働かず不足並べて食つて居る
麵つゆの冷やしソーメン母の味
順番に区長が回りお受けする
ソーメンをゆでると亡母を思われる

雅美 遡行 まみ子 三樹夫 美千代 かつ子

輪の中でころも潤う昭和歌
動かない下五探しの一行詩
希望灯すマツチの軸が折れました
太陽を振り向かせたい雨期の底
切れ味を試す赤鉛筆をとがらせて
晩学にすぐ消えたがの記憶力
幻想の星降る街のノクターン
土砂降りを掻き消す歓喜呱呱の声

川柳塔鹿野みか月(鳥取)福西
森子 欣之 よしみ アキ 寿之 奏子 武人 一文 仁 清 澄子

富柳会(大阪) 関 よしみ報

茶子報
重箱の隅突いても恐くない
孫達が先頭あるきなごむ道
先頭は父ファミリーの縄電車
お人好しまた皮切りにまわされる
先頭に立つて旗ふる生真面目さ
先頭で身を惜しまずに仕事する
先頭を走っていると
先頭に立つと心が落ち着かぬ
ヒコニヤンが先頭にいる平和だね
先頭を走る我が子にカメラ追う
先頭に立つと背中目に目が生える
先頭に戦帰りがいた昭和
夕暮れて先頭に立つ母の星
出しゃばりが必ずいます楽をする
先頭を走り孤独に耐えている
先頭の父を支えた母の皺
独り身はあなたのせいとつぶやいて

森子 欣之 よしみ アキ 寿之 奏子 武人 一文 仁 清 澄子

南大阪川柳会 津守 柳伸報

ことさらの飾りは無用若さある
縫り戻すなんてことさら御免やで
蜜蜂のいけずことさらよつてくる
重箱の隅突いても恐くない
孫達が先頭あるきなごむ道
先頭は父ファミリーの縄電車
お人好しまた皮切りにまわされる
先頭に立つて旗ふる生真面目さ
先頭で身を惜しまずに仕事する
先頭を走っていると
先頭に立つと心が落ち着かぬ
ヒコニヤンが先頭にいる平和だね
先頭を走る我が子にカメラ追う
先頭に立つと背中目に目が生える
先頭に戦帰りがいた昭和
夕暮れて先頭に立つ母の星
出しゃばりが必ずいます楽をする
先頭を走り孤独に耐えている
先頭の父を支えた母の皺
独り身はあなたのせいとつぶやいて

みさ子 弘子 満 小鹿 拓庵 恒 ゆり子

弘委智 あざ子 なぎさ 博 柳右子 シマ子 恭昌 直子 ルイ子 昌紀 いさお 修 更紗 歌留多 国和 志華子 勝弘 楓 楽 篤 実

年金も再び引き下げ苦に落ちる
失敗が何だ気合いの再挑戦
待合所まるでスマホの展示室
白い帆を張って再び僕らの海
鬼とでも組んで選挙桃太郎
落選をしそうな奴の名前書く
再会を約束するも時が過ぎ

南大阪川柳会 津守 柳伸報

みさ子 弘子 満 小鹿 拓庵 恒 ゆり子

年金も再び引き下げ苦に落ちる
失敗が何だ気合いの再挑戦
待合所まるでスマホの展示室
白い帆を張って再び僕らの海
鬼とでも組んで選挙桃太郎
落選をしそうな奴の名前書く
再会を約束するも時が過ぎ

南大阪川柳会 津守 柳伸報

みさ子 弘子 満 小鹿 拓庵 恒 ゆり子

年金も再び引き下げ苦に落ちる
失敗が何だ気合いの再挑戦
待合所まるでスマホの展示室
白い帆を張って再び僕らの海
鬼とでも組んで選挙桃太郎
落選をしそうな奴の名前書く
再会を約束するも時が過ぎ

南大阪川柳会 津守 柳伸報

みさ子 弘子 満 小鹿 拓庵 恒 ゆり子

年金も再び引き下げ苦に落ちる
失敗が何だ気合いの再挑戦
待合所まるでスマホの展示室
白い帆を張って再び僕らの海
鬼とでも組んで選挙桃太郎
落選をしそうな奴の名前書く
再会を約束するも時が過ぎ

南大阪川柳会 津守 柳伸報

みさ子 弘子 満 小鹿 拓庵 恒 ゆり子

年金も再び引き下げ苦に落ちる
失敗が何だ気合いの再挑戦
待合所まるでスマホの展示室
白い帆を張って再び僕らの海
鬼とでも組んで選挙桃太郎
落選をしそうな奴の名前書く
再会を約束するも時が過ぎ

南大阪川柳会 津守 柳伸報

みさ子 弘子 満 小鹿 拓庵 恒 ゆり子

年金も再び引き下げ苦に落ちる
失敗が何だ気合いの再挑戦
待合所まるでスマホの展示室
白い帆を張って再び僕らの海
鬼とでも組んで選挙桃太郎
落選をしそうな奴の名前書く
再会を約束するも時が過ぎ

南大阪川柳会 津守 柳伸報

みさ子 弘子 満 小鹿 拓庵 恒 ゆり子

年金も再び引き下げ苦に落ちる
失敗が何だ気合いの再挑戦
待合所まるでスマホの展示室
白い帆を張って再び僕らの海
鬼とでも組んで選挙桃太郎
落選をしそうな奴の名前書く
再会を約束するも時が過ぎ

南大阪川柳会 津守 柳伸報

みさ子 弘子 満 小鹿 拓庵 恒 ゆり子

年金も再び引き下げ苦に落ちる
失敗が何だ気合いの再挑戦
待合所まるでスマホの展示室
白い帆を張って再び僕らの海
鬼とでも組んで選挙桃太郎
落選をしそうな奴の名前書く
再会を約束するも時が過ぎ

南大阪川柳会 津守 柳伸報

みさ子 弘子 満 小鹿 拓庵 恒 ゆり子

年金も再び引き下げ苦に落ちる
失敗が何だ気合いの再挑戦
待合所まるでスマホの展示室
白い帆を張って再び僕らの海
鬼とでも組んで選挙桃太郎
落選をしそうな奴の名前書く
再会を約束するも時が過ぎ

南大阪川柳会 津守 柳伸報

みさ子 弘子 満 小鹿 拓庵 恒 ゆり子

年金も再び引き下げ苦に落ちる
失敗が何だ気合いの再挑戦
待合所まるでスマホの展示室
白い帆を張って再び僕らの海
鬼とでも組んで選挙桃太郎
落選をしそうな奴の名前書く
再会を約束するも時が過ぎ

南大阪川柳会 津守 柳伸報

みさ子 弘子 満 小鹿 拓庵 恒 ゆり子

年金も再び引き下げ苦に落ちる
失敗が何だ気合いの再挑戦
待合所まるでスマホの展示室
白い帆を張って再び僕らの海
鬼とでも組んで選挙桃太郎
落選をしそうな奴の名前書く
再会を約束するも時が過ぎ

南大阪川柳会 津守 柳伸報

みさ子 弘子 満 小鹿 拓庵 恒 ゆり子

年金も再び引き下げ苦に落ちる
失敗が何だ気合いの再挑戦
待合所まるでスマホの展示室
白い帆を張って再び僕らの海
鬼とでも組んで選挙桃太郎
落選をしそうな奴の名前書く
再会を約束するも時が過ぎ

南大阪川柳会 津守 柳伸報

みさ子 弘子 満 小鹿 拓庵 恒 ゆり子

置き手紙一枚残る寒い部屋
からつばの心に美術品いらぬ
消えてゆく郷里の一字ペンネーム
臍出しも笑窪も押しみたくなる
息止めて清濁呑んだ印を押す
私学ダメ国公立と念を押す
世の中は押しばかりじゃ渡れない
念押しして押されて今日も無事でした
職人の一途頑固さ押し通す
このドアを押したら澄んだ風にあう
夢ひとつ後押しをする始発駅

柳柳ふうもん吟社(鳥取)夏目一粹報

柳 一步
柳 一步
東 風
弘 子
忠 昭
武 臣
ばっは
克 己
栄 子
あや子
洋 々
無 限
楓 花
地 佳 平
茶 人
美 佐 枝
一 瑤
とも湖
三千代
蟹 郎
妻 子
天 翔
みゆき
野 蒜
義 徳
文 香

都知事辞め文春さんはすつきりだ
アリ逝くや兵役義務は拒否のまま
カリスマの集合場所だオリンピア
カリスマが支配している北の国
おんなの涙私は何度死んだやら
白髪染めすつきりとして逢いにゆく
カリスマと言われた俺もボケてきた
疑いがすつきり晴れた裏事情
俳優のカリスマ性に酔うドラマ
明日のこと明日にまかせて今日は寝る
反逆のカリスマ今の世に欲しい
誘い水しても出て来ぬ知恵の水
カリスマと言われ天狗になりました
飾らないカリスマなので輪ができる
円満に見ざる言わざる逆らわず
カリスマの強い味方は金でした
ロボットに負け将棋はやめました
先だって大金持ちの夢を見た
先だってついに残り火消えました

城北川柳会(大阪) 近藤 正報

金 祥
敏 夫
昌 鼓
回 春 子
振 作
雅 女
凱 柳
節 子
幸 子
清 信
房 江
茂 登 子
真 智 子
千 代
清 帆
毅 章
博 幸
一 粹
節 子
千 恵 子
堅 坊
賢 子
寛 昭
一 步
和 夫
志 華 子

こつこつと貯めて偶には北新地
姿見にそのまま映る欲の皮
閉じ込めた思いを今日も覗いてる
余震にもめげずお城の立ち姿
ここの一番父の出番を作る母
夜の蝶ひらひら舞うて出番待ち
嫁ダウン婆の出番とたすき掛け
人類のお荷物だらう核の数
公示から当選までの低姿勢
産道を抜けて出番の呱呱の声
石室に入りて古代覗いてる
補聴器を外し笑顔のまま
有り余る暇の処分に四苦八苦
天体を覗き少年鳥になる
ともが来たくせある靴の音ひびく
入道雲の覗くブルを待つ河童
賭け事で五輪の切符捨てました
黙々と四肢を踏んでる出番前
裏窓でヒッチコックが覗いている
無防備で枯れ木になって水を飲む
こつこつと貯めてがばつと出るお金
ポーナスも退職金も辞退せず
縄跳びの端を結んで夜を渡る
心根は姿かたちで測れない

川柳塔なら 大久保真澄報

弘 委 智
修
直 樹
杖 香
あさ子
榮 子
たもつ
朝 子
縣 笹
星 雨
武 彦
野 鶴
美 智 子
公 子
五 月
い さ お
高 志
義 昭
克 己
勝 弘
佐 津 乃
正
理 恵
ふりこ
紀 雄

シャワーの音娘は泣いているらしい
心配性聞いているだけでうつ募る
九条に徴を生えさせてはならぬ

清原も徽が生えたら駄目でしょう
 飲み合わせ心配しつつ十錠目
 セシウムを二度と浴びさせんといて
 親し気にも云う医者腕知らず
 母として生きると耐えることばかり
 鍵締めてまた引き返し締め直す
 金庫よりポロリと微びたラブレター
 刺のある言葉のシャワーヘイトデモ
 無添加のブライド徽の生えたパン
 耐え抜いた稀のニュースの七歳児
 改憲案時代錯誤に寒気がする
 言葉までかび出す梅雨の夜の鬱
 心配性でいつも首振る扇風機
 シャワー全開素顔の私取り戻す
 あと少し生きる時間に足る忍耐
 めらめらと妬心をあおる赤い徽
 賞味期限過ぎた私にはえた徽
 幸せの花のシャワーが空に舞い
 心配はせぬと心配してる父
 ホスピスの命希望を抱くいつか
 心配のいっぱい詰めた冷蔵庫
 太陽が地球呑み込む時が来る
 徽生えた仲の割にはよく笑う
 くやしいが頭に徽が生えたまま
 麹麹活かききつてる我が日本
 先輩の心配すんなで気が楽に
 赤貧に耐えてしので今生きる
 魂に徽が生えたか出ぬファイト
 耐えるのは時代遅れとすぐ離婚

日の出
 史郎
 勝弘
 敬子
 良一
 薫
 優
 文聰
 弘子
 美代子
 倫
 國治
 辰雄
 壬子
 妙
 惠美子
 成子
 奈津子
 將文
 美智子
 甚之市
 盛隆
 貫一
 おたか
 崇明
 和夫
 賛郎
 完次
 萌子

徽におう軍服偲ふ平和展
 熟年離婚ひよつとしたらと眠れない
 沖繩の忍耐へ降る蟬しぐれ
 川柳塔みちのく(青森 稲見 則彦報)

日当りのミミズみずから絶つ命
 ビルの谷間でかさかさになる情け
 カサカサの心にケアマネ来てくれる
 家事キライかさかさの手で生きてます
 わたくしは全身サハラさばくです
 ああ父の遺骨の何と軽さかな
 かさかさになるも捨てない女偏
 髪型をくずし少女の反抗期
 ほろ酔いで話す予定を妻壊す
 根曲竹熊と人との神経戦

酔うほどに肉質変わるパーベキュー
 パーベキューも愛も決め手は焼きぐあい
 パーベキュー親父と和解除で弾む
 パーベキュー仕切る親父の恵比須顔
 暑氣払う花火に冷酒パーベキュー
 メルヘンの世界を笑うパーベキュー
 二人草灯台下で恋移り
 灯台に割烹着の母思ひ出す
 母ちゃんは灯台ちちは小舟です
 灯台へ大漁安堵の旗を振る
 セクハラと指されて男壊れてる
 九条を壊す政権許されぬ
 名城の石垣壊しマグマ去る
 椅子の足ポンドでくっつけ知らんぷり

ダン吉
 恭昌
 富子
 ひとし
 姦
 井蛙
 柳子
 規子
 則彦
 美鈴
 京子
 初枝
 一吞
 芳生
 のぶよし
 黙人
 慕情
 風来坊
 夕香
 花匠
 隆樹
 龍馬
 つとむ
 きよし
 重虎
 吞舟
 小とみ

山はだを崩して団地のびていく
 歳重ね皺と妥協して生きる
 呑める日が今日も過ぎてる生きている
 手加減が甘い辛いも年齢のせい
 宇宙にもムンクもどきが住むらしい
 定食のおまけに付いてくるサラダ
 一日のリズム牛耳る腹の虫
 やんわりとしかられている夜の底

竹原川柳会(広島) 古田 太虚報

一人身に慣れて仏に見守られ
 身勝手な言い分民を司る
 定数減を唱えて誰も身を切らぬ
 身に覚えないと昔を切り捨てる
 忘れぐせ人間失格近くなる
 忘れたい過去が時どき顔を出す
 忘れたい過去が日記につめてある
 流れ雲忘れたいこと置いてゆく
 歳月が優れたい忘れさせて呉れ
 忘れたいことがいっぱいある枕
 忘れない忘れられない蝉しぐれ
 飲んだはず錠剤ひとつ飲み忘れ
 ラムネ飲む浴衣の二人遠火花
 うまい酒飲んで和解の手を握る
 乾杯乾杯飲めぬ私になみなみと
 飲めぬ人ばかりの宴で子が主役
 下戸の父我には酒を飲めと言う
 可愛いね髭のおじさんミルクティー
 誕生日ワイングラスで飲む麦茶

久美子
 ふさゑ
 花峯
 氏加子
 一花
 霜石
 洋子
 和香子
 栄香
 幸子
 昭紀
 寛
 規代
 汎美
 鬼焼
 比呂子
 輝恵
 蘭幸
 敬子
 半徳
 弘子
 節生
 笑子
 栄恵
 宣之
 慶子
 千代美

骨粗鬆症牛乳五本飲んでみた
こげついた鍋ありがとうさようなら
胡蝶蘭自信と気品持つて生き
十人で暮らした家も老夫婦
カーブもバレーも負けて早寝します
ママと呼び追いかけられるありがたさ

川柳塔すみよし(大阪) 森松まつお報

何もない家の中にもある危険
すぐ怒るわたしを子等が危険物
戦争が世界の平和ぶちこわす
誘惑にうっかり乗った落とし穴
平凡な暮し危険は不意に来る
面白い楽しい危険の匂いする
危険ですとなりにあつて不幸です
極楽へ行くにもきつとある危険

EUで世界経済大嵐
満足のグラフを偶に自戒する
健やかに身の丈生きて満たされる
サービスク見ると満足度が下がる
やつと出来た満足のいく旅支度
妻留守で大満足の一人酒
書き終えた写経心が満ちてくる
三分の診察満足に聞けず
酒なら満足お茶では不満足
満足を噛みしめている晩ごはん
風向きを反転させた言葉尻
美人は危険あんた絶対大丈夫
突風にさらわれました自尊心

淑子 歩美 貞子 初音 厚子 史子 直子 かりん 舞蹴 芳香 舞夢 ゆみ子 満寿恵 半銭 美世子 妙子 賢子 安代 廣子 大輔 隆昭 シマ子 いさお 重信 桃花 としお (矢)五月

原風景大震災が持ち去った
風雪もよっしゃ馬力で切り抜ける
風邪ですと言ったら医者「誰決めた」
肩書が取れて紙船飛ばす
言い勝つて心に咲いたからっ風
砂漠化の村が一夜で風に散る
ナイフには素手でいつでも勝つ自信
ナイフのナイフは未来信じてた
入刀のナイフは未来信じてた

和歌山三幸川柳会 武本 碧報

ナイフより箸を使って旨し国
エンピツをナイフで削る文化消え
思いやり欠けてナイフになる言葉
切れ味が良ければ刺身味が増す
ペーパーナイフきれいに截れる袋とじ
ナイフでも愛の赤糸切れやせぬ
春の絵を二つに折って蝶にする
やさしさは花の雫のほどいい
落ち込みを一気に戻す誉め言葉
懐メロに平成の歌仲間入り
つづいたら歌い出しそうルノール
大声で歌うどうでも良くなった
無意識に鼻歌が出る良き日なり
読経かも声明の音に聞き惚れる
防人の歌が聞こえる北の海
雨垂れの音につられて出る演歌
口ずさむ歌で青春追いかける
その歌はやめて思い出つらすぎる
哀しくて歌う嬉しくて歌う

福貴子 ふりこ 克博 英夫 大子 哲夫 由一 朝子 一歩 満知子 公平 宏造 敏晴 宏夫 和子 敏照 陽子 知香 みね 彦弘 絹昇 悦子 美羽

今日もまた平気な顔で生きている
抜かれても抜かれても又伸びる草
悪いことは悪い隣の子も叱り
七転び何があつてももう平気
穏やかな口調で嘘を吐く恐怖
平気では居れぬ総理の舵裁き
うちの子はうちの子母は動じない
平気ではない年金の暮らし向き
羊水の中で聞いているママの声
浮動票などと私は言わさない
主義主張一点張りで浮いている
裏漣しかける和本音浮いてくる
浮き浮きと鼻歌唄い暮らす幸
嘘は嫌たとえ一億積まれても
札束を積んで政治を汚される
たぎるもの積んで五月の始発駅
積むほどに徳が顔からにじみ出す
逝つた吾子賽の河原で石積むか
核なき世オバマの背に積む願ひ
善ひとつ深い祈りの中で積む
介護ロボ買う日のために積み立てる
一善ずつ積んで仏になるのです

川柳塔打吹(鳥取) 野口 節子報

天国の階段チエックして登る
手を繋ぐ前に手の平チエックする
残量チエック愛が5グラム足りません
市松模様五輪マークに開花した
DNAチエックせんでもあなたの子

ひろ子 明子 あき子 起世子 義雄 英夫 章子 昭枝 当枝 ダン吉 義泰 菜摘 弘子 よしこ 准一 幹子 日出男 富香 次根 保子 照彦 三津山 芳山 龍枝 道子

尖つてる所がないかチエックする

軒下を二羽のつばめがチエックしに

幸せをケースに詰めてチエックイン

チエックしてつかんだ筈が二級品

車間距離チエックの余裕ない若葉

湖に一滴二滴ほどの僕

砂時計ポトポト命きざむ音

傾けたスマホから滴るトーク

ポトポトと昔話が落ちて来る

赤い血がポトポト落ちる総務会

無い知恵を絞りポトポト苦い汗

野に遊びポトポト血止めよもぎの葉

ポトポトとしつけの中で歩いている

原子核殺すに百億年かかる

遅れたらガラスの靴が待っている

反応が遅くて三日目に痛い

遅い春過ぎて世間が狭くなる

待つ時は時計の動き遅くなる

でしゃばって又苦を背負いしまったな

苦痛から逃れる道も金次第

弁解に東京都知事四苦八苦

舐められぬように苦虫飼っている

女房の高軒だけ苦にならぬ

今夜また蕨タラの芽路のとう

ご苦労さまです大腸内視鏡

今日の貴男は苦いかどうか舐めてみる

あかつき川柳会(大阪) 山本 昌代報

逆風に夢はつばみを守り抜く

久江 貴恵

清 たいけ

玲坊 芳光

美知江 節子

干啓 久芽代

完司 みち子

石花菜 義人

公恵 美美子

悦子 陽之助

滋 紀美恵

重利 重忠

野蒜 紀の治

美ツ千

留里恵

高すぎた夢であつたと消えてから

少しづつ縮んで消えたでかい夢

トンネルを抜けると夢のドア開く

昨日より夢を広げて生きている

栄転の夢が消え去る内示の日

朝夕に葉を飲んで明日の夢

いにしへの夢が飛び出す亀の石

体重を五キロ減らしてスーツ着る

颯爽と崖に咲きたい百合の花

本能が欲しがり出すと黄信号

人類の欲しがるものは平和な世

夕焼けの欲しがっている寺の鐘

美智子 喜代志 久美子 たもつ 隆昭

堅坊 寿子 忠昭 廣子 康信 朝子 英夫 福貴子 浩夫 義泰 高鷺 信子 鮎子 武

蕉子 穂夫 敏子 紀乃 善之 生枝 一文 壽峰

安全な人と言われてもてている

緊急事態法では現場安全守れない

温暖化安全ベルトいる地球

ボタンとれ安全ピンでとめておく

気いつけて帰るや母のかい声

サークル檸檬(大阪) 松尾美智代報

裏読めば種も仕掛けもある手品

ただいまは小休止です悪しからず

手品師はため息を小判にかえる

ゆつたりと構えて負けをみとめてる

手品師もびつくり化粧する前後

出す手品全て失敗黒田某

手抜き技覚え生き方案になる

手品師は指に保険を掛けてる

鳩が駄駄こねて手品師困らせる

曲がりそうな背中ブライドが支え

愚痴るたびじわりと老いがしのび寄る

川柳あまがさき(兵庫) 大浦 初音報

はにかんでいます真つ赤なブチトマト

惚れてるな赤い帽子で逢いに来る

いけいけとどんボジティブ志向です

どんとどんと元気になれるスニーカー

どんとどんとあの世が近くなるんだね

茶助 九条男 栄子 克己 恵美子

房子 義子 智恵子 いわゑ 光久 昌紀 久仁雄 たもつ 美智代 扶美代 希久子 楓 楽

ひとみ 柳明 初音 和子 洋子 雪菜 紀恵 つな子

曼珠沙華手をつないで見た淡い恋

佐紀子

むつつりが護憲の旗を振っている

清

染め抜いたあの一言は我が宝

左余

斜め読み真似してみても残らない

健二

公約は票を集める空手形

喜代志

染まれない生まれ故郷のはずなのに

瑞人

開かぬ戸をどんどん叩く朝帰り

祐康

むつつりな弁護士さんは流行らない

忠太

ふぐ刺を醬油で染めて呪まれる

弘充

もう自棄や赤いハッピで甲子園

修平

密約を華奢な小指に迫られる

五月

薬というギンギラギンに染められる

たけし

夕暮れの優しい光斜めから

りこ

むつつりで山ほどかける唐辛子

幸子

託すものなくて私は馬の骨

芳山

どんどんと記憶がうすれかすみ草

紀華

広辞苑はやり言葉に追い付けず

信二

プランコの揺れ次世代へ託される

博子

斜めから見た真実は気難しい

晶子

愛情も小出し諭吉を漱石に

蕉子

託される秘伝眠れぬ塩砂糖

とも子

好きな服おなかに無理をさせている

耕治

流行無視古い背広で押し通す

願

パンあまるアンパンマンに託します

輝山

斜に構え進むか引くか迷ってる

比ろ志

人間のエゴが招いたエコライフ

隆昭

魔屋がどうするのかと問いかける

邦代

赤っ恥かかせて都知事旗あげる

靖鬼

究極のエゴはヒト科のいない星

ダン吉

低飛行託した噂君と会う

妙子

恰好いいちよい悪何か味がある

かずお

倍返し流行ってほしいゼロ金利

大輔

振り向くな託すと決めた帰り道

孝子

猪口一杯気ほんのり赤い顔

純

娘逝くそほ降る雨に送られて

珠子

行く先を託したバツ足に乗る

紗季

血の色に染めたくはない日章旗

宏造

なつかしいお鍋持参のお豆腐屋

妙子

人生の露地に先達いる余生

草庵

空を見る親しい友が語る雲

見清

惚れた弱み待ってましたよ三時間

英夫

先輩の前で何にもようせんわ

注湖

ブラタモリ好きな孫へと日本地図

正和

流行かなあ近所も知らぬ家族葬

ひろ子

小さいが重い命だ赤子抱くも

桂子

どんどんと心の窓へ遠花火

歌留多

その時の風で約束裏返る

浩子

小さいしずくで元気もり上がる

ちえこ

人混みの向こう見上げる大花火

紀乃

流行に疎い私は安上がり

ふさゑ

一滴のしずくで元気もり上がる

柳歩

幸せですほど良いパンの焼け具合

美籠

むつつりとしている顔が素顔です

益男

立て替えた小銭の事が言い出せぬ

千里

お菓子司の指は季節の風作る

奮水

究極のエゴは長生き医者知らず

みつ江

大きな悪事小さな部屋の密談で

あきら

信じた道どんどん進む迷うまい

ヨシエ

戦争はしない約束です総理

六泰

ちっちゃいやが産湯を使う宝物

みちを

岸和田川柳會(大阪) 佐藤 幸子報

昭

懐に合わせ暮らせばエコロジ

律雄

小さいでも大きな度胸太っ腹

雪代

柳塔まつえ吟社(島根)相見 柳歩報

泉

膝の塵払ってもらい頬染まる

昌枝

トリックのようにあなたに抱かれてる

美智子

おじいさんそこは笑える所です

カズ子

白無垢も七色に染め早八十路

幸子

都知事でも軽い気持ちで受けてやる

哲子

約束の二文字が重い君と僕

勝彦

自分色に染めて貰方は天国へ

幸子

軽い気度つかんでみたら熊の足

青帆

八月六日今年は鶴を折るつもり

和美

軽々と娘男にさらわれる

幸子

軽い気度つかんでみたら熊の足

俊子

あの人にはむつつりしてて子が五人

一子

軽々と娘男にさらわれる

幸子

軽々と娘男にさらわれる

久絵

流行の波にのせられ個性なし

一子

自分色に染めて貰方は天国へ

幸子

軽々と娘男にさらわれる

久絵

曲がり角軽い約束してしまふ

西宮北口川柳会(兵庫) 藤井 宏造報

寿代

一歩前進みたくつて吸う刺激
ストローの先でうろろして恋
笑いつつ作るサラダの元氣よき
タバコ吸う俺はそのうち非国民
滑り台の上で生れてきた度胸
ごきぶりホイ妻の度胸に光る技
コースター度胸がぬしの遊園地
あと一歩の度胸がなくして古希の恋
席譲る度胸は愛と思ひやり
子の為となれば度胸が据わる母
時々は作り笑いをして凌ぐ
貧困と差別がつくるテロリスト
とびきりの笑顔作って自撮りする
若作りしても背中が曲がつてる
作り手の心伝わる備前買う
つくりごといつかはばれるほどほどに
豪雨続き大地堪らず崩れ出す
エアコンを新調夏を迎え撃つ
窓の外騒がしいけどマイペース
船出の子船先の向きは信じよう
嘸み合えば家も世界も平和です
恋らしい何を言っても上の空
酒下げてやってくるのは拒めない
蛇行せよあせることなど何もない
選挙終る憲法の重みこんなもの
総掛り地球を守る樹を植える

わこ 千賀子 恭子 盛夫 比る志 武臣 みよし 紀華 一徳 千恵子 宏造 敦子 正和 利子 じろう 浩司 勝弘 弘子 美津子 和宏 武彦 宣子 ひとみ 洋次郎 哲子

総掛り産まれる時も死す時も
協力した花がいつぱい咲いた街
水害地みな精を出す後始末
人の群れ吸い込む朝の大会
有り金を全部吸い取るパチンコ屋
時間かけ美人の口吸う救命士
梅雨明けぬ湿ったままのトラ打線
新議員受けた請託忘れまじ
匿名止め度胸で載せるツイッター
豊中もくせい川柳会(大阪) 藤井 則彦報

いわる 千代 光子 秋果 伯備 邦男 忠彦 靖夫 ヨシエ 堅坊 求芽 きらり 歌留多 美佐子 武彦 美津子 雀舎 真理子 健二 (氷)玲子 健三 靖鬼 宏野 遠野 満子

鏡に映る姿どこまで僕なのだ
何げない暮らし大事と気づく今
有頂天の耳には届かぬ蟬の声
コンチキチン浴衣が映える河原町
フクシマの波紋を消して成りませぬ
届けたい気付けなかつたありがとう
隠居でも口は現役そのまんま
ファックスの届いた返事いりますか
立ち直るまでしばらくは手を貸さぬ
梅雨が明けしばらくは夏籠り
全身の骨上に伸ばしてやつと箱
アルバムの中にしばらくもぐり込む
戦後期を生きた昭和のねばり腰
川柳藤井寺(大阪) 鴨谷瑠美子報

則彦 美智代 正彦 美籠 武臣 葉子 見清 玲子 久子 かずお 公子 耕治 黒兔 扶美代 みつこ 美代子 一文 婦美枝 フジ子 育代 キーキー いさお 千代 弥生 真一 喜代子 シルク

独り居の夫婦茶碗は欠片なり
恐竜の骨かも知れぬ此の欠片
それぞれが勝手気ままにする家族
晩成の木にもそれぞれ実が育つ

岩美川柳会(鳥取)

山下

節子報

梨伐つてソーラーパネル植えている
匙投げて撒き餌すると釣れだした
投げやりな態度に味方ついて来ぬ
掃除機でスランプ吸って閉じ込める
投げられた浮輪に油断してしまふ
寝ぬ言葉で草まで伸びる我が畑
投げつけた言葉ですと自己嫌悪
スランプの苦渋に耐えて花咲かす
ジंकスが夢の帆柱揚げさせぬ
麦畑に麦藁帽が二つだけ
スランプへ悪魔が誘う白い粉
今日もまた好きな畑で日が沈む
いい笑顔だった夢の中逢えないね
候補者が畑の票へ革靴で
夢の中若き夫に惚れ直す
投げたらあかんたった一つの命だよ
スランプを凌いだ顔にみる自信
夢語る子供の瞳がやい

大山滝句座(鳥取)

新家

完司報

酌み交わしながら名前が浮かばない
もう一人わたしがいます夜の窓

紀の治
くにこ

絹子
雅枝
光男
瑠美子

完司
重忠
圭一郎
一粋
一瑤
天翔
茶子
公子
美恵子
蟹郎
たぬ
菖子
清帆
幸安
敏子
雅女
弘子
節子

いつ迄も続くつもりでいる明日
昭和の和つけた名前の多いこと
掛時計平和を刻む音がする
ときどきは止まって欲しい時なのに
最後尾に近付く僕の定位置が
空っぽの輪郭だけで立っている
一世紀歩き続けてグッドバイ
だんだんと影がほやけてくる私
水掛け論一言多い者同士
鮪がそこに昼飯なんか食つとれん
畳に障子大の字になる気持良さ
ボケたと言う人に頑張れと言われ
国も子もやんちゃ坊主が和を乱す
亡母と娘の遠い思い出フォト一枚
あの山並は恋した人に続く道
物言わぬお金に言葉教えたろ
ダイエツト昼はガツツリ豪華版
悪知恵が湧くからまだ逝きません
蚊やブトはたかるが男寄つて来ぬ
赤字でも続けています米作り
ガジユマルの根つ子は負けん気の形

翠洋会(大阪)

佐々木清作報

米寿足ふらつくけれど宝物
健脚で今の内にと遠い旅
ガンバレともつれる足に孫の檄
新ネタをつかんで記者のペン走る
政治記者だんだん心暗くなる

公平
舞夢
げんえい
照子
恭昌

幸子
雄大
楓花
大鯰
正人
麦青
石花菜
照彦
美ツ千
蟹郎
風露
けいこ
規雄
コスモス
幹啓
道唱
鈴野
重忠
希楽良

政界の汚職探しに記者が飛ぶ
ネット炎上一億が記者になる
オフレコが第一面を飾つてる
弾圧に折れない記者のシャープペン
グルメ店探訪記者になるが夢
文春のスクープ載せたすごい記者
正面から斜めから切る記者のペン
心打つ記事挺身の記者がいる
誤報記事ひとの命運左右する
一糸乱れぬ鯛の群れを見てあきず
親族が揃う静かなクジラ幕
そこそこに揃いそこそこに幸せ
金で買えるもの揃えてこころ飢え
聞き役に回つて楽に生きている
良い匂い嗅いでヒントした夕餉
苦虫を噛みつぶしたら気が晴れた
広い世間を狭くしている自画自賛
母さんは今日も家族の天日干し
人気出て思ある人を忘れがち

川柳ねやがわ(大阪)

籠島 恵子報

ふつきたたの未練と飲んでいる
急ぐごとキツバリ捨てた定年後
挿し木して未来へ夢を膨らます
寝顔には血筋通りの期待感
童顔を残り幕下朝げいこ
ありがとうその一言でよみがえる
和やかな雰囲気醸す人がいい

寿子
薫
博泉
あさ子
弘委智
高志

善之
眞澄
敬子
弘子
蕉子
紀子
希久子
理恵
満作
桃花
良子
すみ子
富子
捷也
千歩
志華子
昭
日の出
楓楽

ちよんまげを結いたく今日も四股を踏む
 秀雄
 ふんわりのビールの泡がたまらんわ
 朝子
 梅雨明けへ急ぎ紫陽花七変化
 祥昭
 ふんわりと豊かにルノールの女
 茜
 ふんわりと言えふんわりぬくい風
 ルイ子
 ポケットの中で発芽をする創意
 洋
 ふんわりと厳しいことを言うている
 忠央
 ふんわりと愛し愛され五十年
 弘一
 いじめつ子闇を覗いたうつろな目
 郁夫
 ふんわりと花にもつれて暮らしたい
 修
 一夜きり蜜ふんわり身をこがす
 鈍甲
 弓なりに肌すり寄せて百日紅
 一
 幕末から未来の綱へ汗を積む
 賢子
 ふんわりと着地しましたタンポポは
 さち子
 ウィンドー映る姿に背を正す
 信子
 スクロールしても戻ってこない愛
 亜成
 ごまかしの利かぬ私の影法師
 かすみ
 この夏を乗り切る水を飲んでいる
 恵子

六甲川柳会(兵庫) 市坪 武臣報

初恋のかけら刺さったままの喜寿
 洋次郎
 初恋の夢もみならずまだ一人
 弘子
 なつかしい初恋という喫茶店
 邦子
 初恋の味夜店で食べたカキ氷
 盛夫
 声もなく過疎化が進み荒れた家
 芳江
 一票の重さ出口で胸を張る
 照子
 七夕の笹に重たい願いごと
 正彦
 大空へひよいと五感を放り上げ
 千賀子
 大の字になって見上げる青い空
 利子
 平凡が非凡と悟るこの歳で
 じろう
 娘のおなか生命が宿るおくりもの
 加寿子
 妻は留守酒と昼寝の小宇宙
 敏夫
 ぬぎすてた靴下つかれぐったりと
 夏子
 父の日が年に三日は欲しいけど
 洋一
 のびのびと手足伸ばせるマイベッド
 忠貞
 のびのびの返事を聞かれ何でした
 浩司
 のびのびと一人カラオケ無礼講
 文香
 雑草が棚田に繁る過疎の村
 美穂
 のびのびと育つて欲しい呱呱の声
 光久

川柳さんだ(兵庫) 田中 章子報

大根のようになりたいたい色白に
 歳子
 種蒔きの時期を誤り芽が出ない
 野薫
 装いのポケットチーフ華やいで
 つな子
 要するに議員減らせば減る歳費
 博
 黙っている子のほうから抱き寄せる
 ひとみ
 食べ放題胃薬先に配ってる
 宣子
 ユーモアを配り続けてまだ老いず
 哲男
 誰にでも無償で配る陽の光
 淑子
 試験用紙配る先生今日は鬼
 美智子
 親友の欠席気になる老人会
 雄太郎
 香る桃お裾分けする猛暑の日
 恭子
 乾杯の長口上に手があせる
 健二
 ゆるやかに波打つ恋が芽生えだす
 順子
 くねくねの先も都よ住み馴れる
 迪
 くねくねと見えてる方が夫です
 彰
 くねくねと人生航路まだ未完
 キヨミ
 立ち話してたら犬が熱中症
 隆
 鳥たちのお腹を借りて種を残す
 哲夫
 色々な涙見えてきた貸し衣装
 修平
 急ぐまいこの世まだまだ面白
 一子
 味のある顔と言われて見る鏡
 好文
 当選後下げた頭がイナバウアー
 雅尚
 真白の紫陽花亡父が好きでした
 千津子
 老妻に好んでなつた訳でない
 美籠
 雑草に埋もれひっそりナスキュウリ
 祐康
 悪夢から覚めた人から天国へ
 加代子
 玉の輿どころかロイン五十年
 花門
 吾輩は村一番の愛妻家

句会名	日時と題	会場と投句先
川柳塔 みちのく	17日(土) 17時締切 飼う・しっとり・不通	弘前市松森町73「レストラン・セーブル」TEL0172-36-6614 〒036-8275 弘前市城西1-3-10 川柳塔みちのく事務局 稲見則彦 宛 TEL0172-36-8605
川柳 ねやがわ	18日(日) 13時締切 いやらしい・残念・途中 自由吟	産業会館 3F 〒572-0063 寝屋川市春日町9-9 高田博泉 内 川柳ねやがわ
川柳 藤井寺	18日(日) 14時締切 鍵・ギター・席題共選	藤井寺市立生涯学習センター・シラホール 3F 近鉄南大阪線「藤井寺」駅下車南へ徒歩10分 〒583-0023 藤井寺さくら町2-2-201 高田美代子
あかつき 川柳会	19日(月) 13時締切 創立15周年記念川柳大会	エル・おおさか 川柳塔誌8月号43ページ参照 〒581-0014 八尾市中田2-312 前田紀雄
豊中 もくせい 川柳会	19日(月) 13時45分締切 仮面・分ける・ふと・自由吟	豊中市中央公民館 3F 阪急宝塚線「曾根」駅 徒歩5分 〒569-0073 高槻市上本町5-26 初代正彦
川柳 さんだ	20日(火) 13時30分締切 台風・サンプル・焼く おろおろ・自由吟	JR「三田」駅前 キッピーモール6階 〒669-1545 三田市狭間が丘5-10-19 谷 祐康
川柳 たちばな	21日(水) 14時締切 印象吟・車・自由吟	立花公民館 (尼崎市塚口町3-39-7) 〒661-0953 尼崎市東園田町3-49-5 藤井宏造
南大阪 川柳会	24日(土) 18時開場 渋い・豹変・居眠る・雑詠	大阪市立住まい情報センター 5F 研修室 地下鉄谷町線・堺筋線「天神橋6丁目」駅③号出口 〒540-0004 大阪市中央区玉造1-16-13-304 前たもつ
川柳塔 すみよし	24日(土) 14時15分締切 背中・静・カラカラ	住吉区民センター 〒558-0054 大阪市住吉区塚山東2-4-9 古今堂蕉子
岸和田 川柳会	24日(土) 12時30分開場 居心地・老いる・懐かしい ユーモア	岸和田市立福祉総合センター 南海電車岸和田駅より徒歩5分 〒596-0067 岸和田市南町9-17-818 藤井康信
和歌山 三幸川柳会	24日(土) 12時30分開場 まだ・食べる・反省	和歌山商工会議所 4階 第3会議室 〒640-8570 ニュース和歌山編集部 「和歌山三幸川柳会」宛
はびきの 市民会 川柳会	25日(日) 14時締切 満・喜ぶ・クイズ	陵南の森公民館 近鉄「高鷲」駅北東 徒歩10分 〒583-0864 羽曳野市羽曳が丘1-11-8 徳山みつこ
川柳 ふうもん 社	25日(日) 13時30分開場 潮時・ハンデ・どっかり	開発ビル 2F ホール 〒689-0202 鳥取市美萩野2-171-3 中村金祥
京都 塔の会	28日(月) 14時締切 アタック・まずまず・材	京都ハートピア 地下鉄丸太町駅⑤出口すぐ 〒607-8231 京都市山科区勤修寺堂田70-16 榎本宏子

★日時・会場などが変更になる場合は、本社事務所(06-6779-3490)へご連絡ください。

9 月 各 地 句 会 案 内

(開催日順)

句会名	日時と題	会場と投句先
川柳塔 なら	1日(木)14時締切 疲れ・まだ・習	奈良市立中部公民館 4F 奈良市上三条23-4 近鉄奈良駅④番出口徒歩5分 〒633-0054 桜井市阿部787 松本方 安土理恵
城北会 川柳	3日(土)14時締切 失う・空気・ひやひや 自由吟	旭区老人福祉センター 3F 地下鉄谷町線 千林大宮駅③番出口 〒536-0001 大阪市城東区古市1-8-14 江島谷勝弘
倉吉会 川柳	3日(土)14時締切 らしい・相性・たかが	倉吉市明倫公民館 〒689-2221 鳥取県東伯郡北栄町由良宿2072-17 谷口次男
川柳塔 まつ え社 吟	3日(土)13時30分締切 ぬるい・熱心・運ぶ・特別	松江市雑賀公民館 〒690-1223 松江市美保岡町笠浦222-1 相見柳歩
川柳大阪	10日(土)14時締切 紅葉・ギリギリ・傾く	地下鉄・長堀鶴見緑地線 京橋駅「研修室」 〒534-0021 大阪市都島区都島本通4-11-6 山崎珠生
川柳塔 わかやま 吟社	10日(土)14時10分締切 兼題=孫の手・団栗・とても(逆も) 課題吟=漬物	和歌山ビッグ愛 〒640-8319 和歌山市手平2-1-2 兼題 〒640-8453 和歌山市木ノ本890-12 宮口克子 課題吟 〒592-8349 堺市西区浜寺諏訪森町東2-208-5 桑原道夫
川柳塔 打吹	10日(土)14時締切 秘密・たっぷり・ほのほの	倉吉市上灘町9 上灘公民館 〒682-0034 倉吉市大原637-3 牧野芳光 方 川柳塔打吹 事務局
八尾市民 川柳会	11日(日)14時締切 贅肉・がくがく・奏でる・雑詠	八尾市洪川町 安中町集会所 1F JR「八尾」駅から徒歩5分 〒581-0083 八尾市永畑町2-1-7 土田欣之
西宮北口 川柳会	12日(月)14時締切 発見・付け入る・御の字 自由吟	西宮市立中央公民館 6F 阪急「西宮北口」駅南出口徒歩3分「プレラにしのみや」 〒663-8112 西宮市甲子園口北町27-4-602 梅澤盛夫
川柳塔 さかい	13日(火)13時開場 星・哀しむ・折句・かえで	堺市総合福祉会館 〒590-0016 堺市堺区中田出井町3-4-31 村上玄也
川柳 あまがさき	13日(火)14時締切 続く・煙・ほどほど・自由吟	尼崎市女性センター・テレビエ 阪急「武庫之荘」駅南へ200m 〒661-0033 尼崎市南武庫之荘5-20-14 加川靖鬼
ほたる 川柳 同好会	13日(火)13時30分締切 味・探す・こっこつ	豊中市立蛍池公民館 阪急・モノレール 蛍池駅前ビル 5F 〒561-0813 豊中市小曾根2-4-1 水野黒鬼
富柳会	17日(土)12時締切 富柳会 第66回 川柳大会	富田林すばるホール2階 小ホール 川柳塔誌8月号49ページ参照 〒584-0043 富田林市南大伴町4-1-10 川柳とんだばやし富柳会 池 森子

柳界展望

★第19回大阪弁NAMB Mなんなん川柳コンテスト。同人成績。

なんなん大賞 福田 好文
うちかって爆買したい
百均で

★第9回松江市民川柳大会。同人成績。

秀句 齊尾くにご
待てという右岸告白する左岸

秀句 齊尾くにご
蛇行する濁流岸は食いしがる

秀句 齊尾くにご
ルビコンを渡れと鬼がそそのかす

秀句 新家 完司
手料理と酒でうさぎに

秀句 両川 洋々
発狂の一步手前にある
無言

★夜市川柳大会。同人成績。

秀句 山本希久子
銀河系みんな他人で皆仲間

秀句 田中 みね
火の玉となつて取り組む好きな道

秀句 三宅 保州
現実の厳しいものと知る鏡

秀句 新家 完司
金魚掬いにも先生がおられます

秀句 山本希久子
有難う積んだ歳月が弾む

秀句 米澤 俣子
レントゲン大きな息は久しぶり

秀句 齋藤さくら
頑張れの声にしびれて頑張れた

秀句 三宅 保州
錆びぬよう私を磨き続けます

▽お詫びして訂正△
▼7月号P1187行目の秀句石谷美恵子→両川無

限。
▼7月号P97中段16行目「どちらまでちよつとそ

こまであささよか」は本人の申し出により削除。
▼8月号P51上段22行目、鳥沢無牛→鳥沢無午

▽新誌友紹介△
福山市 田辺与志魚

紹介者 小島 蘭幸
大阪市 森 廣子

紹介者 松尾美智代
大阪市 吉田 薫

紹介者 大内 朝子
大阪市 中村 勝弘

紹介者 安土 理恵
那覇市 前川 真

紹介者 宮城スミ子
豊見城市 下地 順子

紹介者 沖縄県 高良 秀光
河内長野市 森山 文切
河内長野市 楠本 和代
河内長野市 増田 清乃

河内長野市 大久保悦夫 常任理事会 8月5日(金)
河内長野市 松浦 五月 ①新年度常任・理事につ
河内長野市 中島 一彌 いて②川柳塔まつり準備
紹介者 坂上 淳司 担当確認③財務あれこれ
鳥取県 石田 隆彦 ④こうやさん合祀対象者
紹介者 松田 道唱 ⑤定例確認事項
新家 完司 次回 9月7日(水)AM10時

新同人紹介

栗田忠士

一みのり・光・茂代・善信推薦

多田雅尚

一正和・哲男推薦

山崎珠生

一勝弘・まつお推薦

藤^{ふじ}

— 成^{なり} 操^{みさ} 江^え
— 蘭幸・完司推薦

紫^{むらさき}

— しめの
— 蘭幸・完司推薦

山^{やま}

— 縣^{がた} のぶ子^こ
— 蘭幸・完司推薦

高^{たか}

— 岡^{おか} 茂^{しげ} 子^こ
— 蘭幸・完司推薦

大^{おお}

— 治^じ 重^{しげ} 信^{のぶ}
— 遠野・蕉子推薦

第68回 大阪川柳大会

日時 10月5日(水) 12時20分開場
場所 大阪市立住まい情報センター
3階ホール
530-0041 大阪市北区天神橋6-4-20
TEL 06-6242-1160
※地下鉄 堺筋線・谷町線・阪急線
「天神橋6丁目」下車3号出口より連絡
※JR大阪環状線「天満」下車 北へ660m

会費 1500円(発表誌呈)
宿題 (各題2句 席題なし)
「荒れる」 松原 寿子 選
「人間」 森口 美羽 選
「ごめんなさい」 了見 茶助 選
「福」 赤松ますみ 選
「覚悟」 久保田半蔵門 選
「のびのび」 山崎 武彦 選
「壁」 吉川 哲矢 選

締切 13時20分
披講開始(予定) 15時10分
賞 各題秀句に大阪市長賞贈呈(副賞)
主催 番傘川柳本社・川柳塔社
川柳文学コロキウム
川柳天守閣・川柳瓦版の会
後援 大阪市

第39回 神戸川柳大会

日時 10月30日(日) 午前10時開場
場所 兵庫県中央労働センター 2F 大ホール
神戸市中央区下山手通6-3-28
(JR元町駅・阪神元町駅西口から西北へ15分)

兼題 (各題2句・欠席投句拝辞・未発表句)
「軽い」 川人良種 選
「嵐」 安部美葉 選
「疑う」 三宅保州 選
「羽化」 野島全女 選
「占う」 矢沢和 選
「泡」 村上水筆 選
「雑詠」 岡田篤 選

会費 2000円 各題秀句に賞呈

事前応募の部

課題 (各題1句・未発表に限る)
「期待」 大森一甲 選
「騒ぐ」 長川哲夫 選
「花」 小山紀乃 選

応募要領 所定用紙・原稿用紙・便箋1枚に句を列記

投句料 1000円(郵便小為替)
締切 9月10日(土) 当日消印有効
投句先 〒662-0831 西宮市丸橋町4-47

甄受 彰 宛
TEL 0798-67-6310

主催 神戸川柳協会

編集後記

★蕎麦の花 地球滅びる
など思えず 薫風

★年齢のせいとか、体調のせいとか、最近読書の傾向が変わった。悲惨なもの、残酷なものは手に取るさえないやである。と言う訳で最近読んだ本。「八十日間世界一周」「秘密の花園」「ジャングルブック」「幸福な王子」・・・。

★お気づきのようには、いわゆる児童書である。そしてこれから読む予定で積んである本。山田太一「月日の残像」御手洗瑞子「プータンこれだいいのだ」梨木香歩「エストニア紀行」群ようこ「おとこのるつば」などエッセイばかり。

★そんな時に手にしたのがブックマン社から出した「ランドセル俳人の五七五」。作者・小林凜

くんは二〇〇一年大阪生まれ。「いじめられ行きたし行けぬ春の雨」一歳で不登校に。「春の虫踏むなせつかく生きてきた」は八歳の時の作品。

「夕焼やもう居ぬ祖父はどの雲に」生きるとは俳句を詠むこと。凜くんの叫びが心に刺さる。五七五には人を支える力がある。

★今年の4月24日福岡県柳川市で「川柳葦群」創立10周年記念川柳大会が開催された。大会 懇親宴のあと森中恵美子先生の部屋へなだれ込む。久保田半蔵門さん、野沢省悟さん、大西泰世さん、萩原典呼さんと私。恵美子先生の代表句「子を産まぬ約束がある雪しきり」が酔った誰かの口から出た。約束の相手は誰か、を肴に大いに盛り上がった。

★川柳大会の愉しみは大

ひとこと

出会いに感謝

週三〜四回のペースで体操教室に通っている。機械も使いますが色々コーチが指導してくれるので楽しく出来ている。この教室で実に様々な人達との出逢いがある。心臓にペースメーカーを入れている美智子さん。四度の癌手術を乗り越えりハビリする鶴子さん。糖尿

親の介護を続ける若いよし子さん。最高齢は92歳の可愛い大先輩まで。皆さん明るくよく喋りよく笑う、そんなお一人お一人にいつも気付きと元気をもらっている。健康な体と自由の時間がありながら、すぐ不平不満を口にする私はお仲間感謝しつつこれこそ我が一句を指して、努力して参りましたと思います。(内田志津子)

会もさることながら、懇親会などでの人と人の交流にある。せつかくの大会参加。多くの人と川柳論を闘わす、というのは大げさとしても、挨拶をする、言葉を交わすことを、その人の作品の背景を知る、理解するきっかけになると思う。

★10月1日。川柳塔まつり。皆さまにお逢いできるのを楽しみにしています。(朱夏)

ポケモンGOの国内配信が7月22日に始まった。

ポケモンは20年前に日起を求めている。ただで本で生まれたキャラクタードだが、今回のブームの要因は、現実の世界に生息しているような感覚になれることだろうか。

○各国でポケモン探しに夢中になった利用者による交通事故、地雷敷地帯への立ち入りも報告され、日本上陸を受け、内閣サイバーセキュリティセンター(NISC)は「安全に行動できるよう、注意点をしっかりと守ってほしい」と注意喚び方を考え、実践して欲しい。(まつお)

檸檬抄投句用紙

「塩」(9月15日締切)

11月号発表

安土 理恵 選 — 共選 — 北野 哲男 選

B A

--	--

地名

市都
道府
姓雅号

B A

--	--

地名

市都
道府
姓雅号

切らないで下さい

きりとりせん

◎楷書で正確に書き、15日までに到着するようお送りください。

左右に同じ句を書いて下さい

作品募集

川柳塔(8句) 小島蘭幸選
 水煙抄(8句) 西出楓楽選
 愛染帖(2句) 新家完司選
 檸檬抄「塩」(2句) 北野哲男共選
 (安土理恵選)
 インスピレーションナビ(2句) 大西泰世選
 一路集「乾く」 藤井則彦選
 (2句) 「羽根」 大久保真澄選
 初歩教室「スリル」(3句) 山口光久担当

11月号発表(9月15日締切)

12月号
 檸檬抄「無心」
 一路集「届く」「ドライ」
 初歩教室「平均」

本社9月句会

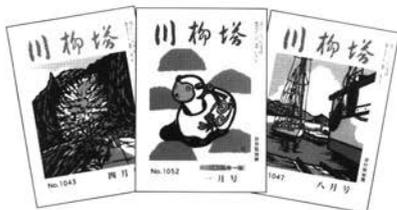
とき 9月7日(水) 13時開場・13時40分締切
 —開場時間、締切時間を変更しています。ご注意ください。
 ところ アウィーナ大阪 4階 金剛の間
 天王寺区石ヶ辻町19-12 電06-6772-1441
 おはなし「柳行一致」
 席題「病氣」
 兼題「ふたつ」「歪む」「ヒヤリ」「目先」
 会費 1000円
 投句料 5000円(切手可)
 (各題2句以内)
 小島蘭幸選 嶋澤喜八郎選 山崎武彦選 両川無限選 栃尾奏子選 松原寿子選 岩佐ダン吉選

本社10月句会は第22回川柳塔まつりとして、10月1日(土)に開催します。
 (表紙裏を参照して下さい。)

第35年度 夜市川柳募集

第4回「野暮」北野哲男選
 ハガキに3句 9月20日締切
 投句先 〒593-8305 堺市西区堀上緑町2-16-3
 河内天笑方 川柳塔さかい

川柳・俳句・エッセイ・小説
 新聞・広告・ポスター・伝票等
 あなたの思いをかたちにします。



美研アート

〒530-0022 大阪市北区浪花町9-4
 TEL (06) 6372-1178
 FAX (06) 6372-1196
 E-mail: bikenart@ea.mbn.or.jp

〒543-0052

大阪市天王寺区大道一丁目一四一七
 花野ビル201号室

振替 〇〇九八〇一四一五八四七九番
 電話 〇六六七七九一三四九〇番
 発行所 川柳塔社

定価 八百円(送料86円)
 半年分 五千円(送料共)
 一年分 九千八百円(同)
 二〇一六年(平成二十八年)九月一日発行
 発行人 小島和幸
 編集人 木本朱夏
 印刷所 美研アート

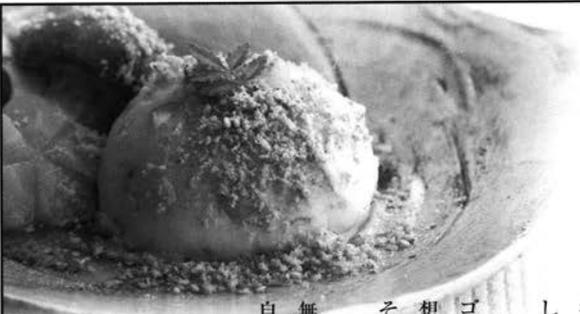
川柳塔のホームページアドレス

<http://www.senryutou.com/>

オニザキのプレミアムロースト



杵つき製法の「すりごま」



袋を開けた瞬間に広がる、
香ばしい薫り。舌と記憶に
しっかりと残る、深いコク。
料理をより美味しくする

ゴマを作りたい、真つすぐな
想いから生まれた逸品。
それが「プレミアムロースト」。

素材本来の良さを余すこと
無く引き出した、オニザキの
自信作をお届けします。



株式会社 オニザキコーポレーション
〒862-0951 熊本中央区上水前寺1-6-41 OCビルディング

TEL 0120-30-5050

第40回 鳥取県川柳大会

とき 11月5日(土) 午前10時開場
ところ 鳥取県立倉吉未来中心 小ホール

倉吉市駄経寺町212-15 TEL 08558(23)5390

JR山陰本線「倉吉駅」下車 西倉吉バス15分

出句締切 11時45分 開会 13時

三味線演奏 11時45分～12時15分

◆一般部門

宿題と選者(各題2句・席題なし・披講13時20分)

- 「動く」 福西茶子 選
- 「こりこり」 石橋芳山 選
- 「糸」 徳長怜子 選
- 「脈」 平井美智子 選
- 「埋める」 但見石花菜 選
- 「伸びる」 新家完司 選

出席者のみ事前投句

梨 小谷美ツ千 選

会費 2000円 (大会誌・昼食)

欠席投句 1000円 (9月30日締切必着 小為替)

出席者のみ事前投句「梨」(締切 9月30日必着)

投句先 〒682-0034 鳥取県倉吉市大原637-1 3 牧野 芳光 宛

◆ジュニア部門(小中学生に限る) 2句 投句料無料

宿題「歌(うた)」 森山盛桜 選

(締切 9月30日必着)

投句先 〒689-0423 鳥取市鹿野町中園180 森山 盛桜 宛

主催 鳥取県川柳作家協会

昭和四十一年一月九日 第三種郵便物認可
平成二十八年九月一日発行(毎月一日発行)
創刊大正十三年 通卷一〇七二号

川柳塔

九月号

定価 八百円(送料 八十六円)